少子化に関する県民意識調査

調査結果報告書

令和５年 11 月

岐阜県

目　次

１　調査の概要 1

１　調査の目的 1
２　調査の設計 1
３　回収結果 1
４　報告書の見方 1

２　調査の結果 3

回答者属性 3
Ⅰ　結婚・少子化などに関する意識について 10
【問１】　結婚の良いところ 10
【問２】　結婚相手を決める際に重視する点 13
【問３】　理想の子どもの数と予定の子どもの数 16
【問４】　子どもをもたない理由・予定の子どもの数が理想の子どもの数を下回る理由 19
【問５】　子育てをして良かったこと 23
【問６】　子育てをして負担に思うこと 27
【問７】　子育てにかかる家計への負担で大きいもの 31
【問８】　少子化への危機感 35
【問９】　少子化が与える影響 37
【問10】　安心して子どもを生み育てることができる岐阜県づくりを実現するための施策 40
【問11】　結婚を希望する人の結婚を支援する施策 43
【問12】　安心して妊娠・出産ができる環境を整備する施策 47
【問13】　育児を支援する施策 50
【問14】　地域社会の中であればよいと思う活動 54
【問15】　「ぎふっこカード」「ぎふっこカードプラス」の認知度 57
【問16】　「ぎふマリッジサポートセンター」の認知度 59
【問17】　「ぎふマリッジサポートセンター」の印象 61
【問18】　「早く家庭に帰る日」の認知度 65
【問19】　現在の仕事の状況 67
【問20】　女性の結婚・出産後の働き方 70
【問21】　女性が子育てをしながら働く上での問題点 72
【問22】　結婚、妊娠、出産、子育てなどについての自由意見 75

Ⅱ　仕事について（仕事をしている方のみ） 82
【問23】　子育てをする人にとって働きやすい職場か 82
【問23－②】　子育てをする人にとって働きにくいと思う原因 84

Ⅲ　育児について（子どもがいる方のみ）……87
【問24】　労働関連制度の利用……87
【問24－②】　育児休業を取得しなかった理由……90
【問25】　子育てへの関わり状況……93
【問25－②】　子育てへの関わりが不十分な理由……95
【問26】　子どもが生まれてからの時間の過ごし方・働き方……98
【問27】　子どもを通じた近所付き合い……102
【問28】　子育てに関する悩み……105
【問29】　子育てに関連する制度……108
【問30】　男性の育児への参加状況……112

Ⅳ　独身の方の結婚の意思について（独身の方のみ）……116
【問31】　結婚の意思……116
【問32】　独身でいる理由……119

3　資料（調査票）

1　調査の概要

1　調査の目的

県内における子育ての現状や少子化対策に関する県民の意識やニーズ等を調査し、特性を把握するとともに、新たな岐阜県少子化対策基本計画策定のための基礎資料とする。

2　調査の設計

（１）調査地域　　　岐阜県全域
（２）調査対象　　　県内に居住する満１８歳以上 50 歳未満の男女個人
（３）標本数　　　　4,000 人（男女各 2,000 人）
（４）抽出方法　　　層化二段無作為抽出法
（５）調査方法　　　郵送法・オンライン調査法の併用
（６）調査期間　　　令和５年９月６日～９月３０日

3　回収結果

標本数	有効回答数	有効回答率
4,000 人	1,429 人	35.7%

4　報告書の見方

（１）比率は全てパーセントで表し、小数点第２位を四捨五入して算出した。そのため、パーセントの合計が 100.0%にならない場合がある。
（２）基数となるべき実数は「n」（件数）として掲載した。したがって比率は、n を 100%として算出している。
（３）複数回答が可能な設問では、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%を占めるのかという見方をする。したがって、各項目の比率の合計は、通常 100%を超える。
（４）本報告書中の表、グラフ及び本文で使われている選択肢の表現は、本来の意味を損なわない程度に省略している場合がある。
（５）複数回答の設問において、無回答を除き回答の割合が高いもの第１位の数値を太字と下線で示し、第２位の数値を太字で示した。
（６）子どもがいる方のみの設問（問 24～問 30）及び子どものいる方のみを総数として集計を行った年代別クロス集計では、18～19 歳と 20 歳代の回答を合わせて割合を算出し、「18～29 歳」として図表に掲載した。
（７）過去の調査（H30 年調査、H26 年調査）と同様の設問は、参考資料として調査結果を図表に掲載した。ただし、H30 年調査では、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとに総回答者数が一致しないことがあることに留意する。

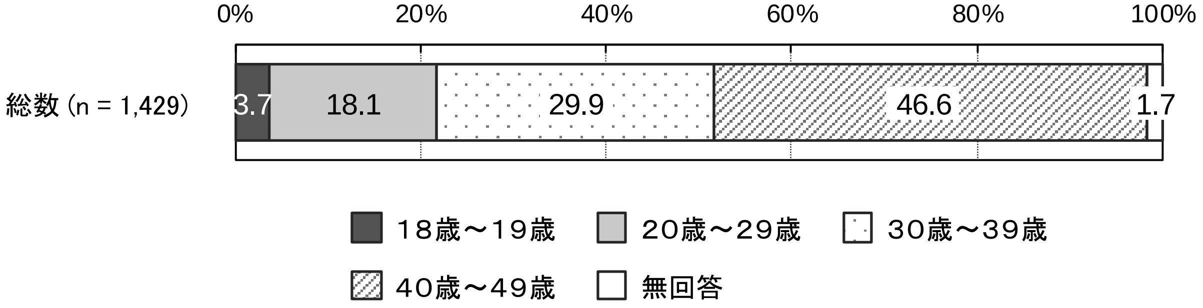
２　調査の結果

回答者属性

①　あなたの年齢は、以下のどれですか。

◆　年齢については、「４０歳～４９歳」が 46.6%で最も高く、次いで「３０歳～３９歳」が 29.9%、「２０歳～２９歳」が 18.1%となっている。

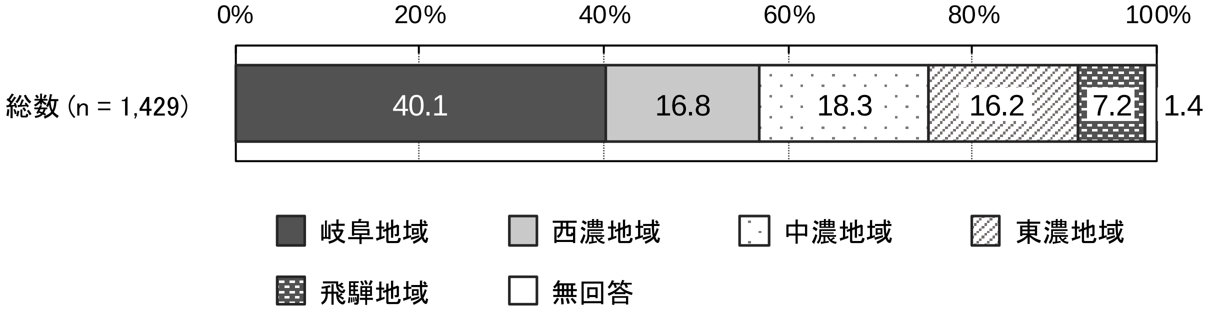
図表①　年齢（総数）



②　あなたのお住まいはどちらですか。

◆　居住地域については、「岐阜地域」が 40.1%で最も高く、次いで「中濃地域」が 18.3%、「西濃地域」が 16.8%となっている。

図表②　居住地域（総数）

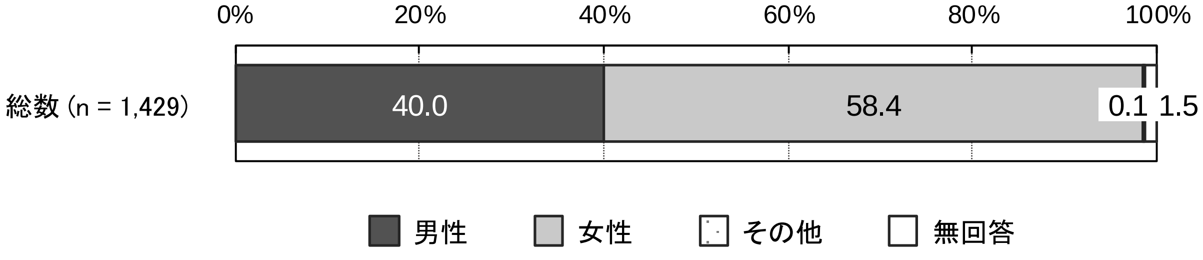


岐阜地域（岐阜市、羽島市、各務原市、山県市、瑞穂市、本巣市、羽島郡、本巣郡）
西濃地域（大垣市、海津市、不破郡、養老郡、安八郡、揖斐郡）
中濃地域（関市、美濃市、美濃加茂市、可児市、郡上市、加茂郡、可児郡）
東濃地域（多治見市、瑞浪市、土岐市、中津川市、恵那市）
飛騨地域（高山市、飛騨市、下呂市、大野郡）

③　あなたの性別をお答えください。（ご自身が認識する性でお答えください。）

◆　性別については、「男性」が 40.0％で、「女性」が 58.4％、「その他」が 0.1％となっている。

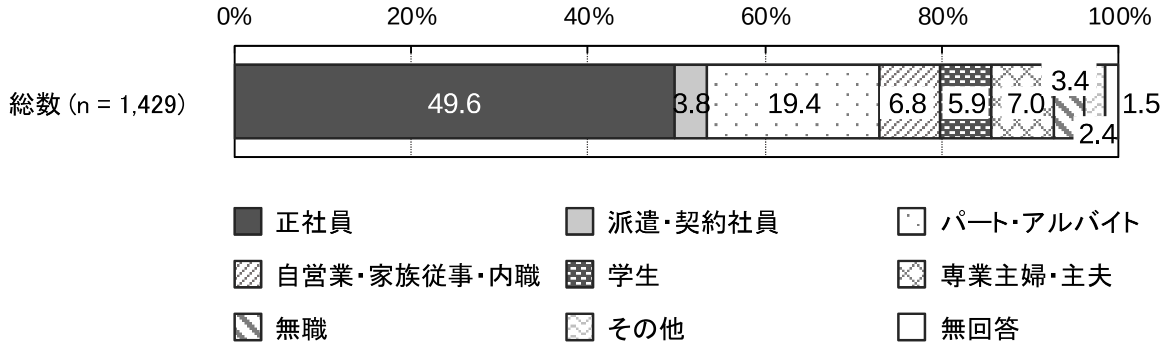
図表③　性別（総数）



④　あなたの現在の就業形態（職業）をお聞きします。
次の中から１つ選び○印をつけてください。

◆　就業形態（職業）については、「正社員」が 49.6％で最も高く、次いで「パート・アルバイト」が 19.4％、「専業主婦・主夫」が 7.0％となっている。

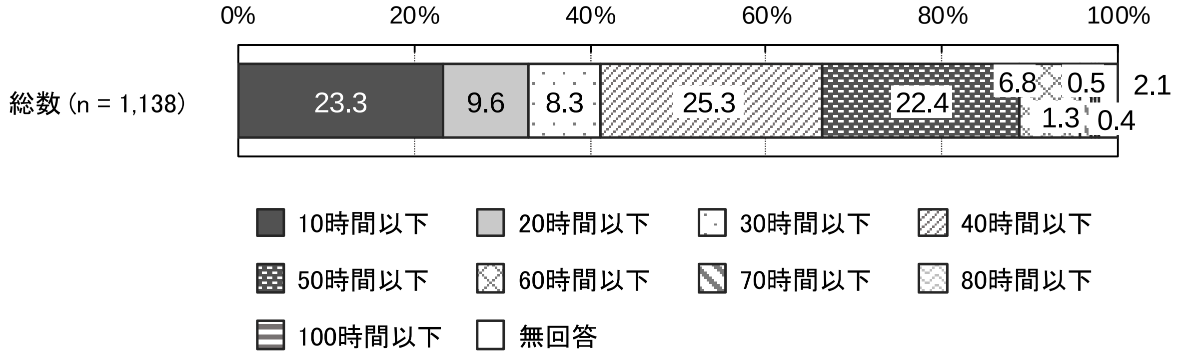
図表④　就業形態（職業）（総数）



④－２　働いている方にお聞きします。あなたの１週間の労働時間（残業時間を含む）及び普段働いている日に帰宅する時間について、数字で記入してください。

- ◆　１週間の労働時間については、「40 時間以下」が 25.3％で最も高く、次いで「10 時間以下」が 23.3％、「50 時間以下」が 22.4％となっている。
- ◆　帰宅時間については、「午後６時」が 21.4％で最も高く、次いで「午後７時」が 20.8％、「午後８時」が 12.8％となっている。

図表④-2-1　１週間の労働時間（総数）



図表④-2-2　帰宅時間（総数）

（％）

午前	1時	0.2
	2時	0.1
	3時	0.0
	4時	0.0
	5時	0.0
	6時	0.1
	7時	0.2
	8時	0.3
	9時	0.2
	10時	0.3
	11時	0.4
	12時	0.0

午後	1時	1.7
	2時	2.4
	3時	5.1
	4時	7.8
	5時	9.2
	6時	**21.4**
	7時	**20.8**
	8時	12.8
	9時	4.4
	10時	3.0
	11時	1.1
	12時	0.4
時間不明・無回答		8.3

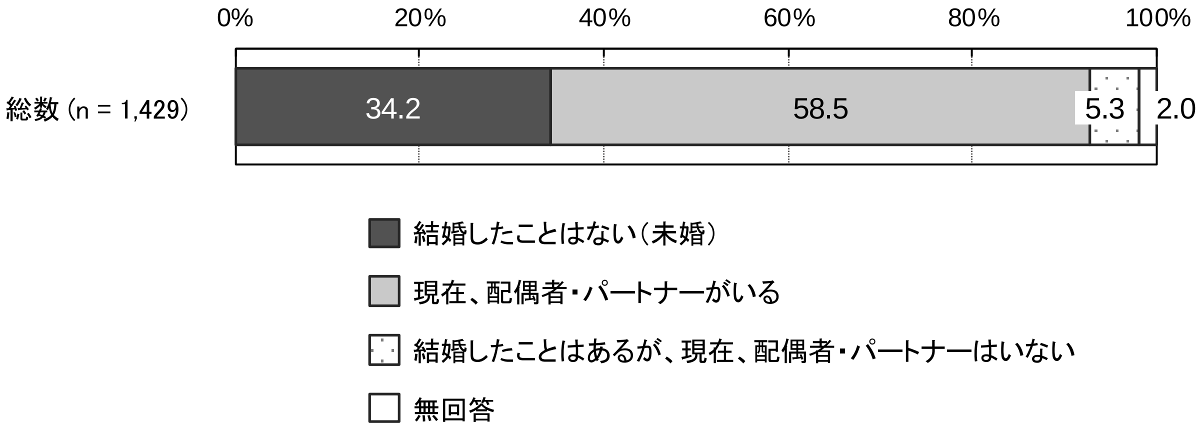
総数 (n = 1,138)

※④で「1. 正社員」「2. 派遣・契約社員」「3. パート・アルバイト」「4. 自営業・家族従事・内職」のいずれかと回答した方を総数とした。

⑤　あなたには配偶者（妻や夫）がいますか。（婚姻を届け出ていない事実婚を含む。）あてはまる番号に○印をつけてください。

◆　結婚歴については、「現在、配偶者・パートナーがいる」が 58.5%で最も高く、次いで「結婚したことはない（未婚）」が 34.2%、「結婚したことはあるが、現在、配偶者・パートナーはいない」が 5.3%となっている。

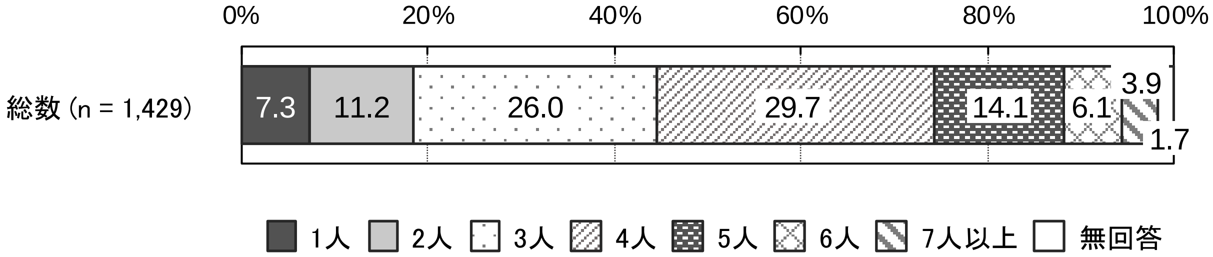
図表⑤　結婚歴（総数）



⑥　一緒に暮らしている人は、あなたを含めて何人ですか。

◆　同居人数については、「4 人」が 29.7%で最も高く、次いで「3 人」が 26.0%、「5 人」が 14.1%となっている。平均人数は、3.68 人であった。

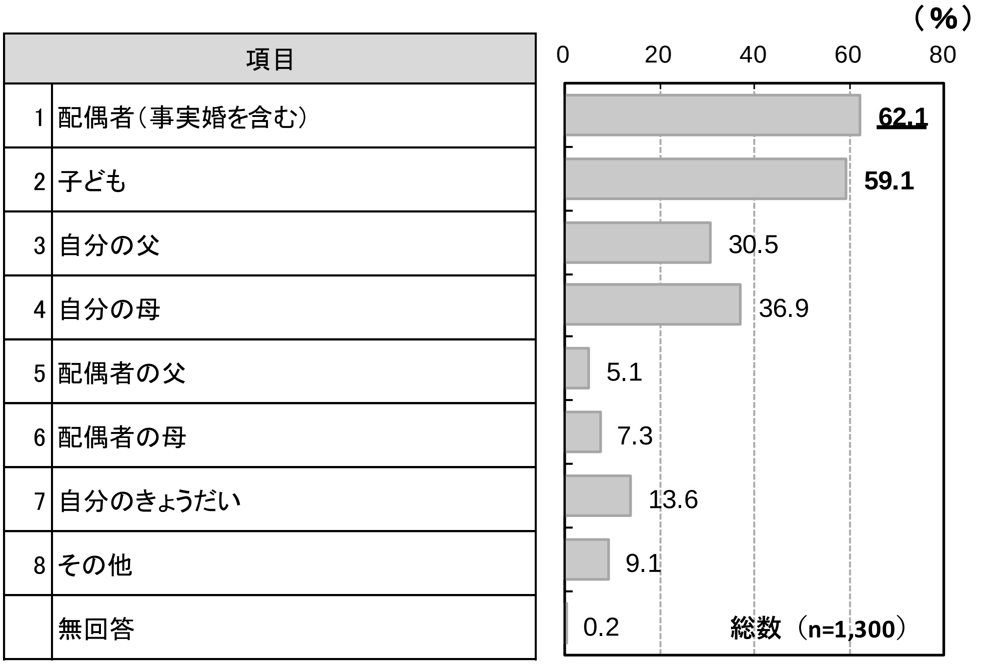
図表⑥　同居人数（本人を含む）（総数）



⑥－２　一緒に暮らしている人がいらっしゃる方にお聞きします。あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。あてはまる番号すべてに〇をつけてください。（複数回答）

◆　同居家族については、「配偶者（事実婚を含む）」が 62.1％で最も高く、次いで「子ども」が 59.1％、「自分の母」が 36.9％となっている。

図表⑥-2　同居家族（総数）



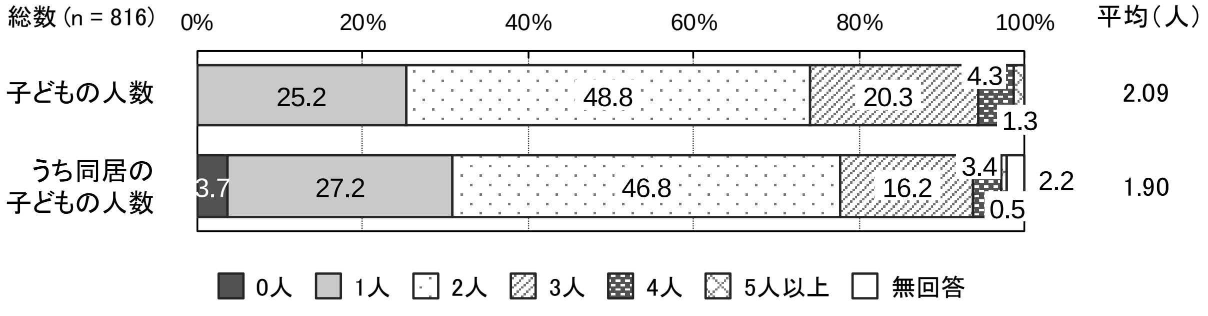
※⑥で「2 人」以上と回答した方を総数とした。

**⑦　お子さんがいらっしゃる方にお聞きします。お子さんは何人いらっしゃいますか。
また、そのうち同居しているお子さんは何人いらっしゃいますか。**

◆　子どもの人数は、「2 人」が 48.8％で最も高く、次いで「1 人」が 25.2％、「3 人」が 20.3％となっている。平均人数は、2.09 人であった。

◆　同居している子どもの人数は、「2 人」が 46.8％で最も高く、次いで「1 人」が 27.2％、「3 人」が 16.2％となっている。平均人数は、1.90 人であった。

図表⑦　子どもの人数、うち同居の子どもの人数（総数）



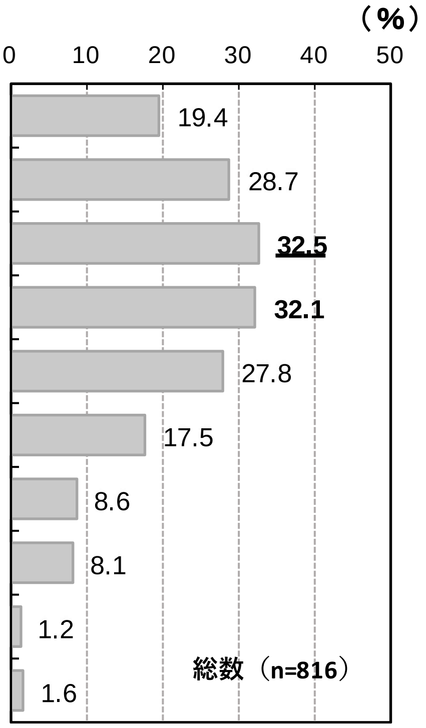
※「子どもの人数」に回答した方のみを総数とした。

⑦－２　あなたのお子さんの学齢・学年について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。（同居・別居を問いません）（複数回答）

◆　子どもの学齢・学年については、「小学校低学年（１年～３年）」が 32.5％で最も高く、次いで「小学校高学年（４年～６年）」が 32.1％、「３歳～小学校入学前」が 28.7％となっている。

図表⑦-2　子どもの学齢・学年（総数）

	項目
1	0～2歳児
2	3歳～小学校入学前
3	小学校低学年（1年～3年）
4	小学校高学年（4年～6年）
5	中学生
6	高校生
7	大学生
8	社会人
9	その他
	無回答



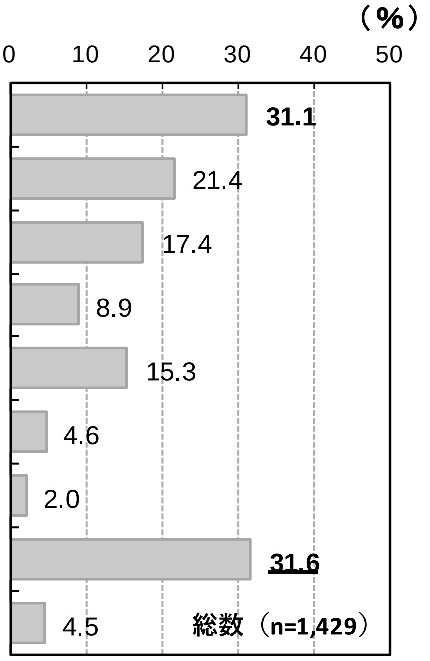
※⑦で「子どもの人数」に回答した方を総数とした。

⑧　あなたのお近く（※）には親族がいらっしゃいますか。
※おおむね、車で５～10分程度、又は徒歩で30分程度の距離
あてはまる番号すべてに○をつけてください。（複数回答）

◆　近居者については、「近居している親族はいない」が 31.6％で最も高く、次いで「自分の父母」が 31.1％、「配偶者の父母」が 21.4％となっている。

図表⑧　近居者（総数）

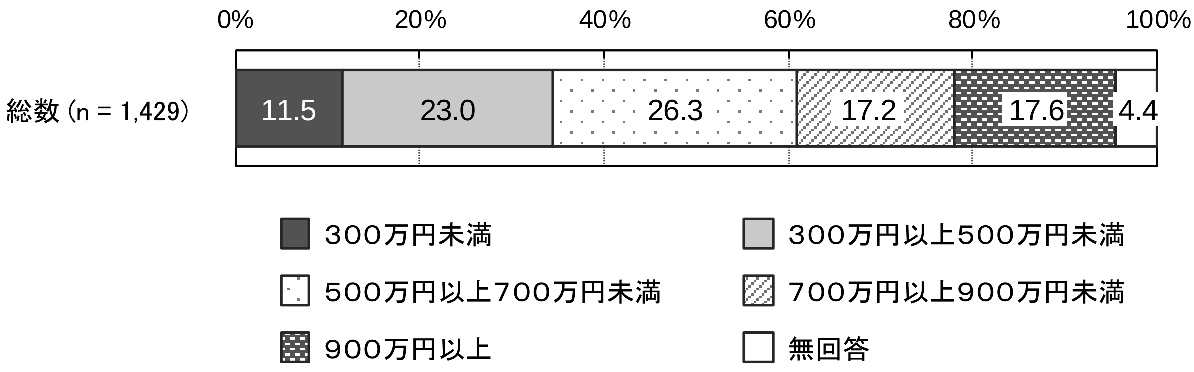
	項目	（％）
1	自分の父母	31.1
2	配偶者の父母	21.4
3	自分のきょうだい	17.4
4	配偶者のきょうだい	8.9
5	自分の父母やきょうだい以外の親族	15.3
6	配偶者の父母やきょうだい以外の親族	4.6
7	その他	2.0
8	近居している親族はいない	31.6
	無回答	4.5



⑨　あなたのご家族全員の昨年１年間の収入の合計は、おいくらぐらいですか。
ボーナスなども含めた税込の額で、あてはまる番号を１つ選び○印をつけてください。

◆　世帯収入については、「５００万円以上７００万円未満」が 26.3％で最も高く、次いで「３００万円以上５００万円未満」が 23.0％、「９００万円以上」が 17.6％となっている。

図表⑨　世帯収入（総数）



Ⅰ　全ての方にお聞きします。

【問１】　あなたは、結婚にはどのような良いところがあるとお考えですか。
この中からあてはまる番号を２つ以内で選び○印をつけてください。（複数回答）

◆ 結婚の良いところについては、「自分の子どもや家庭がもてる」が 52.2%で最も高く、次いで「精神的な安らぎの場が得られる」が 31.0%、「愛情を感じている人と暮らせる」が 26.9%となっている。

◆ 性別でみると、男女ともに「自分の子どもや家庭がもてる」が最も高く、男性で 48.3%、女性で 55.2%と、女性の割合が男性より 6.9 ポイント高くなっている。また、「社会的信用を得たり、周囲から認められる」、「精神的な安らぎの場が得られる」、「愛情を感じている人と暮らせる」では、男性の割合が女性より 5.0 ポイント以上高くなっている。

図表 1-1　結婚の良いところ（総数、性別）

（%）

	項目	総数（n = 1,429）	男性（n = 571）	女性（n = 835）
1	経済的に余裕がもてる	13.0	7.5	16.9
2	社会的信用を得たり、周囲から認められる	12.5	16.8	9.5
3	精神的な安らぎの場が得られる	**31.0**	**34.0**	**29.0**
4	愛情を感じている人と暮らせる	26.9	30.1	24.8
5	自分の子どもや家庭がもてる	**52.2**	**48.3**	**55.2**
6	性的な充足が得られる	1.5	3.2	0.4
7	生活上便利になる	3.8	5.8	2.4
8	親から独立できる	4.3	3.9	4.7
9	親を安心させたり周囲の期待にこたえられる	13.5	13.1	13.7
10	その他	0.8	1.2	0.5
11	結婚に良いところはないと思う	5.2	5.6	5.0
	無回答	5.5	4.2	6.2

◆ 年代別でみると、「自分の子どもや家庭がもてる」では、年代が上がるにつれて割合が高く、40 歳代で 57.1%となっている。「愛情を感じている人と暮らせる」では、年代が下がるにつれて割合が高く、18～19 歳で 52.8%となっている。

図表 1-2　結婚の良いところ（年代別）

（%）

	項目	18～19歳 (n = 53)	20歳代 (n = 258)	30歳代 (n = 427)	40歳代 (n = 666)
1	経済的に余裕がもてる	17.0	14.3	10.8	13.8
2	社会的信用を得たり、周囲から認められる	3.8	12.4	10.8	14.3
3	精神的な安らぎの場が得られる	**34.0**	29.1	**30.7**	**31.7**
4	愛情を感じている人と暮らせる	**52.8**	**37.2**	24.4	22.8
5	自分の子どもや家庭がもてる	**34.0**	**40.3**	**54.6**	**57.1**
6	性的な充足が得られる	1.9	1.9	1.6	1.2
7	生活上便利になる	3.8	3.5	4.2	3.6
8	親から独立できる	11.3	7.4	4.7	2.4
9	親を安心させたり周囲の期待にこたえられる	11.3	17.4	15.0	11.1
10	その他	0.0	0.4	0.7	1.1
11	結婚に良いところはないと思う	3.8	7.8	4.9	4.5
	無回答	3.8	3.9	5.9	5.7

◆　過去の調査は独身の方のみの設問のため、令和５年調査では「未婚者」と答えた方を回答者として比較すると、平成 26 年調査、平成 30 年調査よりも「精神的な安らぎの場が得られる」、「自分の子どもや家庭がもてる」の割合が減少している。

図表 1-3　結婚の良いところ（【独身の方のみ】総数、経年比較（参考））

（%）

	項目	R5調査 (n = 489)※	H30調査 (n = 444)※	H26調査 (n = 252)※
1	経済的に余裕がもてる	13.1	12.6	16.7
2	社会的信用を得たり、周囲から認められる	15.7	16.4	19.0
3	精神的な安らぎの場が得られる	29.4	**32.2**	**42.9**
4	愛情を感じている人と暮らせる	**31.5**	31.5	35.3
5	自分の子どもや家庭がもてる	**31.5**	**50.2**	**42.1**
6	性的な充足が得られる	2.9	0.7	2.4
7	生活上便利になる	3.7	3.6	6.3
8	親から独立できる	6.3	5.0	6.7
9	親を安心させたり周囲の期待にこたえられる	19.8	21.2	20.6
10	その他	1.2	1.4	2.0
11	結婚に良いところはないと思う	9.8	5.6	6.0
	無回答	3.7	-	3.2

※Ｒ５調査は、調査対象者全員への設問であるが、回答者属性で「未婚」と答えた方のみを総数として集計し、比較を行った。
※Ｈ30 調査、H26 調査は、「独身の方のみ」の設問であった。
※Ｈ30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。

【問２】　あなたは、結婚相手を決める際、どのような点を重視しますか。
この中からあてはまる番号を３つ以内で選び〇印をつけてください。（複数回答）

◆ 結婚相手を決める際に重視する点については、「相手の人がら」が 86.0%で最も高く、次いで「家事・育児に対する能力や姿勢」が 37.2%、「相手の収入などの経済力」が 32.0%となっている。

◆ 性別でみると、男女ともに「相手の人がら」が最も高く、男性で 86.9%、女性で 85.7%となっている。また、「相手の収入などの経済力」で、女性の割合が男性より 33.8 ポイント高く、「相手の容姿」、「共通の趣味の有無」で、男性の割合が女性より 10 ポイント以上高くなっている。

図表 2-1　結婚相手を決める際に重視する点（総数、性別）

（%）

	項目	総数（n = 1,429）	男性（n = 571）	女性（n = 835）
1	相手の学歴	1.7	1.9	1.6
2	相手の職業	8.1	3.9	10.8
3	相手の収入などの経済力	32.0	11.9	**45.7**
4	相手の人がら	**86.0**	**86.9**	**85.7**
5	相手の容姿	17.8	27.3	11.6
6	共通の趣味の有無	22.2	28.9	18.1
7	自分の仕事に対する理解と協力	26.1	30.5	23.2
8	家事・育児に対する能力や姿勢	**37.2**	**31.7**	41.0
9	その他	4.2	3.7	4.7
	無回答	2.0	2.3	1.6

◆ 年代別でみると、いずれの年代においても「相手の人がら」が最も高くなっている。次いで、18～19 歳では「相手の収入などの経済力」、20～40 歳代では「家事・育児に対する能力や姿勢」の割合が高くなっている。また、「相手の収入などの経済力」、「自分の仕事に対する理解と協力」、「家事・育児に対する能力や姿勢」では、年代が下がるにつれて割合が高くなっている。

図表 2-2　結婚相手を決める際に重視する点（年代別）

（%）

	項目	18～19歳 （n = 53）	20歳代 （n = 258）	30歳代 （n = 427）	40歳代 （n = 666）
1	相手の学歴	3.8	1.9	1.4	1.7
2	相手の職業	13.2	7.0	6.3	9.0
3	相手の収入などの経済力	**47.2**	36.8	30.2	29.9
4	相手の人がら	**83.0**	**88.8**	**85.0**	**86.5**
5	相手の容姿	24.5	21.7	16.4	17.1
6	共通の趣味の有無	26.4	23.6	24.4	20.6
7	自分の仕事に対する理解と協力	34.0	31.4	25.5	23.7
8	家事・育児に対する能力や姿勢	45.3	**43.8**	**38.4**	**33.0**
9	その他	1.9	2.7	4.2	5.1
	無回答	0.0	1.2	2.1	2.1

◆　過去の調査は独身の方のみの設問のため、令和５年調査では「未婚者」と答えた方を回答者として比較すると、いずれの調査も「相手の人がら」が最も高くなっている。

図表 2-3　結婚相手を決める際に重視する点（【独身の方のみ】総数、経年比較（参考））

（%）

	項目	R5調査 (n = 489)※	H30調査 (n = 447)※
1	相手の学歴	2.9	2.0
2	相手の職業	6.1	11.4
3	相手の収入などの経済力	32.7	39.1
4	相手の人がら	**83.6**	**87.7**
5	相手の容姿	20.7	22.4
6	共通の趣味の有無	28.2	24.2
7	自分の仕事に対する理解と協力	29.9	31.3
8	家事・育児に対する能力や姿勢	**37.6**	**41.4**
9	その他	3.7	-
	無回答	2.7	-

※Ｒ５調査は、調査対象者全員への設問であるが、回答者属性で「未婚」と答えた方のみを総数として集計し、比較を行った。
※Ｈ30 調査は、「独身の方のみ」の設問であった。
※Ｈ30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。

【問３】　子どもについてお聞きします。

（１）実際にもつかどうかは別にして、あなたにとって理想の子どもの人数は何人ですか。

（２）現在、何人の子どもをおもちですか。

（３）これから何人子どもをもちたいですか。

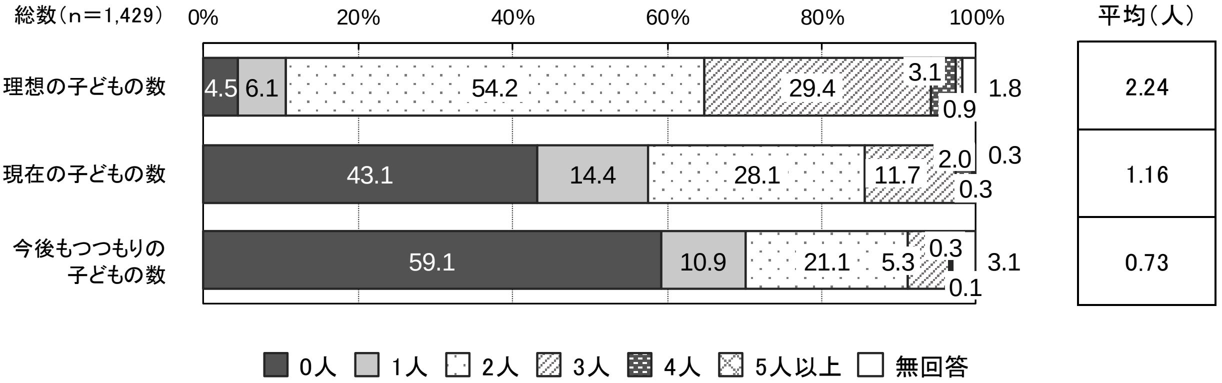
◆　理想の子どもの数については、「2 人」が最も高く、54.2%となっている。平均人数は、2.24 人であった。

◆　現在の子どもの数については、「0 人」が最も高く、43.1%となっている。平均人数は、1.16 人であった。

◆　今後もつつもりの子どもの数については、「0 人」が最も高く、59.1%となっている。平均人数は、0.73 人であった。

◆　配偶者（事実婚を含む）と同居している方を総数とし、過去の調査と比較すると、理想の子どもの数（平均）が年々減少、予定の子どもの数（平均）が年々増加傾向にあり、理想の子どもの数（平均）と予定の子どもの数（平均）を引いた差が、令和５年調査で 0.11 人と小さくなっている。

図表 3-1　理想の子どもの数と予定の子どもの数（総数）

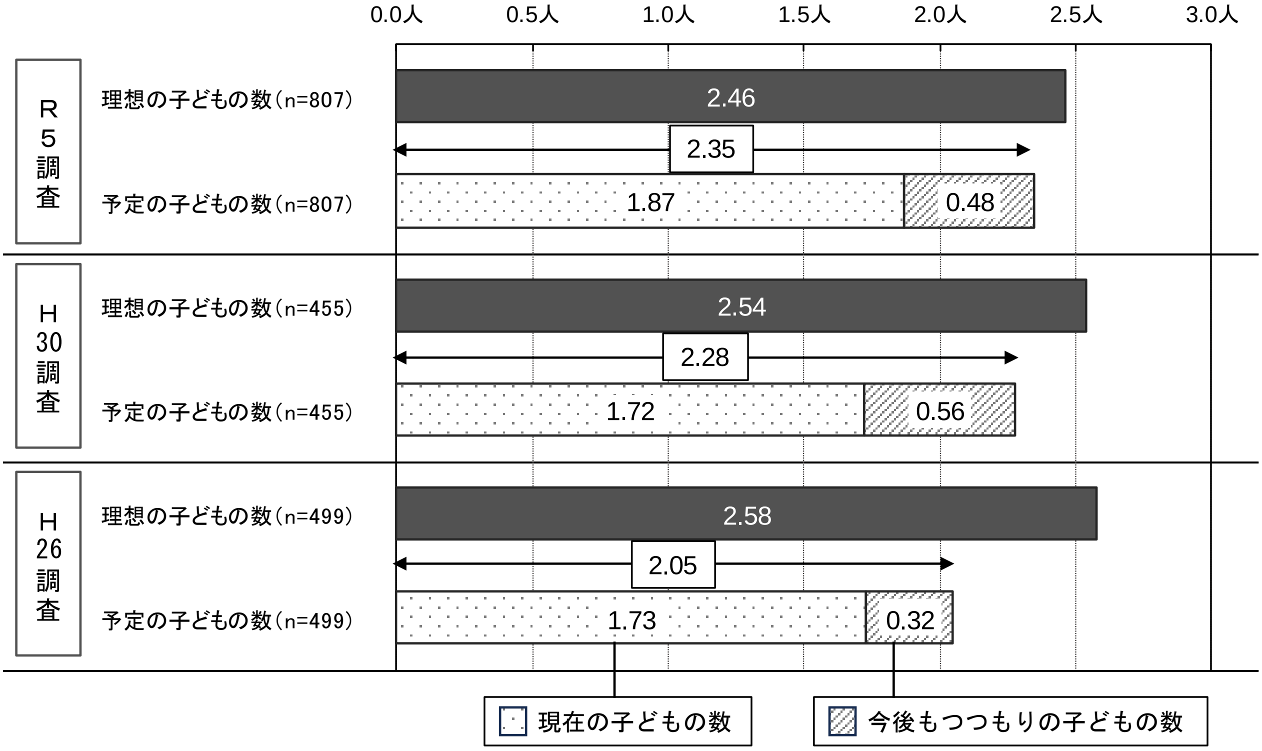


図表 3-2　理想の子どもの数と予定の子どもの数の平均
（【配偶者（事実婚を含む）と同居している方】経年比較（参考））

（人）

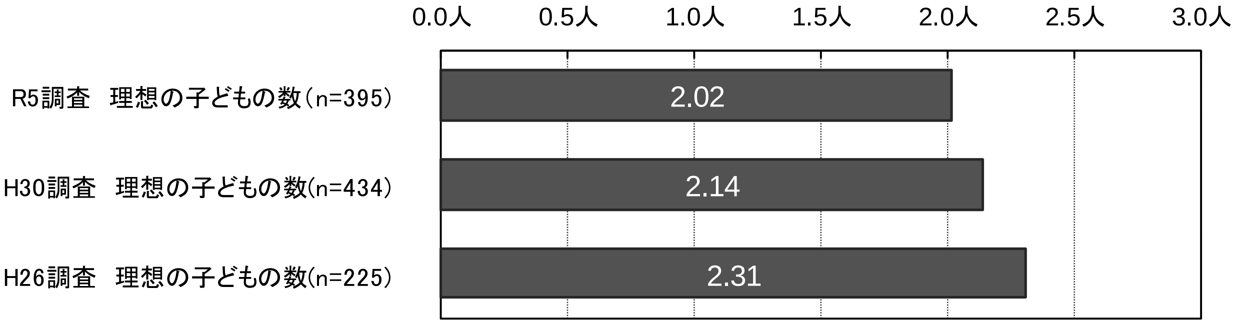
項目	理想の子どもの数(A)	予定の子どもの数			理想−予定(A−B)
		現在の子どもの数	今後もつつもりの子どもの数	計(B)	
R5調査平均人数(n=807)	2.46	1.87	0.48	2.35	0.11
H30調査平均人数(n=455)	2.54	1.72	0.56	2.28	0.26
H26調査平均人数(n=499)	2.58	1.73	0.32	2.05	0.53

図表 3-3　理想の子どもの数と予定の子どもの数の平均
（【配偶者（事実婚を含む）と同居している方】経年比較（参考））



◆　結婚の意思のある独身の方を総数とし、過去の調査と理想の子どもの数（平均）を比較すると、平成 26 年調査から徐々に平均人数が減少している。

図表 3-4　理想の子どもの数の平均（【結婚の意思のある独身の方】経年比較（参考））



※H30、H26 調査の集計は、「自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは次のうちどれですか。（R5 調査では【問 31】）」という設問に対して、「いずれ結婚するつもり（ある程度の年齢までには結婚するつもり）」または「いずれ結婚するつもり（理想の相手が見つかるまでは結婚しなくても構わない）」と回答した方のみを総数とし、平均値を算出した。

◆　性別でみると、「理想の子どもの数（平均）」は、女性（2.28 人）が男性（2.17 人）より多く、「今後もつつもりの子どもの数（平均）」は、男性（0.88 人）が女性（0.64 人）より多くなっている。

◆　年代別でみると、「理想の子どもの数（平均）」は、年代が上がるにつれて人数が多くなっており、18〜19 歳（1.96 人）と 40 歳代（2.33 人）の差が 0.37 人となっている。

図表 3-5　理想の子どもの数と予定の子どもの数（性別、年代別）

（%）

項目			回答者数（件）	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	平均（人）
理想の子どもの数	総　数		1,429	4.5	6.1	54.2	29.4	3.1	0.9	1.8	2.24
	性別	男性	571	4.4	7.0	58.3	24.9	2.3	0.7	2.5	2.17
		女性	835	4.6	5.5	52.2	32.0	3.5	1.1	1.2	2.28
	年代別	18〜19歳	53	5.7	9.4	67.9	17.0	0.0	0.0	0.0	1.96
		20歳代	258	5.4	12.0	60.1	20.2	1.9	0.4	0.0	2.02
		30歳代	427	5.6	5.2	52.9	30.7	3.7	0.7	1.2	2.24
		40歳代	666	3.3	4.4	52.7	32.6	3.3	1.2	2.6	2.33
現在の子どもの数	総　数		1,429	42.0	14.4	28.1	11.7	2.0	0.3	1.4	1.17
	性別	男性	571	50.6	13.8	23.1	8.2	1.9	0.2	2.1	0.95
		女性	835	36.4	14.6	31.5	14.1	2.2	0.4	0.8	1.32
	年代別	18〜19歳	53	96.2	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	1.9	0.06
		20歳代	258	86.0	8.9	3.5	0.4	0.0	0.0	1.2	0.17
		30歳代	427	38.4	18.3	28.3	11.0	2.8	0.2	0.9	1.22
		40歳代	666	23.4	15.3	39.0	17.4	2.6	0.6	1.7	1.62
今後もつつもりの子どもの数	総　数		1,429	59.1	10.9	21.1	5.3	0.3	0.1	3.1	0.73
	性別	男性	571	51.7	12.4	25.2	6.7	0.4	0.2	3.5	0.88
		女性	835	64.2	9.9	18.3	4.4	0.4	0.1	2.6	0.64
	年代別	18〜19歳	53	28.3	9.4	50.9	11.3	0.0	0.0	0.0	1.45
		20歳代	258	25.2	12.8	47.3	11.6	1.2	0.4	1.6	1.51
		30歳代	427	50.4	17.3	23.2	6.3	0.5	0.0	2.3	0.87
		40歳代	666	80.3	6.3	7.4	1.8	0.0	0.2	4.1	0.28

【問４】	子どもをもたない理由や理想の人数より少ない理由（理想の子どもの数をもつ（予定の）方は、考えられる理由）は何ですか。 下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに〇をつけてください。（複数回答）

◆ 子どもをもたない理由・予定の子どもの数が理想の子どもの数を下回る理由について、理想の子どもの数を持つ予定のない方を総数としたところ、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が64.4％で最も高く、次いで「自分や配偶者が高年齢だから」が30.9％、「働きながら子育てできる職場環境がないから」が28.0％となっている。

◆ 理想の子どもの数を持つ予定のない方のうち、性別でみると、男女ともに「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高く、男性の割合が女性より7.3ポイント高くなっている。

図表4-1　子どもをもたない理由・予定の子どもの数が理想の子どもの数を下回る理由
（【理想の子どもの数を持つ予定のない方】総数、性別）

（％）

	項目	総数 (n = 553)※	男性 (n = 224)※	女性 (n = 317)※
1	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	**64.4**	**68.8**	**61.5**
2	保育サービスが整っていないから	14.1	13.8	13.9
3	雇用が安定していないから	14.5	18.8	11.4
4	働きながら子育てできる職場環境がないから	28.0	26.3	29.7
5	自分の昇進・昇格に差し支えるから	3.4	1.8	4.1
6	家が狭いから	8.0	9.8	6.9
7	子どもがのびのび育つ社会環境でないから	18.1	18.3	18.6
8	自分や夫婦の生活を大切にしたいから	12.3	13.8	11.7
9	自分や配偶者が高年齢だから	**30.9**	**29.0**	**32.8**
10	自分や配偶者が育児の負担に耐えられないから	21.0	22.3	20.2
11	妊娠・出産のときの身体的・精神的な苦痛が嫌だから	13.0	5.4	18.6
12	健康上の理由から	11.6	9.4	13.2
13	欲しいけれども赤ちゃんを授からないから	10.7	8.9	12.3
14	配偶者が家事・育児に参加しないから	3.1	0.9	4.7
15	配偶者が望まないから	5.2	6.7	4.1
16	その他	12.3	11.2	13.2
	無回答	0.7	0.4	0.6

※「理想の子どもの数を持つ予定のない方」を総数とした。
※「理想の子どもの数を持つ予定のない方」は、『予定の子どもの数（問3（2）現在の子どもの数+（3）今後もつつもり子どもの数）』が『理想の子どもの数（問3（1）理想の子どもの数）』未満、または『予定の子どもの数（問3（2）現在の子どもの数+（3）今後もつつもり子どもの数）』を0人と回答した方を対象に算出した。

◆ 理想の子どもの数を持つ予定のない方のうち、年代別でみると、いずれの年代においても「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高く、次いで 40 歳代では「自分や配偶者が高年齢だから」の割合が高くなっている。20 歳代では「保育サービスが整っていないから」、「子どもがのびのび育つ社会環境でないから」、「自分や配偶者が育児の負担に耐えられないから」、「妊娠・出産のときの身体的・精神的な苦痛が嫌だから」の割合が他の年代に比べて高くなっている。

図表 4-2 子どもをもたない理由・予定の子どもの数が理想の子どもの数を下回る理由（【理想の子どもの数を持つ予定のない方】年代別）

（%）

	項目	18～19歳 (n = 21)※	20歳代 (n = 84)※	30歳代 (n = 146)※	40歳代 (n = 290)※
1	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	**71.4**	**83.3**	**70.5**	**55.2**
2	保育サービスが整っていないから	9.5	23.8	17.1	9.7
3	雇用が安定していないから	9.5	15.5	17.8	12.8
4	働きながら子育てできる職場環境がないから	**23.8**	29.8	**29.5**	27.2
5	自分の昇進・昇格に差し支えるから	14.3	3.6	2.7	2.4
6	家が狭いから	4.8	8.3	11.0	6.9
7	子どもがのびのび育つ社会環境でないから	19.0	**32.1**	23.3	11.7
8	自分や夫婦の生活を大切にしたいから	19.0	16.7	15.8	9.3
9	自分や配偶者が高年齢だから	0.0	0.0	15.8	**50.3**
10	自分や配偶者が育児の負担に耐えられないから	**23.8**	31.0	15.8	20.7
11	妊娠・出産のときの身体的・精神的な苦痛が嫌だから	9.5	21.4	15.8	9.7
12	健康上の理由から	9.5	6.0	11.6	13.1
13	欲しいけれども赤ちゃんを授からないから	4.8	2.4	6.8	15.9
14	配偶者が家事・育児に参加しないから	4.8	0.0	4.1	3.4
15	配偶者が望まないから	0.0	3.6	5.5	5.9
16	その他	0.0	10.7	17.8	11.4
	無回答	4.8	0.0	0.0	0.7

※「理想の子どもの数を持つ予定のない方」を総数とした。

◆ 理想の子どもの数を持つ予定のない方のうち、性別・結婚の有無別でみると、男性・未婚者で「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」、「雇用が安定していないから」の割合が他に比べて高くなっている。また、男女ともに未婚者で「子どもがのびのび育つ社会環境でないから」の割合が既婚者に比べて高く、既婚者で「自分や配偶者が高年齢だから」の割合が未婚者に比べて高くなっている。

図表 4-3 子どもをもたない理由・予定の子どもの数が理想の子どもの数を下回る理由（【理想の子どもの数を持つ予定のない方】性別・結婚の有無別）

（%）

項目		回答者数（件）	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	保育サービスが整っていないから	雇用が安定していないから	働きながら子育てできる職場環境がないから	自分の昇進・昇格に差し支えるから	家が狭いから	子どもがのびのび育つ社会環境でないから	自分や夫婦の生活を大切にしたいから	自分や配偶者が高年齢だから
理想の子どもの数を持つ予定のない方（総数）		553	**64.4**	14.1	14.5	28.0	3.4	8.0	18.1	12.3	30.9
性別・結婚の有無別	男性・未婚者	124	**72.6**	13.7	29.0	21.0	3.2	8.9	24.2	17.7	17.7
	男性・既婚者	99	**63.6**	14.1	6.1	32.3	0.0	11.1	11.1	9.1	43.4
	女性・未婚者	113	**60.2**	17.7	14.2	31.9	5.3	0.9	25.7	14.2	15.0
	女性・既婚者	204	**62.3**	11.8	9.8	28.4	3.4	10.3	14.7	10.3	42.6

項目		回答者数（件）	自分や配偶者が育児の負担に耐えられないから	妊娠・出産のときの身体的・精神的な苦痛が嫌だから	健康上の理由から	欲しいけれども赤ちゃんを授からないから	配偶者が家事・育児に参加しないから	配偶者が望まないから	その他	無回答
理想の子どもの数を持つ予定のない方（総数）		553	21.0	13.0	11.6	10.7	3.1	5.2	12.3	0.7
性別・結婚の有無別	男性・未婚者	124	18.5	2.4	8.9	0.0	1.6	2.4	14.5	0.8
	男性・既婚者	99	27.3	9.1	10.1	20.2	0.0	12.1	7.1	0.0
	女性・未婚者	113	23.9	21.2	12.4	3.5	0.0	0.9	17.7	1.8
	女性・既婚者	204	18.1	17.2	13.7	17.2	7.4	5.9	10.8	0.0

※「理想の子どもの数を持つ予定のない方」を総数とした。
※各属性の回答の割合が高い項目第1位、第2位を網掛けにて示している。

◆　過去の調査と同様に令和５年調査では「理想の子どもの数を持つ予定のない方」を回答者として比較すると、平成 26 年調査から「働きながら子育てできる職場環境がないから」、「自分や配偶者が高年齢だから」の割合が増加傾向にある。

図表 4-4　子どもをもたない理由・予定の子どもの数が理想の子どもの数を下回る理由（【理想の子どもの数を持つ予定のない方のみ】総数、経年比較（参考））

（%）

	項目	R5調査 (n = 553)※	H30調査 (n = 542)※	H26調査 (n = 446)※
1	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	64.4	62.5	43.3
2	保育サービスが整っていないから	14.1	12.7	5.8
3	雇用が安定していないから	14.5	9.8	11.7
4	働きながら子育てできる職場環境がないから	28.0	24.7	22.9
5	自分の昇進・昇格に差し支えるから	3.4	2.6	1.6
6	家が狭いから	8.0	8.5	6.5
7	子どもがのびのび育つ社会環境でないから	18.1	9.4	6.1
8	自分や夫婦の生活を大切にしたいから	12.3	10.3	3.8
9	自分や配偶者が高年齢だから	30.9	26.8	15.2
10	自分や配偶者が育児の負担に耐えられないから	21.0	14.9	9.2
11	妊娠・出産のときの身体的・精神的な苦痛が嫌だから	13.0	10.0	6.1
12	健康上の理由から	11.6	7.7	7.6
13	欲しいけれども赤ちゃんを授からないから	10.7	10.9	10.3
14	配偶者が家事・育児に参加しないから	3.1	5.4	2.5
15	配偶者が望まないから	5.2	5.4	2.2
16	その他	12.3	12.4	15.0
	無回答	0.7	-	-

※H30 調査、H26 調査は、前問で、「理想の子ども数①より予定人数（現在の子どもの人数②と今後持つつもりの数④の合計）が少ない方」及び「子どもを持つつもりのない方（②及び④に「0」と記入された方）」に対して、「子どもをもたない理由や理想の人数より少ない理由を問う設問となっており、回答があった方のみを対象として集計を行った。
※R5 調査では、「理想の子どもの数を持つ予定のない方」を、『予定の子どもの数（問3（2）現在の子どもの数+（3）今後もつつもり子どもの数）』が『理想の子どもの数（問3（1）理想の子どもの数）』未満、または『予定の子どもの数（問3（2）現在の子どもの数+（3）今後もつつもり子どもの数）』を 0 人と答えた方を総数とした。
※H26 調査の設問は、選択肢に「特にない（5.6%）」、「わからない（2.2%）」も含む。

【問５】　あなたは、自分にとって子育てをして良かったと思うことは何ですか。
下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけてください。
※子どもがいない方は良いと思われることについてお答えください。（複数回答）

◆ 子育てをして良かったことについて、子どもがいる方のみを総数としたところ、「子どもが成長すること」が 73.9％で最も高く、次いで「子どもをもつ喜びを実感できる」が 68.1％「家庭が明るくなる」が 67.5%となっている。

◆ 性別でみると、男女ともに「子どもが成長すること」が最も高く、次いで男性では「家庭が明るくなる」、女性では「子どもをもつ喜びを実感できる」の割合が高くなっている。また、「子育てを通じて友人が増える」、「子どもから教えられることがある」、「親や祖父母への感謝の気持ちが生まれる」では、女性の割合が男性より 10 ポイント以上高くなっている。

図表 5-1　子育てをして良かったこと（【子どもがいる方のみ】総数、性別）

（%）

	項目	総数 (n = 816)※	男性 (n = 273)※	女性 (n = 528)※
1	家庭が明るくなる	67.5	**70.0**	66.5
2	家族の会話が増える	56.1	59.0	54.5
3	夫婦の愛情がより深まる	20.1	22.3	18.8
4	生活にはりあいができる	39.3	41.0	38.4
5	子育てを通じて友人が増える	32.5	20.5	38.4
6	子育ての経験が仕事などで役立つ	25.6	23.1	26.5
7	子どもから教えられることがある	64.8	55.7	68.8
8	子どもをもつ喜びを実感できる	**68.1**	64.8	**70.1**
9	子育てにより自分が成長できる	61.3	54.9	64.0
10	親や祖父母への感謝の気持ちが生まれる	48.3	40.3	51.9
11	子どもが成長すること	**73.9**	**75.5**	**73.3**
12	その他	2.5	1.5	3.0
13	良いと思うことは特にない	1.5	0.7	1.9
	無回答	0.4	0.4	0.2

※子どもがいる方のみを総数とした。

◆　年代別でみると、いずれの年代においても「子どもが成長すること」が最も高く、30 歳代では「子どもをもつ喜びを実感できる」においても同様に最も高くなっている。また、「生活にはりあいができる」、「子育てを通じて友人が増える」、「子どもから教えられることがある」では、年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

図表 5-2　子育てをして良かったこと（【子どもがいる方のみ】年代別）

（%）

	項目	18～29歳 (n = 36)※	30歳代 (n = 260)※	40歳代 (n = 503)※
1	家庭が明るくなる	**72.2**	69.2	66.6
2	家族の会話が増える	50.0	54.2	57.5
3	夫婦の愛情がより深まる	22.2	19.6	20.1
4	生活にはりあいができる	8.3	31.5	45.5
5	子育てを通じて友人が増える	19.4	28.1	35.2
6	子育ての経験が仕事などで役立つ	19.4	26.5	25.4
7	子どもから教えられることがある	44.4	62.3	**67.2**
8	子どもをもつ喜びを実感できる	61.1	**73.1**	66.8
9	子育てにより自分が成長できる	52.8	61.9	61.0
10	親や祖父母への感謝の気持ちが生まれる	66.7	50.4	45.3
11	子どもが成長すること	**77.8**	**73.1**	**74.6**
12	その他	2.8	2.7	2.4
13	良いと思うことは特にない	5.6	1.2	1.4
	無回答	0.0	0.4	0.2

※子どもがいる方のみを総数とした。

◆ 性別・子どもの有無別でみると、「その他」、「良いと思うことは特にない」を除くいずれの項目においても、男女ともに子どもがいる方の割合が子どもがいない方に比べて高くなっている。

図表 5-3　子育てをして良かったこと（性別・子どもの有無別）

（%）

項目		回答者数（件）	家庭が明るくなる	家族の会話が増える	夫婦の愛情がより深まる	生活にはりあいができる	子育てを通じて友人が増える	子育ての経験が仕事などで役立つ	子どもから教えられることがある
性別・子どもの有無別	男性・子どもあり	273	70.0	59.0	22.3	41.0	20.5	23.1	55.7
	男性・子どもなし	298	**46.6**	38.9	16.1	28.2	13.4	13.8	37.9
	女性・子どもあり	528	66.5	54.5	18.8	38.4	38.4	26.5	68.8
	女性・子どもなし	307	40.4	32.2	14.7	19.2	8.8	15.6	**46.3**

項目		回答者数（件）	子どもをもつ喜びを実感できる	子育てにより自分が成長できる	親や祖父母への感謝の気持ちが生まれる	子どもが成長すること	その他	良いと思うことは特にない	無回答
性別・子どもの有無別	男性・子どもあり	273	64.8	54.9	40.3	**75.5**	1.5	0.7	0.4
	男性・子どもなし	298	38.3	38.9	24.8	43.3	3.4	7.0	3.7
	女性・子どもあり	528	70.1	64.0	51.9	**73.3**	3.0	1.9	0.2
	女性・子どもなし	307	44.6	43.6	27.0	45.3	1.6	7.5	3.3

※各属性の回答の割合が高い項目第1位、第2位を網掛けにて示している。

◆ 過去の調査と比較すると、いずれの調査も「子どもが成長すること」が最も高くなっている。

図表 5-4　子育てをして良かったこと（【子どもがいる方のみ】総数、経年比較（参考））

（%）

	項目	R5調査 (n = 816)※	H30調査 (n = 480)※	H26調査 (n = 562)
1	家庭が明るくなる	67.5	**69.2**	61.2
2	家族の会話が増える	56.1	58.8	53.9
3	夫婦の愛情がより深まる	20.1	24.4	19.9
4	生活にはりあいができる	39.3	42.9	48.6
5	子育てを通じて友人が増える	32.5	39.8	39.1
6	子育ての経験が仕事などで役立つ	25.6	23.1	19.4
7	子どもから教えられることがある	64.8	66.3	**68.0**
8	子どもをもつ喜びを実感できる	**68.1**	67.3	63.3
9	子育てにより自分が成長できる	61.3	59.2	51.8
10	親や祖父母への感謝の気持ちが生まれる	48.3	63.3	57.5
11	子どもが成長すること	**73.9**	**70.6**	**69.2**
12	その他	2.5	2.9	1.1
13	良いと思うことは特にない	1.5	1.0	0.5
	無回答	0.4	-	0.2

※R5 調査は、調査対象者全員への設問であるが、子どもがいる方のみを総数として集計を行った。
※H30 調査、H26 調査は、「子どもがいる方のみ」の設問であった。
※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。
※H26 調査の設問は、選択肢に「わからない（0.9%）」も含む。

【問６】	あなたは、自分にとって子育てをして負担に思うことは何ですか。 あてはまる番号すべてに○をつけてください。 ※子どもがいない方は負担だと思われることについてお答えください。（複数回答）

◆ 子育てをして負担に思うことについて、子どもがいる方のみを総数としたところ、「子育てに出費がかさむ」が 62.4％で最も高く、次いで「自分の自由な時間がもてない」が 48.9％、「子育てによる身体的な疲れが大きい」が 45.0％となっている。

◆ 性別でみると、男女ともに「子育てに出費がかさむ」が最も高く、次いで男性では「自分の自由な時間がもてない」、女性では「子育てによる身体的な疲れが大きい」の割合が高くなっている。また、「夫婦で楽しむ時間がない」で、男性の割合が女性より 13.9 ポイント高く、「子育てによる身体的な疲れが大きい」、「子育てによる精神的な疲れが大きい」、「仕事が十分にできない」で、女性の割合が男性より 15 ポイント以上高くなっている。

図表 6-1 子育てをして負担に思うこと（【子どもがいる方のみ】総数、性別）

（％）

	項目	総数 (n = 816)※	男性 (n = 273)※	女性 (n = 528)※
1	子育てによる身体的な疲れが大きい	45.0	34.8	**50.6**
2	子育てによる精神的な疲れが大きい	41.4	29.3	47.3
3	子育てに出費がかさむ	**62.4**	**64.8**	**61.7**
4	自分の自由な時間がもてない	**48.9**	**45.8**	50.4
5	夫婦で楽しむ時間がない	16.5	25.6	11.7
6	仕事が十分にできない	23.8	11.4	29.5
7	子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない	5.3	2.9	6.3
8	困ったときや不安なときに相談できる人がいない	5.5	4.0	5.9
9	子育てが十分にできない	9.9	11.7	8.9
10	子どもが病気のとき	30.5	24.5	34.1
11	その他	2.2	1.5	2.5
12	負担に思うことは特にない	7.7	9.2	7.0
	無回答	1.0	1.5	0.6

※子どもがいる方のみを総数とした。

◆ 年代別でみると、いずれの年代においても「子育てに出費がかさむ」が最も高くなっている。30 歳代では「子育てによる身体的な疲れが大きい」の割合が他の年代に比べて高くなっている。

図表 6-2　子育てをして負担に思うこと（【子どもがいる方のみ】年代別）

（%）

	項目	18～29歳 (n = 36)※	30歳代 (n = 260)※	40歳代 (n = 503)※
1	子育てによる身体的な疲れが大きい	41.7	53.1	41.4
2	子育てによる精神的な疲れが大きい	47.2	46.9	37.8
3	子育てに出費がかさむ	**63.9**	**61.5**	**63.8**
4	自分の自由な時間がもてない	**50.0**	**56.2**	**45.1**
5	夫婦で楽しむ時間がない	25.0	19.6	14.5
6	仕事が十分にできない	33.3	25.0	21.5
7	子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない	2.8	4.6	5.8
8	困ったときや不安なときに相談できる人がいない	8.3	6.2	5.0
9	子育てが十分にできない	8.3	10.0	9.9
10	子どもが病気のとき	22.2	31.5	30.6
11	その他	0.0	1.9	2.6
12	負担に思うことは特にない	11.1	6.9	8.0
	無回答	2.8	0.8	0.6

※子どもがいる方のみを総数とした。

◆ 性別・子どもの有無別でみると、「子育てによる身体的な疲れが大きい」、「子育てによる精神的な疲れが大きい」、「自分の自由な時間がもてない」では、女性・子どもなしの割合が他に比べて高くなっている。また、「子育てに出費がかさむ」では、男性・子どもなしの割合が他に比べて高くなっている。

図表 6-3　子育てをして負担に思うこと（性別・子どもの有無別）

（%）

項目		回答者数（件）	子育てによる身体的な疲れが大きい	子育てによる精神的な疲れが大きい	子育てに出費がかさむ	自分の自由な時間がもてない	夫婦で楽しむ時間がない	仕事が十分にできない	子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない
性別・子どもの有無別	男性・子どもあり	273	34.8	29.3	**64.8**	45.8	25.6	11.4	2.9
	男性・子どもなし	298	51.3	54.0	**71.5**	51.3	21.1	13.1	4.4
	女性・子どもあり	528	50.6	47.3	**61.7**	50.4	11.7	29.5	6.3
	女性・子どもなし	307	62.9	56.4	**65.5**	57.3	16.6	19.9	6.5

項目		回答者数（件）	困ったときや不安なときに相談できる人がいない	子育てが十分にできない	子どもが病気のとき	その他	負担に思うことは特にない	無回答
性別・子どもの有無別	男性・子どもあり	273	4.0	11.7	24.5	1.5	9.2	1.5
	男性・子どもなし	298	8.7	17.4	29.5	3.4	1.7	2.0
	女性・子どもあり	528	5.9	8.9	34.1	2.5	7.0	0.6
	女性・子どもなし	307	13.0	18.2	30.3	3.6	4.6	2.6

※各属性の回答の割合が高い項目第1位、第2位を網掛けにて示している。

◆ 過去の調査と比較すると、平成 26 年調査から「子育てに出費がかさむ」の割合が増加傾向にある。

図表 6-4　子育てをして負担に思うこと（【子どもがいる方のみ】総数、経年比較（参考））

（%）

	項目	R5調査 (n = 816)※	H30調査 (n = 481)※	H26調査 (n = 562)
1	子育てによる身体的な疲れが大きい	45.0	34.7	27.8
2	子育てによる精神的な疲れが大きい	41.4	40.1	34.2
3	子育てに出費がかさむ	**62.4**	**57.8**	**52.0**
4	自分の自由な時間がもてない	**48.9**	**49.7**	**37.4**
5	夫婦で楽しむ時間がない	16.5	17.9	8.7
6	仕事が十分にできない	23.8	21.8	14.8
7	子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない	5.3	6.9	3.4
8	困ったときや不安なときに相談できる人がいない	5.5	4.4	3.0
9	子育てが十分にできない	9.9	7.3	5.3
10	子どもが病気のとき	30.5	23.7	14.9
11	その他	2.2	4.4	2.0
12	負担に思うことは特にない	7.7	9.1	13.5
	無回答	1.0	-	1.1

※R5調査は、調査対象者全員への設問であるが、子どもがいる方のみを総数として集計を行った。
※H30 調査、H26 調査は、「子どもがいる方のみ」の設問であった。
※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。
※H26 調査の設問は、選択肢に「わからない（1.2%）」も含む。

【問７】　あなたは、子育てでは、どのようなことで家計の負担が大きいと思われますか。
過去のご経験や子どもが成長した将来の予想も含め、あてはまる番号を３つ以内で選び○印をつけてください。（複数回答）

◆ 子育てにかかる家計への負担で大きいものについて、子どもがいる方のみを総数としたところ、「塾や習い事の費用」が 51.0％で最も高く、次いで「子どもの大学・大学院への入学準備にかかる費用」が 43.8％、「子どもが大学生・大学院生の間に必要な費用」が 40.4％となっている。

◆ 性別でみると、男女ともに「塾や習い事の費用」が最も高く、男性で 55.3％、女性で 49.1％と男性の割合が女性より 6.2 ポイント高くなっている。

図表 7-1　子育てにかかる家計への負担で大きいもの（【子どもがいる方のみ】総数、性別）

（％）

	項目	総数 (n = 816)※	男性 (n = 273)※	女性 (n = 528)※
1	保育所・幼稚園の保育料 （3歳～5歳児クラスの保育料は無償となっています）	8.6	9.9	8.1
2	子どもの小学校への入学準備にかかる費用	4.7	5.5	4.4
3	子どもが小学生の間に必要な費用	4.2	5.5	3.6
4	食費、衣服などの生活必需品の費用	28.1	30.0	26.7
5	医療費	2.1	2.2	2.1
6	家族で過ごすための娯楽費	14.8	17.9	13.3
7	塾や習い事の費用	**51.0**	**55.3**	**49.1**
8	子どもの中学校への入学準備にかかる費用	6.9	6.6	7.2
9	子どもが中学生の間に必要な費用	3.1	2.6	3.2
10	子どもの高校への入学準備にかかる費用	13.1	11.7	13.6
11	子どもが高校生の間に必要な費用	13.4	16.1	11.9
12	子どもの大学・大学院への入学準備にかかる費用	**43.8**	**39.6**	**46.2**
13	子どもが大学生・大学院生の間に必要な費用	40.4	37.7	42.4
14	その他	1.5	1.1	1.7
15	特に負担になっていることはない・ 負担になると思うことはない	1.7	1.1	1.7
	無回答	10.9	9.5	11.4

※子どもがいる方のみを総数とした。

◆ 年代別でみると、いずれの年代においても「塾や習い事の費用」が最も高くなっている。また、40 歳代で「子どもの大学・大学院への入学準備にかかる費用」、「子どもが大学生・大学院生の間に必要な費用」の割合が他の年代に比べて高くなっている。

図表 7-2　子育てにかかる家計への負担で大きいもの（【子どもがいる方のみ】年代別）

（%）

	項目	18～29歳 （n = 36）※	30歳代 （n = 260）※	40歳代 （n = 503）※
1	保育所・幼稚園の保育料 （3歳～5歳児クラスの保育料は無償となっています）	19.4	13.1	5.8
2	子どもの小学校への入学準備にかかる費用	11.1	6.9	3.2
3	子どもが小学生の間に必要な費用	13.9	5.0	3.0
4	食費、衣服などの生活必需品の費用	**30.6**	36.2	23.3
5	医療費	2.8	1.5	2.2
6	家族で過ごすための娯楽費	22.2	20.0	11.7
7	塾や習い事の費用	**44.4**	**43.1**	**55.7**
8	子どもの中学校への入学準備にかかる費用	5.6	7.3	7.0
9	子どもが中学生の間に必要な費用	5.6	3.5	2.6
10	子どもの高校への入学準備にかかる費用	2.8	11.5	14.9
11	子どもが高校生の間に必要な費用	13.9	11.9	14.1
12	子どもの大学・大学院への入学準備にかかる費用	**30.6**	35.8	**49.1**
13	子どもが大学生・大学院生の間に必要な費用	16.7	**36.5**	44.5
14	その他	5.6	1.5	1.0
15	特に負担になっていることはない・ 負担になると思うことはない	2.8	1.9	1.4
	無回答	13.9	8.8	11.5

※子どもがいる方のみを総数とした。

◆ 性別・子どもの有無別でみると、男女ともに子どもがいる方は「塾や習い事の費用」の割合が最も高く、男女ともに子どもがいない方は「子どもの大学・大学院への入学準備にかかる費用」の割合が最も高くなっている。

図表 7-3　子育てにかかる家計への負担で大きいもの（性別・子どもの有無別）

（%）

項目		回答者数（件）	保育所・幼稚園の保育料	子どもの小学校への入学準備にかかる費用	子どもが小学生の間に必要な費用	食費、衣服などの生活必需品の費用	医療費	家族で過ごすための娯楽費	塾や習い事の費用	子どもの中学校への入学準備にかかる費用
性別・子どもの有無別	男性・子どもあり	273	9.9	5.5	5.5	30.0	2.2	17.9	**55.3**	6.6
	男性・子どもなし	298	3.7	8.7	7.4	23.8	9.1	10.4	36.9	3.7
	女性・子どもあり	528	8.1	4.4	3.6	26.7	2.1	13.3	**49.1**	7.2
	女性・子どもなし	307	5.2	9.4	6.8	25.1	11.1	5.9	34.2	4.9

項目		回答者数（件）	子どもが中学生の間に必要な費用	子どもの高校への入学準備にかかる費用	子どもが高校生の間に必要な費用	子どもの大学・大学院への入学準備にかかる費用	子どもが大学生・大学院生の間に必要な費用	その他	特に負担になっていることはない・負担になると思うことはない	無回答
性別・子どもの有無別	男性・子どもあり	273	2.6	11.7	16.1	39.6	37.7	1.1	1.1	9.5
	男性・子どもなし	298	6.7	8.7	17.8	**40.9**	39.9	2.7	3.4	12.8
	女性・子どもあり	528	3.2	13.6	11.9	46.2	42.4	1.7	1.7	11.4
	女性・子どもなし	307	5.9	11.4	21.2	**48.9**	45.9	3.3	3.3	7.5

※各属性の回答の割合が高い項目第1位、第2位を網掛けにて示している。

◆ 理想の子どもの数を持つ予定のない方を総数としたところ、「子どもの大学・大学院への入学準備にかかる費用」が 46.1％で最も高く、次いで「塾や習い事の費用」が 42.3%、「子どもが大学生・大学院生の間に必要な費用」が 42.0%となっている。

◆ 性別でみると、男性は「塾や習い事の費用」が 46.0%で最も高く、女性は「子どもの大学・大学院への入学準備にかかる費用」が 50.2%で最も高くなっている。

図表 7-4　子育てにかかる家計への負担で大きいもの
（【理想の子どもの数を持つ予定のない方】総数、性別）

（%）

項目		回答者数（件）	保育所・幼稚園の保育料	子どもの小学校への入学準備にかかる費用	子どもが小学生の間に必要な費用	食費、衣服などの生活必需品の費用	医療費	家族で過ごすための娯楽費	塾や習い事の費用	子どもの中学校への入学準備にかかる費用
理想の子どもの数を持つ予定のない方（総数）※		553	4.5	5.4	4.3	23.9	6.5	11.2	42.3	5.4
性別	男性	224	5.4	5.4	6.3	21.0	6.7	10.7	**46.0**	4.5
	女性	317	4.1	5.7	2.8	25.9	6.6	12.0	39.7	6.0

項目		回答者数（件）	子どもが中学生の間に必要な費用	子どもの高校への入学準備にかかる費用	子どもが高校生の間に必要な費用	子どもの大学・大学院への入学準備にかかる費用	子どもが大学生・大学院生の間に必要な費用	その他	特に負担になっていることはない・負担になると思うことはない	無回答
理想の子どもの数を持つ予定のない方（総数）		553	3.8	11.6	17.5	**46.1**	42.0	2.7	2.7	11.9
性別	男性	224	4.5	12.1	18.3	41.1	41.1	3.1	1.8	12.9
	女性	317	3.5	10.7	17.7	**50.2**	43.5	2.5	2.8	11.0

※理想の子どもの数を持つ予定のない方のみを総数とした。
※各属性の回答の割合が高い項目第1位、第2位を網掛けにて示している。

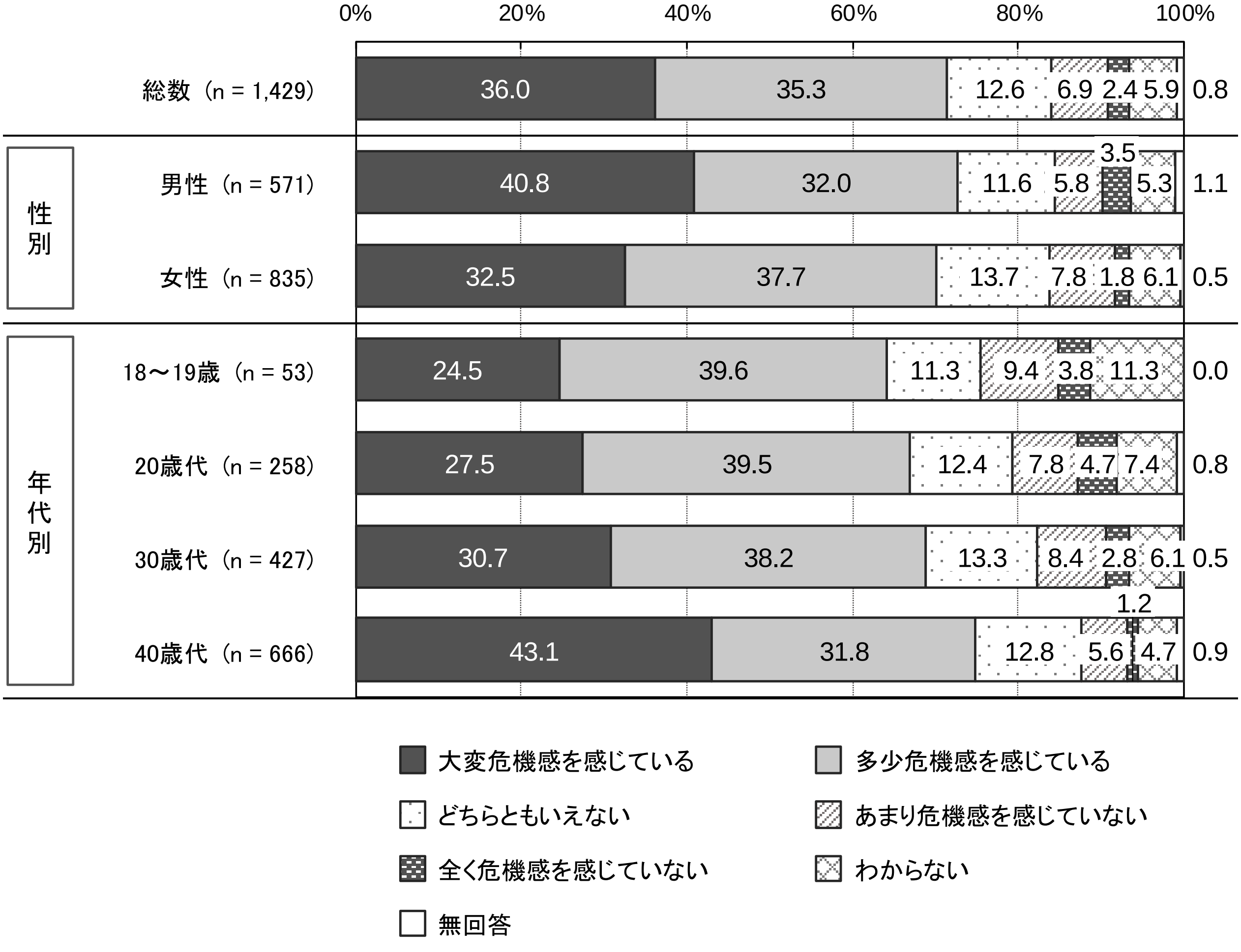
【問８】　あなたは、現在の低い出生率が続くことについて、将来に危機感を感じていますか。次の中から１つ選び○印をつけてください。

◆ 少子化への危機感については、「大変危機感を感じている」が 36.0%と最も高く、次いで「多少危機感を感じている」が 35.3%、「どちらともいえない」が 12.6%となっている。また、「大変危機感を感じている」と「多少危機感を感じている」をあわせた『危機感を感じている』は 71.3%となっている。

◆ 性別でみると、「大変危機感を感じている」では、男性で 40.8%、女性で 32.5%と、男性の割合が女性より 8.3 ポイント高くなっている。

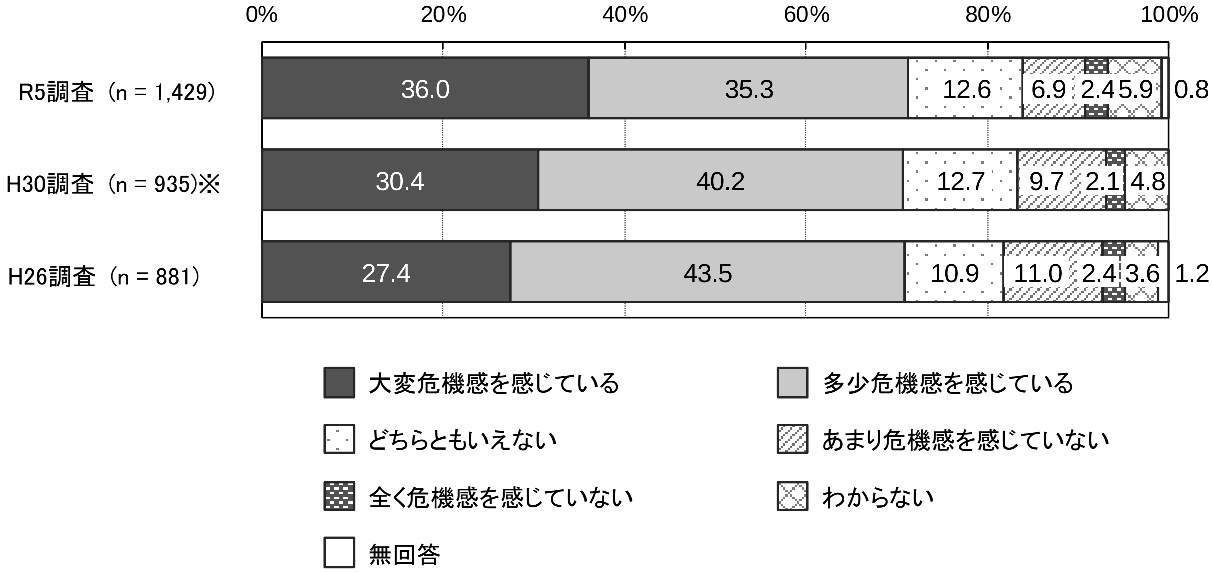
◆ 年代別でみると、『危機感を感じている』では、年代が上がるにつれて割合が高くなっており、18～19 歳が 64.1%に対して、40 歳代では 74.9%と 10.8 ポイントの差となっている。

図表 8-1　少子化への危機感（総数、性別、年代別）



◆　過去の調査と比較すると、平成 26 年調査から「大変危機感を感じている」の割合が増加傾向にある。

図表 8-2　少子化への危機感（総数、経年比較（参考））



※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。

【問９】　出生率が低下し、子どもが少なくなっていますが、あなたが、少子化が与える影響で特に課題だと思うことは何ですか。
あてはまる番号すべてに〇をつけてください。（複数回答）

- ◆ 少子化が与える影響については、「年金や医療費の負担など、社会保障に与える影響」が76.5％で最も高く、次いで「労働力人口の減少など、経済の活力に与える影響」が67.1％、「過疎化の一層の進行など、社会の活力に与える影響」が41.9％となっている。
- ◆ 性別でみると、男女ともに「年金や医療費の負担など、社会保障に与える影響」が最も高くなっている。「過疎化の一層の進行など、社会の活力に与える影響」、「労働力人口の減少など、経済の活力に与える影響」では、男性の割合が女性より高くなっている。

図表 9-1　少子化が与える影響（総数、性別）

（%）

	項目	総数（n = 1,429）	男性（n = 571）	女性（n = 835）
1	過疎化の一層の進行など、社会の活力に与える影響	41.9	46.2	39.2
2	労働力人口の減少など、経済の活力に与える影響	**67.1**	**71.3**	**64.2**
3	年金や医療費の負担など、社会保障に与える影響	**<u>76.5</u>**	**<u>76.0</u>**	**<u>76.9</u>**
4	学校の減少など、身近な日常生活に与える影響	21.8	24.7	19.8
5	切磋琢磨しあう同年代の子どもの減少など、子どもの健全な成長に与える影響	21.1	21.4	20.6
6	その他	3.6	5.1	2.6
7	少子化問題については関心がない	2.6	2.8	2.4
8	特にない	2.4	2.6	2.2
	無回答	1.0	1.1	0.8

◆ 年代別でみると、いずれの年代においても「年金や医療費の負担など、社会保障に与える影響」が最も高くなっており、次いで 18～19 歳では「過疎化の一層の進行など、社会の活力に与える影響」、20～40 歳代では「労働力人口の減少など、経済の活力に与える影響」の割合が高くなっている。

図表 9-2　少子化が与える影響（年代別）

（%）

	項目	18～19歳 （n = 53）	20歳代 （n = 258）	30歳代 （n = 427）	40歳代 （n = 666）
1	過疎化の一層の進行など、社会の活力に与える影響	**43.4**	43.4	42.4	41.3
2	労働力人口の減少など、経済の活力に与える影響	39.6	**67.4**	**68.1**	**68.6**
3	年金や医療費の負担など、社会保障に与える影響	**64.2**	**72.9**	**77.5**	**78.5**
4	学校の減少など、身近な日常生活に与える影響	17.0	16.7	23.9	22.7
5	切磋琢磨しあう同年代の子どもの減少など、子どもの健全な成長に与える影響	24.5	16.3	20.8	22.5
6	その他	0.0	2.3	3.3	4.5
7	少子化問題については関心がない	1.9	4.3	2.1	2.1
8	特にない	7.5	3.5	1.6	2.0
	無回答	0.0	0.8	0.7	1.2

◆ 過去の調査と比較すると、平成 26 年調査から「労働力人口の減少など、経済の活力に与える影響」の割合が増加傾向にある。

図表 9-3　少子化が与える影響（総数、経年比較（参考））

（%）

	項目	R5調査（n = 1,429）	H30調査（n = 934）※	H26調査（n = 881）
1	過疎化の一層の進行など、社会の活力に与える影響	41.9	41.3	32.6
2	労働力人口の減少など、経済の活力に与える影響	**67.1**	**65.0**	**55.6**
3	年金や医療費の負担など、社会保障に与える影響	**76.5**	**83.2**	**82.1**
4	学校の減少など、身近な日常生活に与える影響	21.8	22.2	19.0
5	切磋琢磨しあう同年代の子どもの減少など、子どもの健全な成長に与える影響	21.1	19.8	16.1
6	その他	3.6	2.8	2.6
7	少子化問題については関心がない	2.6	2.8	1.9
8	特にない	2.4	1.6	1.4
	無回答	1.0	-	0.6

※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。
※H26 調査の設問は、選択肢に「わからない（3.0%）」も含む。

【問10】　「安心して子どもを生み育てることができる岐阜県づくり」を実現するために重要なことは何だと思いますか。
この中からあなたのお考えに近い番号すべてに○印をつけてください。（複数回答）

◆ 安心して子どもを生み育てることができる岐阜県づくりを実現するための施策については、「子育てにかかる経済的負担を軽減すること」が69.4％で最も高く、次いで「ワーク・ライフ・バランスの推進や休暇制度の充実など、子育てしやすい職場環境を整備すること」が58.2％、「安定した雇用など、生活基盤を確保すること」が53.1％となっている。

◆ 性別でみると、男女ともに「子育てにかかる経済的負担を軽減すること」が最も高く、次いで男性では「安定した雇用など、生活基盤を確保すること」、女性では「ワーク・ライフ・バランスの推進や休暇制度の充実など、子育てしやすい職場環境を整備すること」の割合が高くなっている。

図表 10-1　安心して子どもを生み育てることができる岐阜県づくりを実現するための施策
（総数、性別）

（％）

	項目	総数 (n = 1,429)	男性 (n = 571)	女性 (n = 835)
1	安定した雇用など、生活基盤を確保すること	53.1	**56.2**	50.9
2	ワーク・ライフ・バランスの推進や休暇制度の充実など、子育てしやすい職場環境を整備すること	**58.2**	53.8	**61.6**
3	安心して妊娠・出産・子育てできる医療体制を整備すること	42.5	42.0	42.6
4	育児の不安感・孤立感を解消し、楽しく子育てできる環境をつくること	34.1	31.5	35.4
5	子どもを預けられる保育所、認定こども園の充実を図ること	35.5	33.1	36.5
6	子どもを預けられる幼稚園の充実を図ること	20.9	21.4	20.5
7	子育てにかかる経済的負担を軽減すること	**69.4**	**70.4**	**68.7**
8	幼児教育の充実を図ること	11.9	13.1	10.5
9	学校教育の充実を図ること	20.6	20.1	20.6
10	子育て世帯に適した住宅の確保など、子育てしやすい居住環境を整備すること	22.4	23.6	21.7
11	防犯や交通事故防止など、安全な子育て環境を確保すること	28.4	25.2	30.5
12	行政、県民、ボランティア・NPO、企業など社会が一体となって子育てを応援すること	22.5	21.2	23.7
13	子育てに協力してくれる人や相談できる人がいること	29.0	23.5	32.2
14	その他	5.7	6.3	5.3
	無回答	1.0	1.2	0.8

◆ 年代別でみると、いずれの年代においても「子育てにかかる経済的負担を軽減すること」が最も高く、そのうち 20 歳代で 75.2%と他の年代に比べて高くなっている。また、18～19 歳では「安定した雇用など、生活基盤を確保すること」も同様に 54.7%と最も高くなっている。

図表 10-2　安心して子どもを生み育てることができる岐阜県づくりを実現するための施策（年代別）

（%）

	項目	18～19歳 (n = 53)	20歳代 (n = 258)	30歳代 (n = 427)	40歳代 (n = 666)
1	安定した雇用など、生活基盤を確保すること	**54.7**	53.5	52.5	53.0
2	ワーク・ライフ・バランスの推進や休暇制度の充実など、子育てしやすい職場環境を整備すること	50.9	**60.1**	**63.5**	**55.1**
3	安心して妊娠・出産・子育てできる医療体制を整備すること	39.6	52.3	44.5	37.5
4	育児の不安感・孤立感を解消し、楽しく子育てできる環境をつくること	30.2	42.2	34.9	30.2
5	子どもを預けられる保育所、認定こども園の充実を図ること	28.3	39.1	39.3	31.4
6	子どもを預けられる幼稚園の充実を図ること	30.2	27.9	20.1	17.9
7	子育てにかかる経済的負担を軽減すること	**54.7**	**75.2**	**69.8**	**68.2**
8	幼児教育の充実を図ること	11.3	12.4	13.1	10.5
9	学校教育の充実を図ること	17.0	19.4	20.1	21.5
10	子育て世帯に適した住宅の確保など、子育てしやすい居住環境を整備すること	13.2	28.7	26.5	18.0
11	防犯や交通事故防止など、安全な子育て環境を確保すること	30.2	25.2	30.2	28.4
12	行政、県民、ボランティア・NPO、企業など社会が一体となって子育てを応援すること	22.6	19.0	24.6	22.8
13	子育てに協力してくれる人や相談できる人がいること	28.3	28.3	25.8	30.8
14	その他	0.0	3.1	5.4	7.2
	無回答	1.9	0.8	0.5	1.4

◆ 過去の調査と比較すると、平成 26 年調査から「子育てにかかる経済的負担を軽減すること」の割合がやや増加傾向にある。

図表 10-3　安心して子どもを生み育てることができる岐阜県づくりを実現するための施策
（総数、経年比較（参考））

（%）

	項目	R5調査 （n = 1,429）	H30調査 （n = 936）※	H26調査 （n = 881）
1	安定した雇用など、生活基盤を確保すること	53.1	50.3	**59.1**
2	ワーク・ライフ・バランスの推進や休暇制度の充実など、子育てしやすい職場環境を整備すること	**58.2**	**66.0**	59.0
3	安心して妊娠・出産・子育てできる医療体制を整備すること	42.5	42.8	47.2
4	育児の不安感・孤立感を解消し、楽しく子育てできる環境をつくること	34.1	32.1	28.3
5	子どもを預けられる保育所、認定こども園の充実を図ること	35.5	38.9	-
6	子どもを預けられる幼稚園の充実を図ること	20.9	24.0	-
7	子育てにかかる経済的負担を軽減すること	**69.4**	**65.5**	**66.5**
8	幼児教育の充実を図ること	11.9	11.6	-
9	学校教育の充実を図ること	20.6	17.7	15.6
10	子育て世帯に適した住宅の確保など、子育てしやすい居住環境を整備すること	22.4	18.8	15.6
11	防犯や交通事故防止など、安全な子育て環境を確保すること	28.4	27.7	18.6
12	行政、県民、ボランティア・NPO、企業など社会が一体となって子育てを応援すること	22.5	17.3	24.1
13	子育てに協力してくれる人や相談できる人がいること	29.0	-	-
14	その他	5.7	3.4	3.5
	無回答	1.0	-	0.8

※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。
※H26 調査の設問は、選択肢に「保育サービスの量的・質的充実を図ること（34.3%）」、「わからない（2.2%）」も含む。

【問11】　あなたは、結婚を希望する人の結婚を支援する施策として何が重要だと思いますか。この中からあなたの考えに近い番号を３つ以内で選び○印をつけてください。（複数回答）

◆ 結婚を希望する人の結婚を支援する施策については、「賃金を上げて安定した家計を営めるよう支援すること」が 58.4％で最も高く、次いで「夫婦がともに働きつづけられるよう職場環境を充実すること」が 37.8％、「安定した雇用機会を提供すること」が 32.2％となっている。

◆ 性別でみると、男女ともに「賃金を上げて安定した家計を営めるよう支援すること」が最も高くなっている。また、「出会いの場を提供すること」で、男性の割合が女性より 8.6 ポイント高く、「夫婦がともに働きつづけられるよう職場環境を充実すること」で、女性の割合が男性より 13.1 ポイント高くなっている。

図表 11-1　結婚を希望する人の結婚を支援する施策（総数、性別）

（%）

	項目	総数 (n = 1,429)	男性 (n = 571)	女性 (n = 835)
1	安定した雇用機会を提供すること	32.2	30.6	33.8
2	賃金を上げて安定した家計を営めるよう支援すること	**58.4**	**57.8**	**59.0**
3	結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと	26.0	30.1	23.2
4	出会いの場を提供すること	26.8	**32.0**	23.4
5	結婚した方が有利となるような税制を行うこと	25.8	31.2	22.6
6	夫婦がともに働きつづけられるよう職場環境を充実すること	**37.8**	29.9	**43.0**
7	若者の結婚を推奨するような啓発活動を行うこと	8.1	10.9	6.0
8	その他	3.1	3.0	3.2
9	特にない	3.2	2.8	3.4
	無回答	2.9	3.3	2.4

◆ 年代別でみると、いずれの年代においても「賃金を上げて安定した家計を営めるよう支援すること」が最も高くなっている。20 歳代では「結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと」が 43.8%と他の年代に比べて高くなっている。

図表 11-2　結婚を希望する人の結婚を支援する施策（年代別）

（%）

	項目	18～19歳 (n = 53)	20歳代 (n = 258)	30歳代 (n = 427)	40歳代 (n = 666)
1	安定した雇用機会を提供すること	**32.1**	31.8	30.0	34.1
2	賃金を上げて安定した家計を営めるよう支援すること	**52.8**	**61.6**	**60.2**	**56.5**
3	結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと	28.3	**43.8**	26.0	19.1
4	出会いの場を提供すること	17.0	22.9	29.0	27.9
5	結婚した方が有利となるような税制を行うこと	18.9	28.3	26.9	25.1
6	夫婦がともに働きつづけられるよう職場環境を充実すること	**32.1**	35.3	**37.9**	**38.7**
7	若者の結婚を推奨するような啓発活動を行うこと	13.2	8.1	7.3	8.0
8	その他	0.0	2.3	2.8	3.9
9	特にない	1.9	3.1	3.3	3.3
	無回答	5.7	2.3	2.3	3.0

◆ 性別・結婚の有無別でみると、女性の未婚者、既婚者では「夫婦がともに働きつづけられるよう職場環境を充実すること」の割合が男性の未婚者、既婚者と比べて高くなっている。男性の未婚者では、「出会いの場を提供すること」の割合が他と比べて高くなっている。

図表 11-3 結婚を希望する人の結婚を支援する施策（性別・結婚の有無別）

（%）

項目		回答者数（件）	安定した雇用機会を提供すること	賃金を上げて安定した家計を営めるよう支援すること	結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと	出会いの場を提供すること	結婚した方が有利となるような税制を行うこと	夫婦がともに働きつづけられるよう職場環境を充実すること	若者の結婚を推奨するような啓発活動を行うこと	その他	特にない	無回答
総数		1,429	32.2	**58.4**	26.0	26.8	25.8	37.8	8.1	3.1	3.2	2.9
性別・結婚の有無別	男性・未婚者	252	32.9	**57.9**	33.3	36.5	25.8	27.8	11.5	1.6	2.4	4.0
	男性・既婚者	315	28.9	**58.1**	27.3	28.9	35.6	31.1	10.2	4.1	3.2	2.5
	女性・未婚者	236	31.4	**59.3**	30.9	21.6	16.1	39.8	8.9	1.7	6.4	3.0
	女性・既婚者	595	34.8	**58.8**	20.3	24.2	25.4	44.5	4.9	3.7	2.2	2.2

※各属性の回答の割合が高い項目第1位、第2位を網掛けにて示している。

◆　過去の調査と比較すると、平成 26 年調査から「賃金を上げて安定した家計を営めるよう支援すること」の割合が増加傾向にある。

図表 11-4　結婚を希望する人の結婚を支援する施策（総数、経年比較（参考））

（%）

項目		R5調査 （n = 1,429）	H30調査 （n = 938）※	H26調査 （n = 881）
1	安定した雇用機会を提供すること	32.2	40.3	**<u>49.7</u>**
2	賃金を上げて安定した家計を営めるよう支援すること	**<u>58.4</u>**	**<u>48.9</u>**	**46.1**
3	結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと	26.0	29.0	22.6
4	出会いの場を提供すること	26.8	28.5	28.6
5	結婚した方が有利となるような税制を行うこと	25.8	25.5	25.0
6	夫婦がともに働きつづけられるよう職場環境を充実すること	**37.8**	**42.8**	42.8
7	若者の結婚を推奨するような啓発活動を行うこと	8.1	13.3	13.3
8	その他	3.1	1.8	1.8
9	特にない	3.2	3.5	1.4
	無回答	2.9	-	1.5

※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。
※H26 調査の設問は、選択肢に「わからない（3.5%）」も含む。

【問12】	あなたは、安心して妊娠・出産ができる環境を整備する施策として何が重要だと思いますか。 この中からあなたの考えに近い番号を３つ以内で選び〇印をつけてください。 （複数回答）

◆ 安心して妊娠・出産ができる環境を整備する施策については、「出産育児一時金（２０２３年４月から５０万円に増額）を増額する」が 42.1％で最も高く、次いで「産後のサポートを充実する」が 40.0％、「不妊治療に対する助成（２０２３年４月から１回１０万円を助成）を拡充する」が 38.3％となっている。

◆ 性別でみると、男性では「出産育児一時金（２０２３年４月から５０万円に増額）を増額する」が 49.6％と最も高く、女性と比べて 12.4 ポイント高くなっている。女性では「産後のサポートを充実する」が 42.6％と最も高く、男性と比べて 5.6 ポイント高くなっている。

図表 12-1　安心して妊娠・出産ができる環境を整備する施策（総数、性別）

（％）

	項目	総数 (n = 1,429)	男性 (n = 571)	女性 (n = 835)
1	出産育児一時金（2023年4月から50万円に増額）を増額する	42.1	49.6	37.2
2	不妊治療に対する助成（2023年4月から1回10万円を助成）を拡充する	38.3	33.1	42.2
3	産前6週間（多胎妊娠は14週間）・産後8週間の休業期間を拡大する	32.3	30.5	33.7
4	妊娠・出産について気軽に相談できる環境を整備する	12.9	12.4	12.9
5	産後のサポートを充実する	40.0	37.0	42.6
6	母子保健サービスを充実する（保健師による家庭訪問、母と子の健康サポートなど）	13.0	14.9	11.9
7	家事援助などを行うヘルパーの訪問サービスを充実する	21.1	15.9	24.7
8	産科医療体制を充実する	17.1	14.2	19.0
9	その他	6.0	7.0	5.3
10	特にない	4.3	6.0	3.1
	無回答	3.1	3.3	2.5

◆ 年代別でみると、18～19 歳、20～30 歳代では「出産育児一時金（２０２３年４月から５０万円に増額）を増額する」、40 歳代では「不妊治療に対する助成（２０２３年４月から１回１０万円を助成）を拡充する」が最も高くなっている。20 歳代では「産前６週間（多胎妊娠は１４週間）・産後８週間の休業期間を拡大する」が 41.5%と他の年代と比べて高くなっている。

図表 12-2　安心して妊娠・出産ができる環境を整備する施策（年代別）

（%）

	項目	18～19歳（n = 53）	20歳代（n = 258）	30歳代（n = 427）	40歳代（n = 666）
1	出産育児一時金（2023年4月から50万円に増額）を増額する	**50.9**	**58.5**	**42.6**	34.8
2	不妊治療に対する助成（2023年4月から1回10万円を助成）を拡充する	20.8	33.7	41.7	**39.5**
3	産前6週間（多胎妊娠は14週間）・産後8週間の休業期間を拡大する	35.8	**41.5**	32.8	28.1
4	妊娠・出産について気軽に相談できる環境を整備する	20.8	14.3	11.5	12.3
5	産後のサポートを充実する	**47.2**	40.3	**41.9**	**38.6**
6	母子保健サービスを充実する（保健師による家庭訪問、母と子の健康サポートなど）	20.8	17.1	14.8	10.1
7	家事援助などを行うヘルパーの訪問サービスを充実する	15.1	11.6	20.1	26.0
8	産科医療体制を充実する	9.4	14.0	15.7	19.8
9	その他	3.8	5.4	5.6	6.8
10	特にない	7.5	2.3	4.4	4.7
	無回答	1.9	2.7	2.6	3.2

◆ 過去の調査と比較すると、平成 26 年調査から「家事援助などを行うヘルパーの訪問サービスを充実する」の割合が増加傾向にある。

図表 12-3　安心して妊娠・出産ができる環境を整備する施策（総数、経年比較（参考））

（%）

	項目	R5調査 (n = 1,429)	H30調査 (n = 932)※	H26調査 (n = 881)
1	出産育児一時金（2023年4月から50万円に増額）を増額する	**42.1**	**44.5**	**37.6**
2	不妊治療に対する助成（2023年4月から1回10万円を助成）を拡充する	38.3	**43.3**	**38.4**
3	産前6週間（多胎妊娠は14週間）・産後8週間の休業期間を拡大する	32.3	42.6	28.0
4	妊娠・出産について気軽に相談できる環境を整備する	12.9	18.8	-
5	産後のサポートを充実する	**40.0**	43.1	-
6	母子保健サービスを充実する（保健師による家庭訪問、母と子の健康サポートなど）	13.0	12.3	21.2
7	家事援助などを行うヘルパーの訪問サービスを充実する	21.1	14.7	12.7
8	産科医療体制を充実する	17.1	22.6	29.4
9	その他	6.0	3.5	3.9
10	特にない	4.3	2.8	3.0
	無回答	3.1	-	1.9

※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。
※H26 調査の設問は、選択肢に「妊娠中の健康診断を無料化する（51.4%）」、「わからない（5.8%）」も含む。

【問13】　あなたは、育児を支援する施策として何が重要だと思いますか。
この中からあなたの考えに近い番号を３つ以内で選び○印をつけてください。
（複数回答）

◆ 育児を支援する施策については、「児童手当や扶養控除など、子育てに対する経済的支援を充実する」が 48.2％で最も高く、次いで「教育費への支援を充実する」が 34.6％、「フレックスタイムの導入など、柔軟な働き方を推し進める」が 29.0％となっている。

◆ 性別でみると、男女ともに「児童手当や扶養控除など、子育てに対する経済的支援を充実する」が最も高く、男性で 52.2％、女性で 45.9％と、男性の割合が女性より 6.3 ポイント高くなっている。

図表 13-1　育児を支援する施策（総数、性別）

（％）

	項目	総数 (n = 1,429)	男性 (n = 571)	女性 (n = 835)
1	保育所の時間延長など、多様な保育サービスを充実する	26.7	27.8	25.5
2	児童手当や扶養控除など、子育てに対する経済的支援を充実する	**48.2**	**52.2**	**45.9**
3	育児休業をとりやすい職場環境を整備する	28.6	29.9	27.5
4	フレックスタイムの導入など、柔軟な働き方を推し進める	29.0	25.4	31.6
5	時間外勤務を短縮するなど、男性の育児参加を促進する	19.7	19.8	19.8
6	育児休業中の所得保障を充実する	17.8	18.4	17.7
7	出産・育児による退職後の再就職支援を充実する	15.3	9.3	19.4
8	子どもの医療費への支援を充実する	13.9	14.0	13.9
9	教育費への支援を充実する	**34.6**	**36.1**	**34.3**
10	子どもを連れて安心して外出できる地域環境を整備する	10.6	11.4	10.3
11	育児について相談する場、親同士が交流できる場を提供する	3.6	3.2	4.0
12	その他	3.1	3.2	3.1
13	特にない	2.5	3.5	1.8
	無回答	3.1	3.3	2.6

◆ 年代別でみると、18～19 歳を除くいずれの年代においても「児童手当や扶養控除など、子育てに対する経済的支援を充実する」が最も高く、そのうち 30 歳代が 52.5%と他の年代に比べて高くなっている。18～19 歳では「教育費への支援を充実する」が最も高くなっている。

図表 13-2　育児を支援する施策（年代別）

（%）

	項目	18～19歳 （n = 53）	20歳代 （n = 258）	30歳代 （n = 427）	40歳代 （n = 666）
1	保育所の時間延長など、多様な保育サービスを充実する	20.8	29.8	26.0	25.8
2	児童手当や扶養控除など、子育てに対する経済的支援を充実する	**35.8**	<u>**47.3**</u>	<u>**52.5**</u>	<u>**47.0**</u>
3	育児休業をとりやすい職場環境を整備する	34.0	**37.2**	27.9	25.1
4	フレックスタイムの導入など、柔軟な働き方を推し進める	15.1	25.6	30.7	30.5
5	時間外勤務を短縮するなど、男性の育児参加を促進する	17.0	23.3	19.4	18.9
6	育児休業中の所得保障を充実する	13.2	18.6	21.5	15.6
7	出産・育児による退職後の再就職支援を充実する	17.0	12.8	15.9	15.8
8	子どもの医療費への支援を充実する	18.9	16.7	11.7	14.0
9	教育費への支援を充実する	<u>**37.7**</u>	31.4	**32.3**	**38.0**
10	子どもを連れて安心して外出できる地域環境を整備する	18.9	9.7	13.3	8.9
11	育児について相談する場、親同士が交流できる場を提供する	7.5	4.3	4.2	2.7
12	その他	0.0	0.8	3.0	4.5
13	特にない	5.7	1.9	2.1	2.7
	無回答	1.9	2.7	1.9	3.8

◆ 性別・結婚の有無別でみると、男女ともに「育児休業をとりやすい職場環境を整備する」で、未婚者の割合が既婚者に比べて高く、「児童手当や扶養控除など、子育てに対する経済的支援を充実する」では、既婚者の割合が未婚者に比べて高くなっている。

図表 13-3　育児を支援する施策（性別・結婚の有無別）

（%）

項目		回答者数（件）	保育所の時間延長など、多様な保育サービスを充実する	児童手当や扶養控除など、子育てに対する経済的支援を充実する	育児休業をとりやすい職場環境を整備する	フレックスタイムの導入など、柔軟な働き方を推し進める	時間外勤務を短縮するなど、男性の育児参加を促進する	育児休業中の所得保障を充実する	出産・育児による退職後の再就職支援を充実する
総数		1,429	26.7	**48.2**	28.6	29.0	19.7	17.8	15.3
性別・結婚の有無別	男性・未婚者	252	26.2	**43.7**	34.5	22.6	21.4	20.2	8.7
	男性・既婚者	315	28.6	**59.7**	26.3	27.6	18.7	16.8	9.8
	女性・未婚者	236	31.4	**37.3**	**37.3**	24.6	22.5	17.4	20.8
	女性・既婚者	595	23.2	**49.1**	23.9	34.6	18.8	18.0	19.0

項目		回答者数（件）	子どもの医療費への支援を充実する	教育費への支援を充実する	子どもを連れて安心して外出できる地域環境を整備する	育児について相談する場、親同士が交流できる場を提供する	その他	特にない	無回答
総数		1,429	13.9	34.6	10.6	3.6	3.1	2.5	3.1
性別・結婚の有無別	男性・未婚者	252	15.5	25.4	12.7	4.4	3.2	6.7	4.0
	男性・既婚者	315	13.0	44.4	10.2	2.2	3.2	1.0	2.5
	女性・未婚者	236	17.8	26.7	7.6	4.7	0.8	3.8	2.1
	女性・既婚者	595	12.4	37.1	11.4	3.7	3.9	1.0	2.9

※各属性の回答の割合が高い項目第1位、第2位を網掛けにて示している。

◆ 過去の調査と比較すると、平成 26 年調査から「教育費への支援を充実する」の割合がやや増加傾向にある。

図表 13-4 育児を支援する施策（総数、経年比較（参考））

（%）

	項目	R5調査 (n = 1,429)	H30調査 (n = 936)※	H26調査 (n = 881)
1	保育所の時間延長など、多様な保育サービスを充実する	26.7	31.3	**32.0**
2	児童手当や扶養控除など、子育てに対する経済的支援を充実する	**48.2**	**48.6**	**49.3**
3	育児休業をとりやすい職場環境を整備する	28.6	**33.8**	27.4
4	フレックスタイムの導入など、柔軟な働き方を推し進める	29.0	26.7	18.4
5	時間外勤務を短縮するなど、男性の育児参加を促進する	19.7	23.4	14.3
6	育児休業中の所得保障を充実する	17.8	16.8	14.4
7	出産・育児による退職後の再就職支援を充実する	15.3	25.3	22.6
8	子どもの医療費への支援を充実する	13.9	20.3	24.9
9	教育費への支援を充実する	**34.6**	33.0	30.5
10	子どもを連れて安心して外出できる地域環境を整備する	10.6	9.4	9.6
11	育児について相談する場、親同士が交流できる場を提供する	3.6	4.4	5.6
12	その他	3.1	2.7	2.0
13	特にない	2.5	1.0	1.4
	無回答	3.1	-	2.4

※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。
※H26 調査の設問は、選択肢に「わからない（3.4%）」も含む。

【問14】	あなたは、子育てにおいて、地域社会における住民同士の助け合いとして、どのような活動があればいいと思いますか。 この中からあなたのお考えに近い番号を３つ以内で選び○印をつけてください。 （複数回答）

◆ 地域社会の中であればよいと思う活動については、「子どもにスポーツや勉強を教えてくれる活動」が 38.7%で最も高く、次いで「不意の外出の時などに子どもを預かる活動」が 37.2%、「子育てに関する悩みを気軽に相談できるような活動」が 30.9%となっている。

◆ 性別でみると、男性では「子どもにスポーツや勉強を教えてくれる活動」が 38.7%と最も高くなっている。女性では「不意の外出の時などに子どもを預かる活動」が 43.5%と最も高く、男性と比べて 15.0 ポイント高くなっている。

図表 14-1　地域社会の中であればよいと思う活動（総数、性別）

（%）

	項目	総数 (n = 1,429)	男性 (n = 571)	女性 (n = 835)
1	子育てに関する悩みを気軽に相談できるような活動	30.9	**32.6**	29.9
2	子育て家庭の家事を支援する活動	27.6	27.5	27.5
3	不意の外出の時などに子どもを預かる活動	**37.2**	28.5	**43.5**
4	子どもと遊んでくれる活動	18.1	18.4	18.2
5	子どもにスポーツや勉強を教えてくれる活動	**38.7**	**38.7**	**39.2**
6	子育てをする親同士で話ができる仲間づくりの活動	19.9	22.6	18.4
7	子育てに関連した情報を簡単に入手しあえるような活動	23.2	22.2	24.1
8	その他	2.4	2.6	2.3
9	特にない	9.8	12.3	7.9
	無回答	2.1	2.1	1.7

◆ 年代別でみると、18～19 歳、20 歳代では「子育てに関する悩みを気軽に相談できるような活動」が最も高く、30 歳代では「不意の外出の時などに子どもを預かる活動」、40 歳代では「子どもにスポーツや勉強を教えてくれる活動」が最も高くなっている。

図表 14-2　地域社会の中であればよいと思う活動（年代別）

（%）

	項目	18～19歳 (n = 53)	20歳代 (n = 258)	30歳代 (n = 427)	40歳代 (n = 666)
1	子育てに関する悩みを気軽に相談できるような活動	**41.5**	**39.1**	27.2	29.3
2	子育て家庭の家事を支援する活動	20.8	26.0	28.8	27.9
3	不意の外出の時などに子どもを預かる活動	26.4	32.6	**39.1**	**39.0**
4	子どもと遊んでくれる活動	22.6	14.7	20.4	17.9
5	子どもにスポーツや勉強を教えてくれる活動	**28.3**	**37.6**	**36.5**	**42.0**
6	子育てをする親同士で話ができる仲間づくりの活動	17.0	22.5	20.1	19.7
7	子育てに関連した情報を簡単に入手しあえるような活動	24.5	27.9	23.4	21.3
8	その他	1.9	1.2	1.9	3.3
9	特にない	5.7	8.9	11.2	9.2
	無回答	3.8	1.6	1.9	2.0

◆ 過去の調査と比較すると、平成 26 年調査から「子育て家庭の家事を支援する活動」、「不意の外出の時などに子どもを預かる活動」の割合が増加傾向にある。

図表 14-3　地域社会の中であればよいと思う活動（総数、経年比較（参考））

（%）

	項目	R5調査 (n = 1,429)	H30調査 (n = 927)※	H26調査 (n = 881)
1	子育てに関する悩みを気軽に相談できるような活動	30.9	**36.2**	**38.5**
2	子育て家庭の家事を支援する活動	27.6	20.6	17.1
3	不意の外出の時などに子どもを預かる活動	**37.2**	35.2	34.1
4	子どもと遊んでくれる活動	18.1	23.2	18.5
5	子どもにスポーツや勉強を教えてくれる活動	**38.7**	**38.6**	**34.4**
6	子育てをする親同士で話ができる仲間づくりの活動	19.9	26.4	25.9
7	子育てに関連した情報を簡単に入手しあえるような活動	23.2	25.2	23.8
8	その他	2.4	1.9	1.4
9	特にない	9.8	7.9	5.2
	無回答	2.1	-	2.0

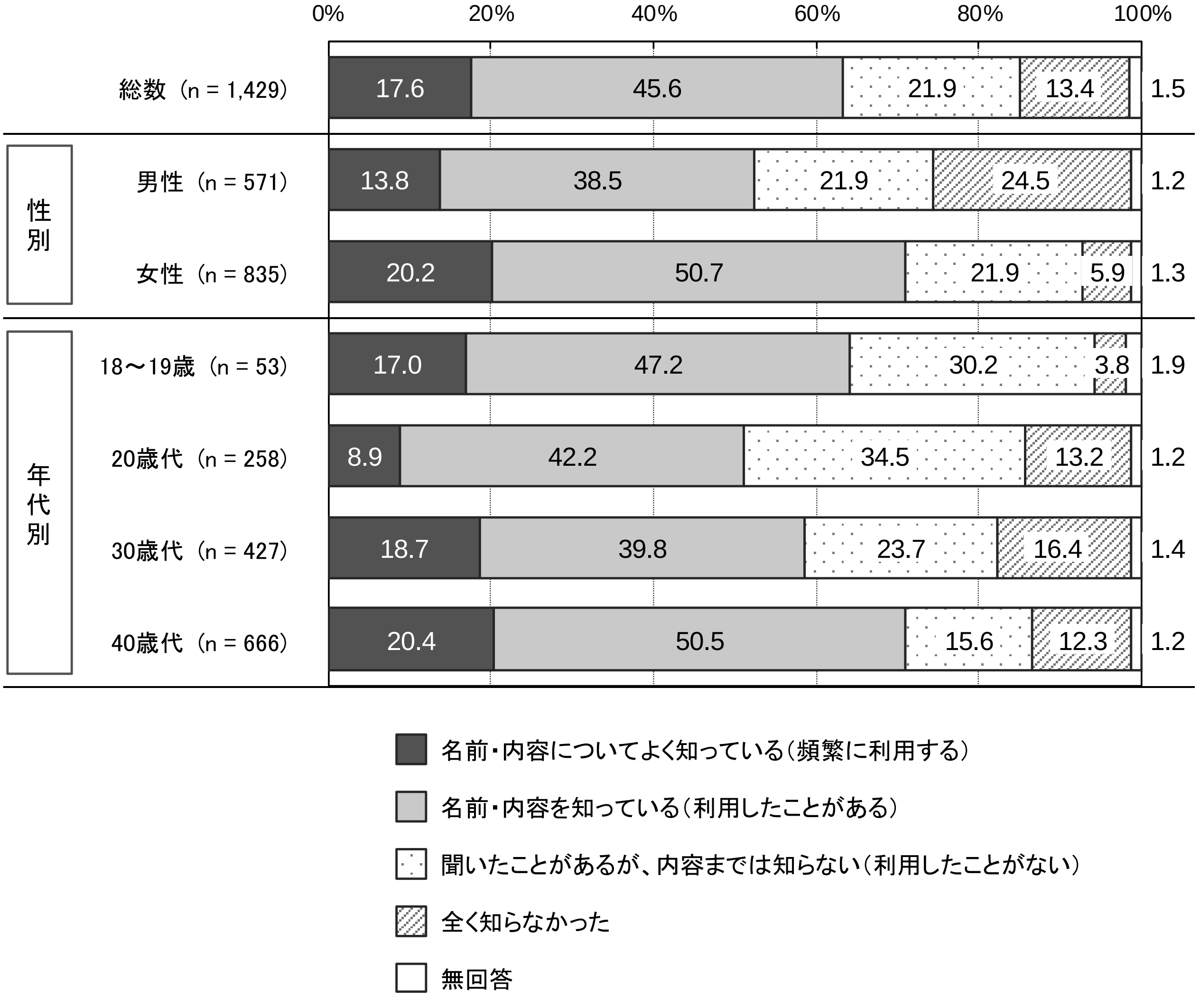
※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。

※H26 調査の設問は、選択肢に「わからない（6.1%）」も含む。

【問15】　本県では、社会全体で子育て家庭を応援し、子育てに温かい社会的気運の醸成を目的として「ぎふっこカード」「ぎふっこカードプラス」の交付を行い、参加店舗の協力のもと各種サービスなどの提供を行っています。あなたは、この「ぎふっこカード」「ぎふっこカードプラス」を知っていますか。
次の中から１つ選び○印をつけてください。

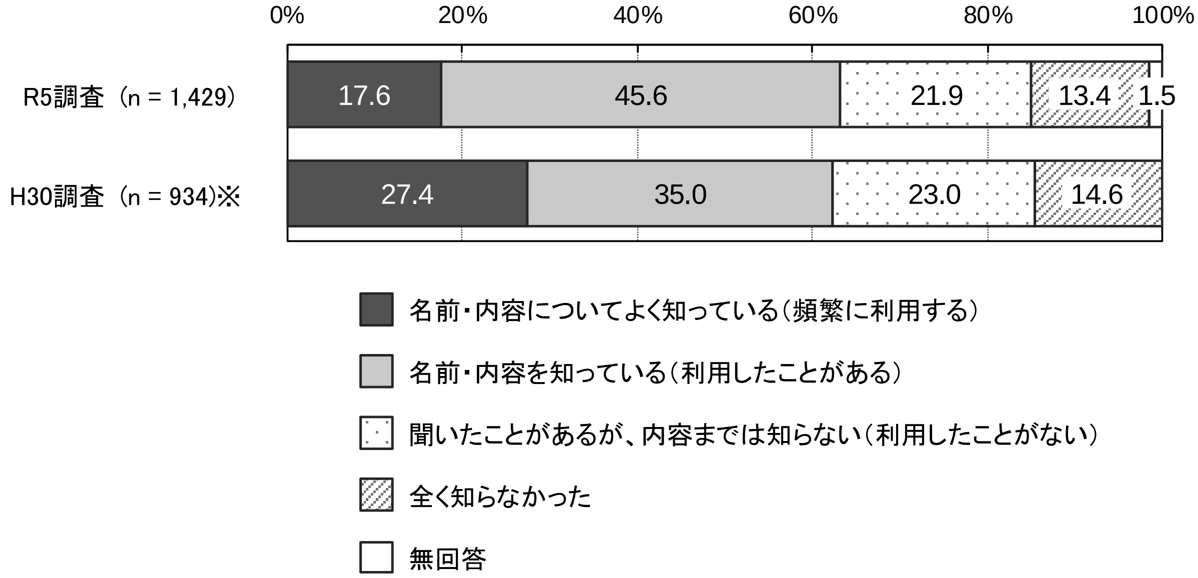
◆ 「ぎふっこカード」「ぎふっこカードプラス」について、「名前・内容を知っている（利用したことがある）」が 45.6%と最も高く、次いで「聞いたことがあるが、内容までは知らない（利用したことがない）」が 21.9%、「名前・内容についてよく知っている（頻繁に利用する）」が 17.6%の順となっている。また、「名前・内容についてよく知っている（頻繁に利用する）」と「名前・内容を知っている（利用したことがある）」を合わせた『知っている（利用したことがある）』は、63.2%となっている。
◆ 性別でみると、女性では『知っている（利用したことがある）』が、70.9%となっている。
◆ 年代別でみると、いずれの年代においても「名前・内容を知っている（利用したことがある）」が最も高くなっており、40 歳代ではおよそ半数となっている。

図表 15-1　「ぎふっこカード」「ぎふっこカードプラス」の認知度（総数、性別、年代別）



◆ 過去の調査と比較すると、平成 30 年調査より「名前・内容についてよく知っている（頻繁に利用する）」と「名前・内容を知っている（利用したことがある）」を合わせた『知っている（利用したことがある）』が増加している。

図表 15-2　「ぎふっこカード」「ぎふっこカードプラス」の認知度（総数、経年比較（参考））

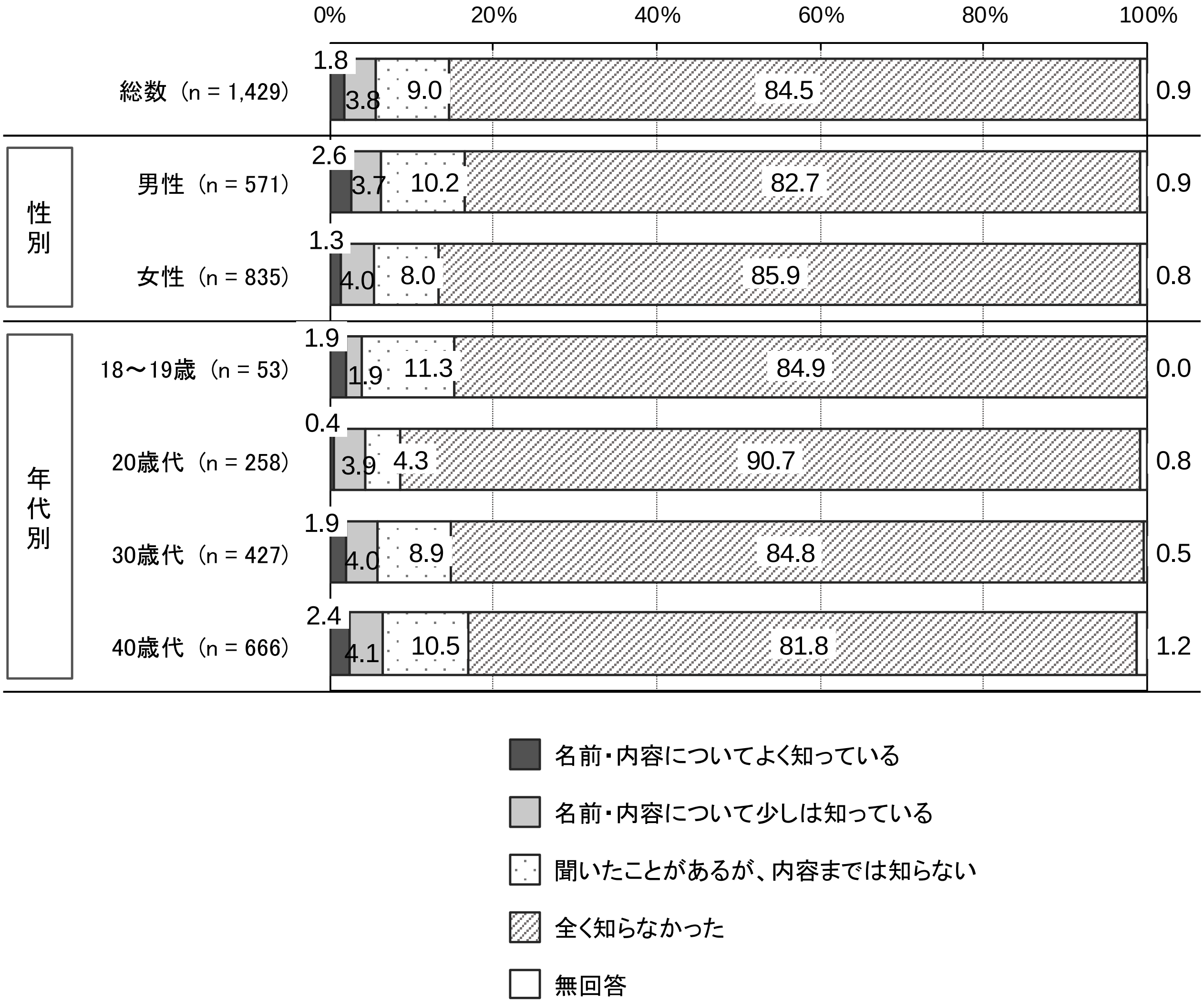


※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。

【問16】	本県では、結婚を希望する方に出会いの場の情報を提供したり、婚活イベントやお見合いのサポートなどを行う「ぎふマリッジサポートセンター」を運営していますが、あなたは、この「ぎふマリッジサポートセンター」を知っていますか。 次の中から１つ選び○印をつけてください。

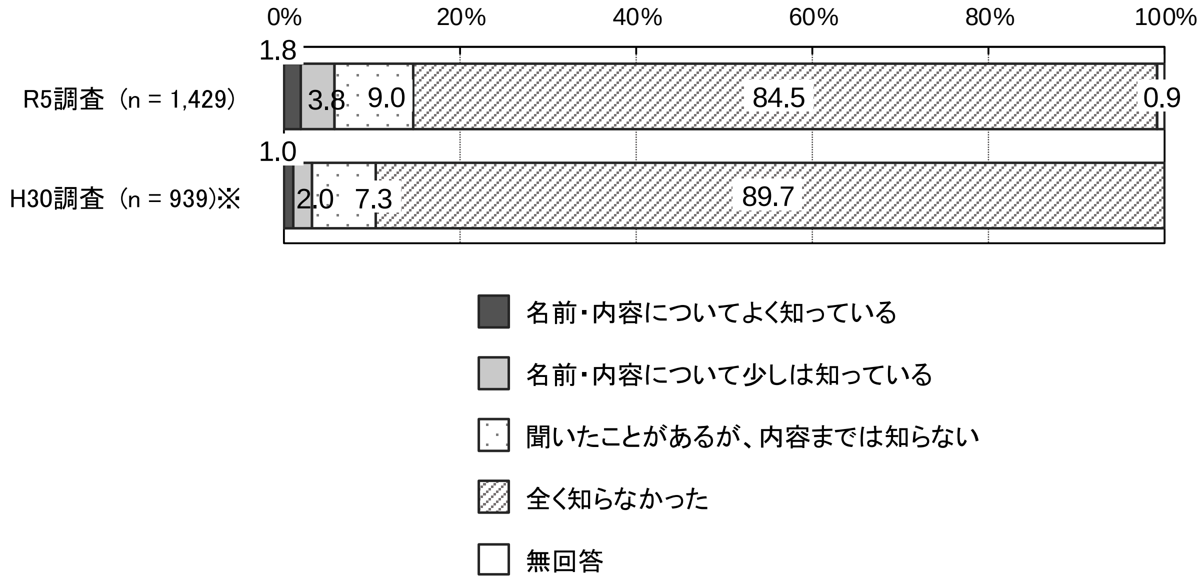
- ◆ 「ぎふマリッジサポートセンター」について、「全く知らなかった」が84.5%と最も高くなっている。
- ◆ 性別でみると、男女ともに「全く知らなかった」が最も高くなっている。
- ◆ 年代別でみると、いずれの年代においても「全く知らなかった」が最も高くなっており、20歳代では９割を超えている。

図表 16-1　「ぎふマリッジサポートセンター」の認知度（総数、性別、年代別）



◆　過去の調査と比較すると、認知度に大きな変化はみられない。

図表 16-2　「ぎふマリッジサポートセンター」の認知度（総数、経年比較（参考））



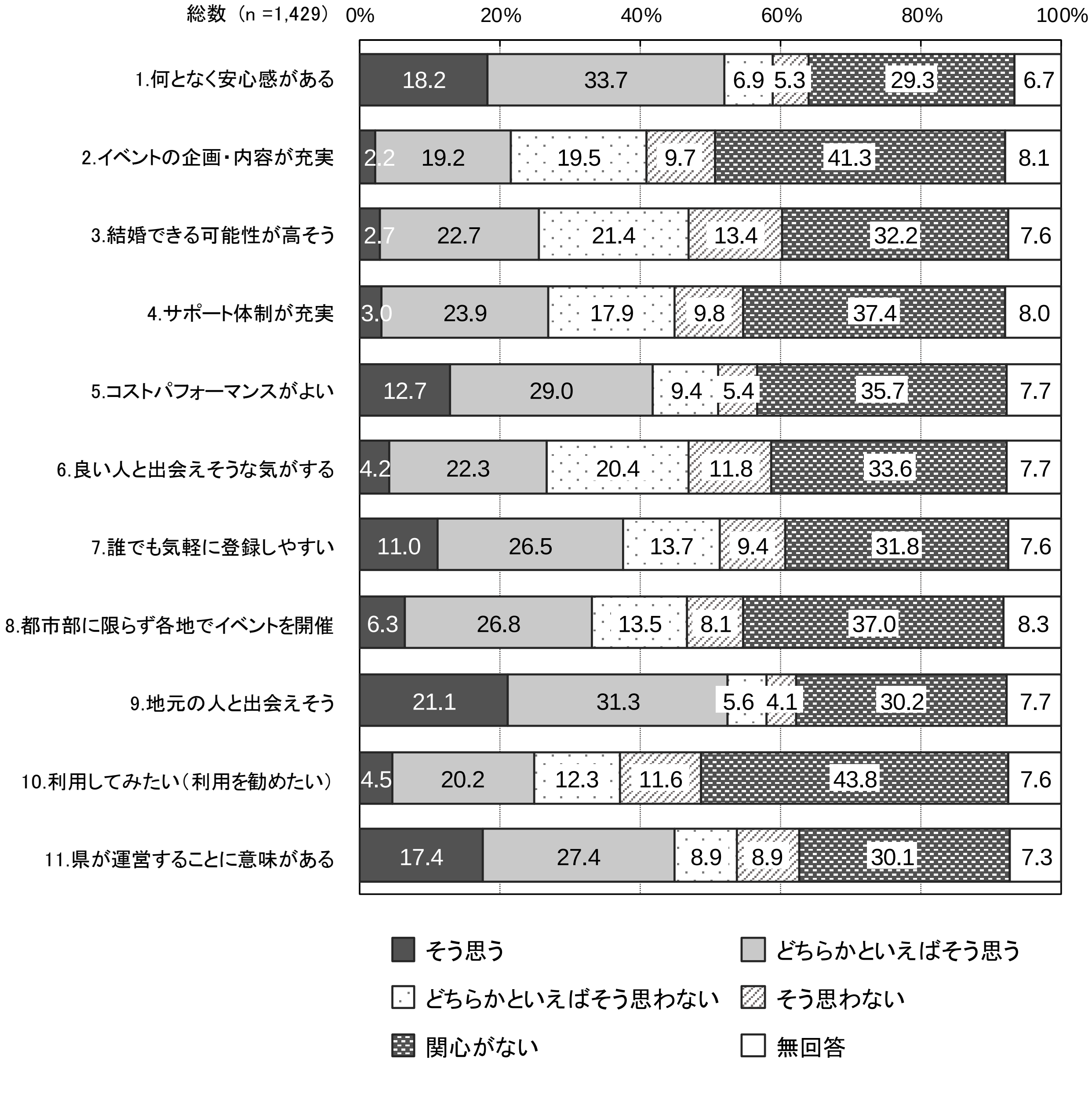
※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。

【問17】　民間事業者の行う結婚支援と比較して、県が運営する「ぎふマリッジサポートセンター」についてどのような印象を持ちますか。

◆　「ぎふマリッジサポートセンター」の印象について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合が最も高い項目は、「9.地元の人と出会えそう」で52.4%、次いで「1.何となく安心感がある」（51.9%）、「11.県が運営することに意味がある」（44.8%）となっている。

◆　一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合が最も高い項目は、「3.結婚できる可能性が高そう」で34.8%、次いで「6.良い人と出会えそうな気がする」（32.2%）となっている。

図表 17-1　「ぎふマリッジサポートセンター」の印象（総数）



◆ 性別でみると、『そう思う』の割合が最も高い項目は、男性で「1.何となく安心感がある」、女性で「9.地元の人と出会えそう」となっている。

◆ 年代別でみると、『そう思う』の割合が最も高い項目は、18～19 歳、20 歳代、30 歳代で「1.何となく安心感がある」、40 歳代で「9.地元の人と出会えそう」となっている。

図表 17-2 「ぎふマリッジサポートセンター」の印象：項目１～３（性別、年代別）

（%）

項目			回答者数（件）	『そう思う』（計）	『そう思わない』（計）	関心がない	無回答
1.何となく安心感がある	総　数		1,429	51.9	12.2	29.3	6.7
	性別	男性	571	49.0	15.1	28.5	7.4
		女性	835	53.9	10.1	29.7	6.2
	年代別	18～19歳	53	58.5	15.0	26.4	0.0
		20歳代	258	48.4	10.5	36.0	5.0
		30歳代	427	51.3	12.4	29.7	6.6
		40歳代	666	53.6	12.5	26.4	7.5
2.イベントの企画・内容が充実	総　数		1,429	21.4	29.2	41.3	8.1
	性別	男性	571	20.2	31.7	40.1	8.1
		女性	835	22.1	27.6	42.2	8.1
	年代別	18～19歳	53	35.8	24.5	37.7	1.9
		20歳代	258	22.5	27.2	45.0	5.4
		30歳代	427	19.9	30.7	41.9	7.5
		40歳代	666	20.7	29.7	39.9	9.6
3.結婚できる可能性が高そう	総　数		1,429	25.4	34.8	32.2	7.6
	性別	男性	571	23.3	36.8	31.7	8.2
		女性	835	26.7	33.7	32.5	7.2
	年代別	18～19歳	53	33.9	32.1	34.0	0.0
		20歳代	258	26.4	35.3	32.9	5.4
		30歳代	427	23.9	35.8	33.3	7.0
		40歳代	666	25.6	34.4	31.1	9.0

※各選択肢の回答の割合が高い項目第1位、第2位を属性ごと網掛けにて示している。

図表 17-3　「ぎふマリッジサポートセンター」の印象：項目４～７（性別、年代別）

（%）

項目			回答者数（件）	『そう思う』（計）	『そう思わない』（計）	関心がない	無回答
4.サポート体制が充実	総　数		1,429	26.9	27.7	37.4	8.0
	性別	男性	571	24.0	30.7	37.1	8.2
		女性	835	28.9	25.6	37.7	7.8
	年代別	18～19歳	53	37.8	20.7	39.6	1.9
		20歳代	258	31.0	22.1	41.1	5.8
		30歳代	427	25.7	28.8	38.2	7.3
		40歳代	666	25.4	29.8	35.6	9.3
5.コストパフォーマンスがよい	総　数		1,429	41.7	14.8	35.7	7.7
	性別	男性	571	38.0	19.1	34.7	8.2
		女性	835	44.3	12.0	36.4	7.3
	年代別	18～19歳	53	45.3	15.1	37.7	1.9
		20歳代	258	43.4	12.4	38.4	5.8
		30歳代	427	40.5	16.0	36.3	7.3
		40歳代	666	41.9	15.2	34.2	8.7
6.良い人と出会えそうな気がする	総　数		1,429	26.5	32.2	33.6	7.7
	性別	男性	571	26.1	33.7	31.9	8.4
		女性	835	26.7	31.5	34.6	7.2
	年代別	18～19歳	53	30.1	35.9	34.0	0.0
		20歳代	258	29.5	29.4	35.7	5.4
		30歳代	427	23.6	34.2	34.9	7.3
		40歳代	666	27.1	32.1	31.8	9.0
7.誰でも気軽に登録しやすい	総　数		1,429	37.5	23.1	31.8	7.6
	性別	男性	571	36.1	24.0	31.7	8.2
		女性	835	38.8	22.3	31.7	7.2
	年代別	18～19歳	53	43.4	24.5	32.1	0.0
		20歳代	258	35.7	27.1	31.4	5.8
		30歳代	427	36.3	23.5	33.0	7.3
		40歳代	666	39.2	21.1	31.1	8.7

図表 17-4　「ぎふマリッジサポートセンター」の印象：項目８～11（性別、年代別）

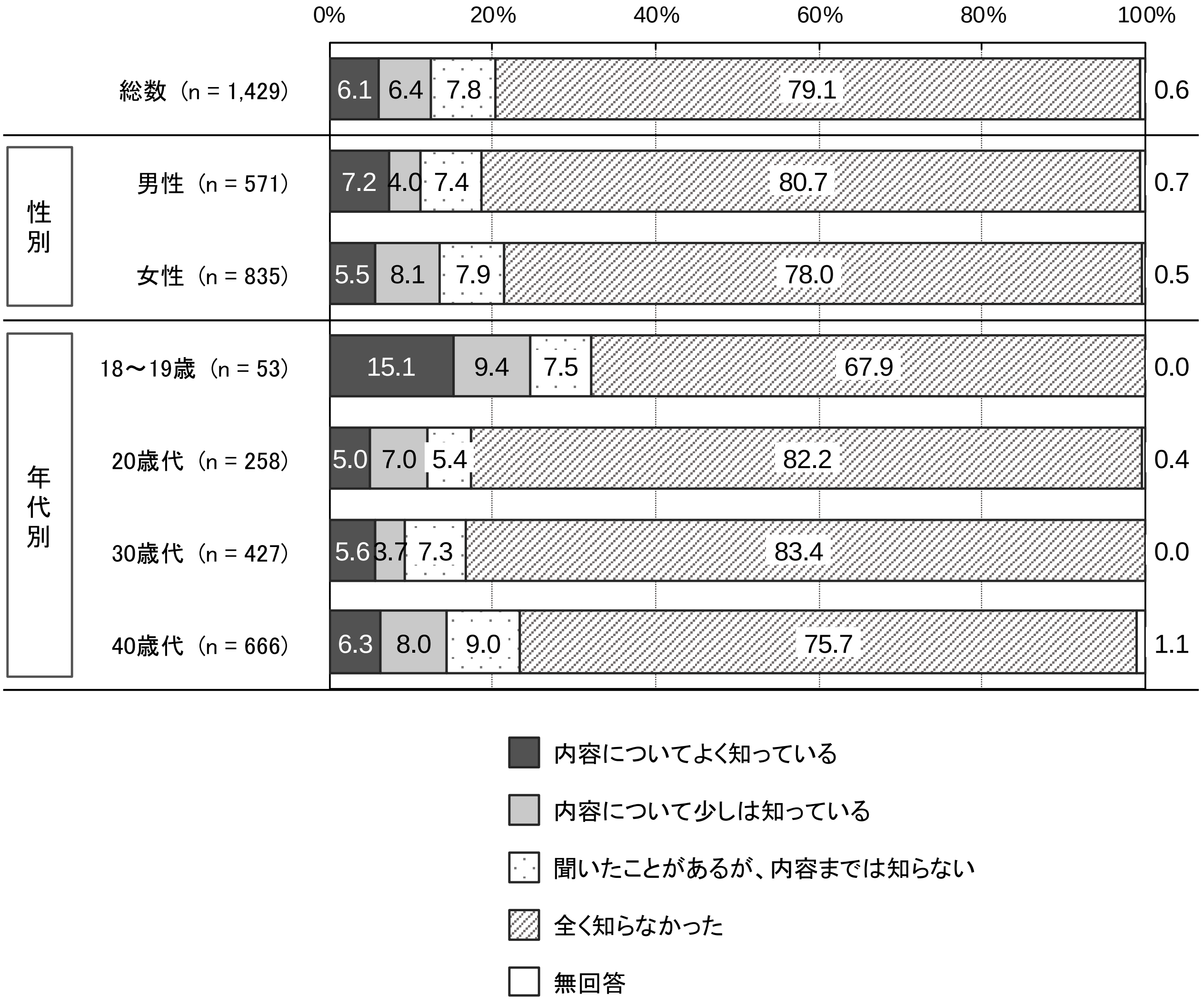
（％）

項目			回答者数（件）	『そう思う』（計）	『そう思わない』（計）	関心がない	無回答
8.都市部に限らず各地でイベントを開催	総　数		1,429	33.1	21.6	37.0	8.3
	性別	男性	571	32.9	23.6	35.0	8.4
		女性	835	32.9	20.5	38.4	8.1
	年代別	18～19歳	53	43.4	18.8	35.8	1.9
		20歳代	258	30.7	24.8	38.8	5.8
		30歳代	427	32.8	21.6	38.2	7.5
		40歳代	666	33.3	21.1	35.9	9.8
9.地元の人と出会えそう	総　数		1,429	52.4	9.7	30.2	7.7
	性別	男性	571	48.9	13.5	29.4	8.2
		女性	835	55.0	7.1	30.7	7.3
	年代別	18～19歳	53	60.4	9.5	28.3	1.9
		20歳代	258	52.7	8.9	32.9	5.4
		30歳代	427	51.5	9.6	31.6	7.3
		40歳代	666	52.7	10.1	28.4	8.9
10.利用してみたい（利用を勧めたい）	総　数		1,429	24.7	23.9	43.8	7.6
	性別	男性	571	25.9	26.8	38.9	8.4
		女性	835	24.0	22.1	47.2	6.8
	年代別	18～19歳	53	30.1	39.6	28.3	1.9
		20歳代	258	22.1	28.0	44.6	5.4
		30歳代	427	25.7	23.1	43.8	7.3
		40歳代	666	25.0	21.8	44.9	8.4
11.県が運営することに意味がある	総　数		1,429	44.8	17.8	30.1	7.3
	性別	男性	571	44.4	19.1	28.4	8.1
		女性	835	45.3	16.9	31.1	6.6
	年代別	18～19歳	53	50.9	22.6	26.4	0.0
		20歳代	258	43.0	16.6	34.9	5.4
		30歳代	427	41.5	20.1	31.1	7.3
		40歳代	666	47.9	16.4	27.8	8.0

【問18】　本県では、毎月８のつく日を「早く家庭に帰る日」と定め、業務に支障のない人は早く家庭に帰り、家族との触れ合いや心身のリフレッシュに努めるよう取り組んでいます。あなたは、この「早く家庭に帰る日」を知っていますか。 次の中から１つ選び○印をつけてください。

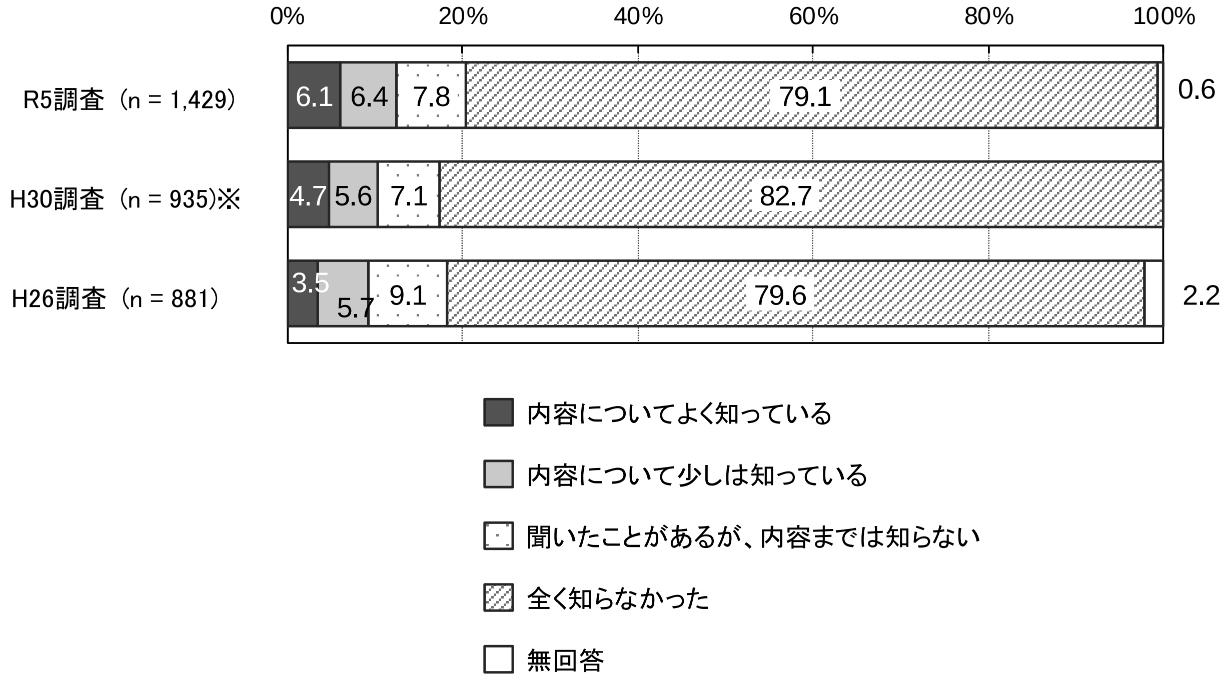
- 「早く家庭に帰る日」について、「全く知らなかった」が 79.1％と最も高くなっている。
- 性別でみると、男女ともに「全く知らなかった」が最も高くなっている。
- 年代別でみると、いずれの年代においても「全く知らなかった」が最も高くなっている。また、18～19 歳では、「内容についてよく知っている」が 15.1％と、他の年代に比べて高くなっている。

図表 18-1　「早く家庭に帰る日」の認知度（総数、性別、年代別）



◆　過去の調査と比較すると、認知度に大きな変化はみられない。

図表 18-2　「早く家庭に帰る日」の認知度（総数、経年比較（参考））



※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。

【問19】　あなたの現在の仕事の状況についてお聞きします。
次の中から１つ選び○印をつけてください。

◆ 現在の仕事の状況については、「働いている（パートタイム・アルバイトを含む）」が 76.6％で最も高く、次いで「現在、就学中である」が 5.0％となっている。
◆ 性別でみると、男女ともに「働いている（パートタイム・アルバイトを含む）」が最も高く、男性で 88.3％、女性で 68.9％と、男性の割合が女性より 19.4 ポイント高くなっている。

図表 19-1　現在の仕事の状況（総数、性別）

（％）

	項目	総数 (n = 1,429)	男性 (n = 571)	女性 (n = 835)
1	働いている（パートタイム・アルバイトを含む）	**76.6**	**88.3**	**68.9**
2	産前・産後休暇、育児休業中	1.7	0.4	2.4
3	結婚をきっかけに仕事を辞めた	2.2	0.4	3.5
4	出産をきっかけに仕事を辞めた	3.6	0.0	6.1
5	育児をきっかけに仕事を辞めた	0.6	0.2	1.0
6	結婚・出産・育児をきっかけに仕事を辞めたが、今は働いている	4.0	0.2	**6.7**
7	結婚・出産・育児以外の理由で仕事を辞めた	2.9	1.9	3.5
8	結婚・出産・育児以外の理由で仕事を辞めたが、今は働いている	0.8	0.2	1.3
9	これまでに働いたことがない	1.1	1.4	1.0
10	現在、就学中である	**5.0**	**5.6**	4.7
	無回答	1.4	1.6	1.1

◆ 年代別でみると、18～19 歳では「現在、就学中である」、20～40 歳代では「働いている（パートタイム・アルバイトを含む）」が最も高くなっている。

図表 19-2　現在の仕事の状況（年代別）

（%）

	項目	18～19歳 (n = 53)	20歳代 (n = 258)	30歳代 (n = 427)	40歳代 (n = 666)
1	働いている（パートタイム・アルバイトを含む）	**47.2**	**74.4**	**76.8**	**80.2**
2	産前・産後休暇、育児休業中	0.0	0.8	4.2	0.3
3	結婚をきっかけに仕事を辞めた	0.0	0.8	2.8	2.6
4	出産をきっかけに仕事を辞めた	0.0	1.9	**7.3**	2.3
5	育児をきっかけに仕事を辞めた	0.0	0.4	0.5	0.9
6	結婚・出産・育児をきっかけに仕事を辞めたが、今は働いている	0.0	0.0	3.3	**6.5**
7	結婚・出産・育児以外の理由で仕事を辞めた	0.0	3.9	1.6	3.5
8	結婚・出産・育児以外の理由で仕事を辞めたが、今は働いている	0.0	0.4	0.7	1.2
9	これまでに働いたことがない	3.8	1.9	1.2	0.6
10	現在、就学中である	**49.1**	**14.3**	1.2	0.5
	無回答	0.0	1.2	0.5	1.7

◆ 過去の調査と比較すると、「働いている（パートタイム・アルバイトを含む）」の割合が増加傾向にある。

図表 19-3　現在の仕事の状況（総数、経年比較（参考））

（%）

	項目	R5調査（n = 1,429）	H30調査（n = 939）※
1	働いている（パートタイム・アルバイトを含む）	**76.6**	**68.7**
2	産前・産後休暇、育児休業中	1.7	1.8
3	結婚をきっかけに仕事を辞めた	2.2	2.7
4	出産をきっかけに仕事を辞めた	3.6	5.4
5	育児をきっかけに仕事を辞めた	0.6	1.2
6	結婚・出産・育児をきっかけに仕事を辞めたが、今は働いている	4.0	7.9
7	結婚・出産・育児以外の理由で仕事を辞めた	2.9	1.4
8	結婚・出産・育児以外の理由で仕事を辞めたが、今は働いている	0.8	0.4
9	これまでに働いたことがない	1.1	1.1
10	現在、就学中である	**5.0**	**9.5**
	無回答	1.4	-

※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。

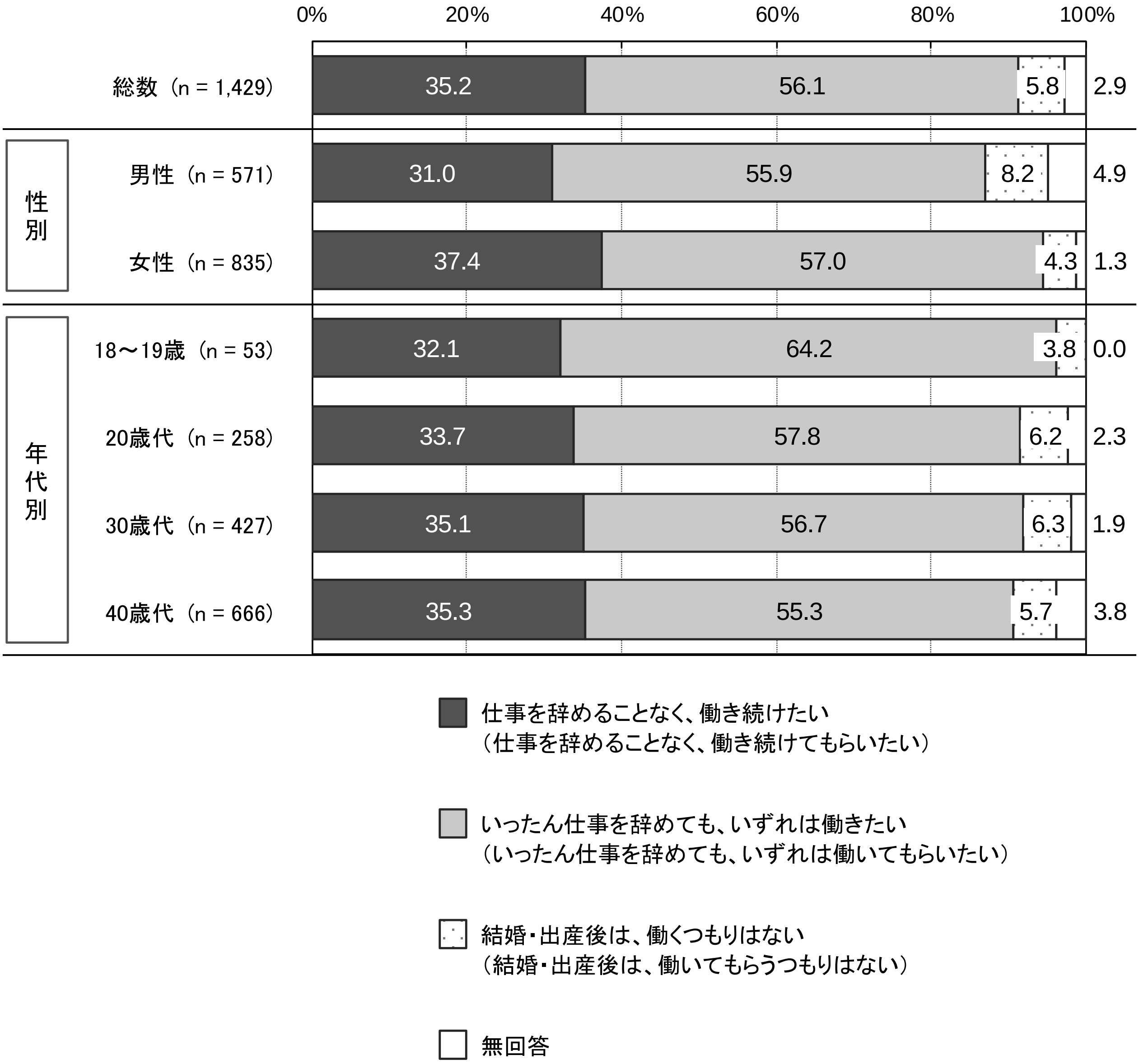
【問20】 **女性の結婚・出産後の働き方についてお聞きします。**
<u>女性の方</u>は、結婚・出産後も働き続けたいと思いますか。また、<u>男性の方</u>はパートナーに結婚・出産後も働き続けてもらいたいと思いますか。
次の中から１つ選び○印をつけてください。

◆ 女性の結婚・出産後の働き方については、「いったん仕事を辞めても、いずれは働きたい（いったん仕事を辞めても、いずれは働いてもらいたい）」が 56.1％と最も高く、次いで「仕事を辞めることなく、働き続けたい（仕事を辞めることなく、働き続けてもらいたい）」が 35.2％となっている。

◆ 性別でみると、「仕事を辞めることなく、働き続けたい（仕事を辞めることなく、働き続けてもらいたい）」で、女性の割合が男性より 6.4 ポイント高くなっている。

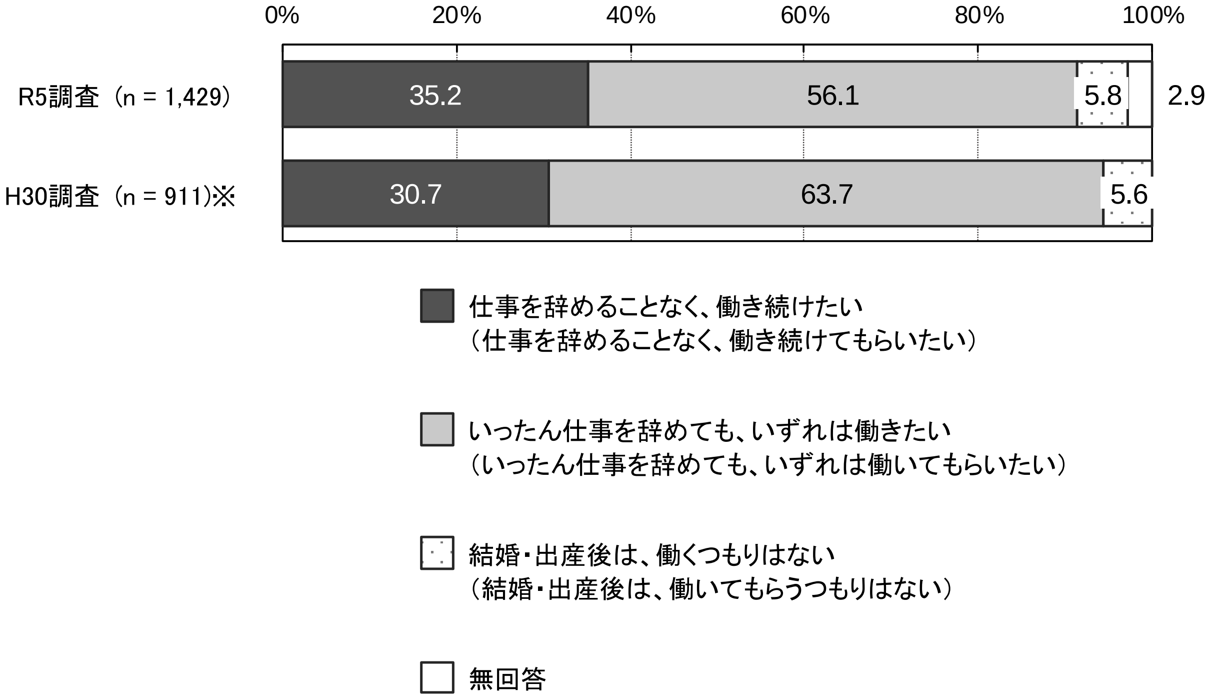
◆ 年代別でみると、「仕事を辞めることなく、働き続けたい（仕事を辞めることなく、働き続けてもらいたい）」で、40 歳代が 35.3％と他の年代に比べてやや高くなっている。

図表 20-1　女性の結婚・出産後の働き方（総数、性別、年代別）



◆ 過去の調査と比較すると、「仕事を辞めることなく、働き続けたい（仕事を辞めることなく、働き続けてもらいたい）」の割合が増加傾向にある。

図表 20-2　女性の結婚・出産後の働き方（総数、経年比較（参考））



※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。

【問21】　あなたは、女性が子育てをしながら働く上で問題になっていることは何だと思いますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（複数回答）

- ◆ 女性が子育てをしながら働く上での問題点については、「仕事と育児の両立が体力・時間的に難しい」が67.5％で最も高く、次いで「仕事と家事の両立が体力・時間的に難しい」が62.9％、「子育てに十分な時間をかけることができない」が50.6％となっている。
- ◆ 性別でみると、男女ともに「仕事と育児の両立が体力・時間的に難しい」が最も高く、次いで「仕事と家事の両立が体力・時間的に難しい」となっており、上位２位の項目ともに女性の割合が男性より高くなっている。

図表 21-1　女性が子育てをしながら働く上での問題点（総数、性別）

（％）

	項目	総数 (n = 1,429)	男性 (n = 571)	女性 (n = 835)
1	子育てに十分な時間をかけることができない	50.6	50.6	50.4
2	子育てを重視しながら働くことに上司や同僚の理解・協力が得られない	39.2	38.0	40.2
3	在宅勤務、短時間労働など柔軟な雇用条件が整備されていない	41.1	39.1	42.5
4	仕事と家事の両立が体力・時間的に難しい	**62.9**	**59.0**	**65.5**
5	仕事と育児の両立が体力・時間的に難しい	**<u>67.5</u>**	**<u>64.8</u>**	**<u>69.7</u>**
6	通勤時間が長い	7.3	6.7	7.8
7	昇給や昇進に不利である	21.9	21.2	22.5
8	休みがとりにくい、残業が多い	32.4	27.3	36.2
9	転勤がある	6.6	6.8	6.6
10	子どもの病気などで急用が入ったとき、職場で柔軟な対応ができない	50.0	45.4	53.4
11	子どもを預けられる保育所や認定こども園がない	13.6	16.5	11.9
12	子どもを預けられる放課後児童クラブ（学童保育）がない	11.5	12.1	11.3
13	保育所・認定こども園や放課後児童クラブ以外に子どもを預けられる施設がない	12.0	10.9	12.3
14	子どもの病気の時や急な残業に対応してくれる保育サービスがない	24.6	20.0	27.3
15	保育サービスにお金がかかる	28.8	28.4	29.1
16	配偶者が家事・育児に参加しない	16.9	10.2	21.6
17	家族（配偶者以外）の理解・協力が得られない	6.3	5.6	6.7
18	その他	2.7	3.0	2.5
19	特に問題はない	2.0	2.6	1.6
	無回答	1.6	2.5	0.8

◆ 年代別でみると、いずれの年代においても「仕事と育児の両立が体力・時間的に難しい」が最も高く、そのうち 20 歳代、30 歳代ではそれぞれ 72.1%、70.3%と他の年代に比べて高くなっている。

図表 21-2　女性が子育てをしながら働く上での問題点（年代別）

（%）

項目		18～19歳 (n = 53)	20歳代 (n = 258)	30歳代 (n = 427)	40歳代 (n = 666)
1	子育てに十分な時間をかけることができない	**56.6**	57.4	47.3	49.5
2	子育てを重視しながら働くことに上司や同僚の理解・協力が得られない	34.0	43.0	40.0	38.0
3	在宅勤務、短時間労働など柔軟な雇用条件が整備されていない	24.5	43.8	43.3	40.1
4	仕事と家事の両立が体力・時間的に難しい	52.8	**62.8**	**63.9**	**63.4**
5	仕事と育児の両立が体力・時間的に難しい	**58.5**	**72.1**	**70.3**	**65.3**
6	通勤時間が長い	9.4	9.3	7.5	6.3
7	昇給や昇進に不利である	17.0	25.2	26.5	18.5
8	休みがとりにくい、残業が多い	34.0	35.7	33.7	30.8
9	転勤がある	7.5	8.1	7.5	5.6
10	子どもの病気などで急用が入ったとき、職場で柔軟な対応ができない	35.8	50.0	49.6	51.4
11	子どもを預けられる保育所や認定こども園がない	13.2	18.2	17.6	9.6
12	子どもを預けられる放課後児童クラブ（学童保育）がない	5.7	12.4	15.2	9.5
13	保育所・認定こども園や放課後児童クラブ以外に子どもを預けられる施設がない	9.4	10.5	14.8	10.8
14	子どもの病気の時や急な残業に対応してくれる保育サービスがない	28.3	21.3	25.5	24.5
15	保育サービスにお金がかかる	20.8	35.3	32.1	24.9
16	配偶者が家事・育児に参加しない	13.2	14.3	15.9	19.1
17	家族（配偶者以外）の理解・協力が得られない	7.5	7.4	5.6	6.3
18	その他	3.8	0.8	1.4	4.1
19	特に問題はない	1.9	0.8	1.9	2.6
	無回答	0.0	0.4	1.4	2.1

◆ 過去の調査と比較すると、平成26年調査から「子育てに十分な時間をかけることができない」、「仕事と家事の両立が体力・時間的に難しい」、「仕事と育児の両立が体力・時間的に難しい」の割合が増加傾向にある。

図表 21-3　女性が子育てをしながら働く上での問題点（総数、経年比較（参考））

（%）

	項目	R5調査 (n = 1,429)	H30調査 (n = 929)※	H26調査 (n = 881)
1	子育てに十分な時間をかけることができない	50.6	46.5	43.5
2	子育てを重視しながら働くことに上司や同僚の理解・協力が得られない	39.2	39.9	38.1
3	在宅勤務、短時間労働など柔軟な雇用条件が整備されていない	41.1	39.2	40.6
4	仕事と家事の両立が体力・時間的に難しい	**62.9**	51.8	42.2
5	仕事と育児の両立が体力・時間的に難しい	**67.5**	**59.5**	**53.0**
6	通勤時間が長い	7.3	5.6	4.4
7	昇給や昇進に不利である	21.9	15.2	7.3
8	休みがとりにくい、残業が多い	32.4	36.0	31.2
9	転勤がある	6.6	5.3	3.3
10	子どもの病気などで急用が入ったとき、職場で柔軟な対応ができない	50.0	**52.0**	**50.2**
11	子どもを預けられる保育所や認定こども園がない	13.6	13.2	14.1
12	子どもを預けられる放課後児童クラブ（学童保育）がない	11.5	5.8	10.0
13	保育所・認定こども園や放課後児童クラブ以外に子どもを預けられる施設がない	12.0	10.4	7.9
14	子どもの病気の時や急な残業に対応してくれる保育サービスがない	24.6	22.4	20.9
15	保育サービスにお金がかかる	28.8	30.9	26.6
16	配偶者が家事・育児に参加しない	16.9	15.5	7.9
17	家族（配偶者以外）の理解・協力が得られない	6.3	5.3	4.9
18	その他	2.7	2.4	2.6
19	特に問題はない	2.0	1.6	1.1
	無回答	1.6	-	2.7

※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。
※H26 調査の設問は、選択肢に「わからない（2.3%）」も含む。

【問22】　結婚、妊娠、出産、子育てなどに関して、気がついたことや考えていることがあれば教えてください。（自由意見）

◆　結婚、妊娠、出産、子育てなどに関して、「困っていること」、「あるとよい支援・サービス」、「ここが良いと感じているところ」についてお聞きし、主な意見の内容を以下に集約した。内容については、意見の主旨を損なわないように一部要約している。

＜困っていること＞

１．結婚・出会いについて（28 件）

- 手取りが少ないと結婚どころか、１人でも生きていけるか心配。（20 歳代男性）
- 結婚したい気持ちはあるが、良いパートナーと出会う事ができず、結婚には至っていない。（20 歳代女性）
- 異性との出会いが少ないので、気軽に出会える場が欲しい。（30 歳代男性）
- ぎふマリッジサポートセンターのお見合い登録を行いたいが、東濃地域全域に対応がない為、利用できずにいる。近場で登録できるとうれしい。（30 歳代女性）

２．妊娠・出産について（28 件）

- 産婦人科が近くにない（30 歳代女性）
- 子どもを持つことに積極的になれない。負担ばかり考えてしまう。（30 歳代女性）
- 不妊治療に取り組んでいるが、上限が６回までなので、治療を続けるには経済的負担が大きい。（30 歳代男性）
- 不妊治療ができる病院が居住地域になく、時間も費用もかなりかかった。（40 歳代男性）

３．家事・育児、子育て支援について（55 件）

- 生後２か月の子どもを連れて買い物。手はいっぱいでお会計や袋詰めなど、体力に負担がかかる。時間もかかる。（20 歳代女性）
- 児童手当が少ない、増やしてほしい。（30 歳代男性）
- 夫の育児、家事への積極的参加の低さ。（30 歳代女性）
- 子育てに対する支援が少ない。（40 歳代男性）
- 産後の家事や、他の兄弟の保育園送迎等のサポートをしてほしい。（40 歳代女性）

４．子どもの発育、学校・勉学に関することについて（18 件）

- 小学生の宿題がとても大変。先生の働き方改革もあると思うが、家庭の負担が増えている。（30 歳代女性）
- 中学生の子どもは勉強が苦手で、親の対応としてどのようにすれば良いのかわからない。（30 歳代女性）
- 子どもが一時期不登校だった。小学生の子どもが不登校になると母親は働きにくい。不登校児が年々増えているという事は、今の子どもたちと学校教育が合っていないのではないか。子どもたちが行きたいと思える学校に変えてほしい。（40 歳代女性）

５．家族（義両親等）について（4 件）

- 同居している配偶者の親の面倒を見ること。（40 歳代女性）

６．PTA 活動・地域活動について（6 件）

・夫が、祭りやイベント等の地域活動に駆り出されて、家族の時間が取れない。（30 歳代女性）
・PTA や行事、地域活動など、共働きでは参加に困難な制度が多い。（40 歳代男性）

７．施設・設備（保育所・児童施設等）について（33 件）

・学校の長期休みに子どもを預けられる場所が少なく、勤務時間の調整をして働かないといけない。（30 歳代女性）
・急用な仕事が入った時、すぐに預かり対応をしてもらえる施設等がない。（30 歳代女性）
・子どもが小学校高学年になったら放課後児童サービスが利用できない。子どもの居場所を増やしてほしい。（40 歳代女性）
・子どもを安心して連れて遊びに行ける場所が近くにない。（特に雨の日など）（40 歳代女性）

８．相談・交流・情報について（12 件）

・どこに相談すれば良いか知らないことが不安。（20 歳代男性）
・結婚する予定や結婚した家庭に、出産や子育てに関する支援制度の紹介などがないため、働きながら時間をつくれない場合は情報を集めるのが大変。（30 歳代男性）
・子育ての相談ができるママ友ができない。（30 歳代女性）

９．医療について（4 件）

・市内に小児専門科がなく、子どもが高熱を出した際に隣の市まで行った。（30 歳代女性）
・子どもを病院に連れて行きたい時、待ち時間が長いと本当に大変。（30 歳代女性）

10．働き方（仕事と育児の両立等）について（56 件）

・子どもが急に体調不良になった時に対応しづらい。（20 歳代女性）
・仕事が時間内に終わらず、保育園や小学校の迎えの時間がギリギリになる。（30 歳代女性）
・男性はいまだ子どものために休みを取りにくい環境である。（40 歳代男性）
・結婚で夫の家に住まなくてはならず、勤務先からは距離があり離職しなくてはいけなかった。（40 歳代女性）
・子どもが学校へ行ってる間、仕事をしたいが条件に見合う仕事がない。（40 歳代女性）
・結婚を機に仕事を辞めてしまうと、産後、保育園入園が決まらない限り仕事復帰もできない。（40 歳代女性）

11．経済的な問題について（93 件）

・出産、育児にお金がかかる為、育休後すぐに働かなければならない状況なのに、未満児保育料が高額で家計的に苦しい。（20 歳代男性）
・子どもは欲しいが、金銭の問題や今の経済状況からつくる気になれない。（20 歳代女性）
・生活費、教育費、老後資金など、資金面で将来がとても不安。（30 歳代男性）
・子どもは３人ほしいと思っていたが、１人よりも３倍のお金がかかる。やってあげられることも限られてしまう。（30 歳代女性）
・税金の負担が大きい。生活に余裕がないのでゆとりを持って子育てできない。（40 歳代女性）
・教育に関わるお金が高すぎる。高校・大学進学、学校の指定の制服や体操服の購入など。（40 歳代男性）

12. **少子化について**（8 件）

- 住んでいる地域は、空き家が多く子どもが増えない。小学校も人数が少ない。人口増加にもっと支援をするべき。（30 歳代女性）
- 晩婚化が進み、将来子どもを産む人が少なくなっているので、ますます高齢化社会が加速することが不安。（40 歳代女性）

13. **その他**（8 件）

＜あるとよい支援・サービス＞

１．結婚・出会いについて（9 件）

・結婚したい人はいると思う。ただ出会いがなくて困っている人が大勢いると思うので、安全で健全な出会いの場を設けてくれるサービスはありがたいと思う。（20 歳代男性）
・もっと気軽に利用できる出会いの場。（20 歳代女性）

２．妊娠・出産、産後のサポートについて（24 件）

・多様な不妊治療とその助成。不妊になりにくい身体づくり（栄養指導サポート）、産後ケア。（40 歳代男性）
・妊娠初期（つわり）等に育児や家事を手伝ってくれるサービスがほしい。（40 歳代女性）
・産後、母親のサポートがもっと気軽に受けられると良いと思う。（40 歳代女性）

３．家事・育児、子育て支援について（37 件）

・家事支援サポート。（20 歳代女性）
・夏休み中のお昼の食事の事、デリバリー弁当。（40 歳代女性）
・子どもの習い事の送り迎え。（40 歳代女性）
・おむつやミルクの無料配布。（40 歳代女性）

４．子どもの発育、学校・勉学に関することについて（21 件）

・子どもが体験できるようなもの。（太鼓や職業体験等）（30 歳代女性）
・地域の学校で障がいがある子も学べるような環境を整えてほしい。（40 歳代男性）
・教育そのものの充足。（40 歳代男性）

５．地域環境について（9 件）

・地域で子育てや家の手伝い。（30 歳代男性）
・中学生は自転車だが、雨や雪だと送り迎えする方が多く、バスがあるとありがたい。（40 歳代女性）

６．施設・設備（保育所、・児童施設等）について（86 件）

①保育所、学童保育、病児保育等（子どもを預けられる場所）（65 件）

・病児保育、学童や放課後等デイなど利用可能時間の延長。（30 歳代女性）
・職場内で子どもを預かってもらえる場所。（30 歳代女性）
・長期休みの児童預かり。長期休みに子どもたちだけでお昼ごはんを食べに行けるサービス。（30 歳代女性）
・学校、保育園で子どもが体調不良になった場合、親が迎えに行かなくても一時的に預かってくれるサービス。（40 歳代女性）

②公園、児童施設等（子どもを連れて遊びに行ける場所）（21 件）

・土日も児童館などを開いてほしい。（20 歳代女性）
・子育てカフェみたいな、子ども同士遊ばせられるけど、困った時は保育士が助けてくれるような、親同士交流できる所があると良い。（30 歳代女性）
・子どもだけで安全・安心して遊んだり学んだりできる施設が近くに欲しい。（30 歳代女性）
・子どもが産まれて、外で遊ばせたくても近くに公園がない。もっと子どもが遊べる公園が整備されていると良い。（40 歳代女性）

7．相談・交流・情報について（9 件）

- 自治体からの子育て支援情報などを手軽に得られるシステムを考えてほしい。（30 歳代女性）
- 気軽に相談できるコミュニティ。（30 歳代女性）
- 子どもの成長による子どもの精神的なケア、相談を行ってくれる所。（病院、学校以外）（40 歳代女性）

8．働き方（仕事と育児の両立等）・就労支援について（24 件）

- 就労支援や正社員（公務員）としての仕事の支援。（20 歳代男性）
- 休みやすい職場環境、夜勤免除。（30 歳代女性）
- 育児休暇の期間を延ばしてほしい。正社員のままが良いが、産後一年で職場復帰するのは厳しいからと、パートに切り替えられたり、仕事を辞める人がいる。（40 歳代女性）
- 職場で年齢、男女関係なく育児休業についての説明会をして、出産・育児について理解してほしい。（40 歳代女性）

9．経済的な支援について（87 件）

①保育料（3 件）

- 未満児保育料無償、又は減額（第１子から）。（20 歳代男性）
- 保育園の未満児クラスの費用が、他の市に比べて高かった。（30 歳代男性）

②児童手当（7 件）

- ３人以上の子どもがいる家庭への手当ての充実。（30 歳代男性）
- 児童手当の年齢上限を上げてほしい。小中高校はまだまだお金がかかる。（30 歳代女性）

③教育費（26 件）

- 給食費の負担軽減、高校の学費無償化。（30 歳代女性）
- 大学奨学金の無利子または返済不要だけにするか、学費を下げてほしい。（40 歳代男性）
- 教育費など子育てにかかる費用の援助をもっと充実してほしい。（40 歳代女性）

④医療費（16 件）

- 子ども医療費無料の年齢を引き上げる。（20 歳代男性）
- 18 歳までの医療費無償化、インフルエンザワクチン接種無償化。（40 歳代女性）

⑤住宅費（2 件）

- 育休推進のため、子どもが３歳までは家賃補助もしくは住宅補助を行政からも出す。（40 歳代女性）

⑥税控除（9 件）

- 減税。（40 歳代男性）
- 子ども１人産むにつれて、所得税や住民税の控除。（40 歳代女性）

⑦全般的な経済的支援について（24 件）

- 現在物価が上がっているが、賃金はそのままなので貯金ができず、先の未来に不安を持っている方が多いと思う。金銭的な支援がもっとできると良い。（20 歳代女性）
- 生活必需品等生活していく為の物やお金の補助。（40 歳代男性）
- 若年（10～20 代）の子育て世代に補助金を追加。（40 歳代男性）

10．その他（12 件）

＜ここが良いと感じているところ＞

１．結婚・出会いについて（8 件）

・ぎふマリッジサポートという場所があることは、結婚を希望する人にとって良いと感じた。（20 歳代女性）
・結婚は安心感がある。孤独じゃないから。（30 歳代女性）

２．妊娠・出産、産後のサポートについて（10 件）

・妊婦健診が無料なところ。（20 歳代女性）
・産後のサポート体制が市内は充実しているなと感じた。（30 歳代女性）
・出産一時金がもらえたこと。（40 歳代男性）

３．家事・育児、子育て支援について（12 件）

・ぎふっこカードなどサービスがあるところが良いと思う。（18～19 歳女性）
・子育て支援金のようなサービスはありがたい。（30 歳代男性）
・多子世帯への手当てが他より多いこと。これが全くなければ３人目は産まなかったと思う。（30 歳代女性）

４．子どもの成長・子どもを持つ喜びについて（42 件）

・家族で過ごす時間ができて、幸福度が高くなっている。（30 歳代男性）
・子どもが、成長に応じ家族としての役割を自覚したり、他の家族を助けたり、親としても精神的な支えとなってくれる時があり、頼もしく思っている。（40 歳代女性）
・子どもと一緒にいることで幸せを感じる。（40 歳代女性）

５．学校・勉学について（5 件）

・高校生が無料でタブレットを使わせてもらえること。（40 歳代女性）
・土曜学習やボランティアは良いと思う。（40 歳代女性）

６．地域環境について（13 件）

・周りの近所の方が優しく、地域で子どもを見守ってくれている感じがする。（30 歳代女性）
・岐阜県は自然がたくさんある。（30 歳代男性）
・岐阜県は治安が良く、災害もそこまでなく子育てするには育てやすい県だと思う。（40 歳代女性）

７．施設・設備（保育所・児童施設等）について（19 件）

・児童館や公園がたくさんあり、様々なイベントもあるので、お金をかけなくても子どもと遊べる場が充実している。（20 歳代女性）
・認定こども園があるところ。（30 歳代男性）
・子ども食堂（勉強、遊び、昼ごはん）に子どもたちが楽しんで参加している。（30 歳代女性）
・病児保育園の利用ができてありがたかった。（40 歳代女性）

８．相談・交流・情報について（9 件）

・地域の教育支援センターで、定期的に育児についての知識を得られる。（20 歳代男性）
・子どもを通して地域の仲間（ママ友など）ができた。（40 歳代女性）
・子育てアプリが充実してきている。（40 歳代女性）

９．働き方（仕事と育児の両立等）について（3 件）

・育休、産休制度が増えてきた。（20 歳代女性）
・年々、子育てに理解がある雇用先が増加していると思う。（40 歳代女性）

10. 経済的な支援について（37 件）

・子どもの医療費無料はありがたい。（30 歳代女性）
・高校３年生まで医療費負担がないこと。（40 歳代女性）
・高校の学費の支援はとても助かった。（40 歳代女性）

11. その他（1 件）

Ⅱ　仕事をしている方にお聞きします（仕事をしていない方は問 24 にお進みください）

※問 23～問 23-②は、回答者属性の④で「1. 正社員」「2. 派遣・契約社員」「3. パート・アルバイト」「4. 自営業・家族従事・内職」と答えた方を総数とした。

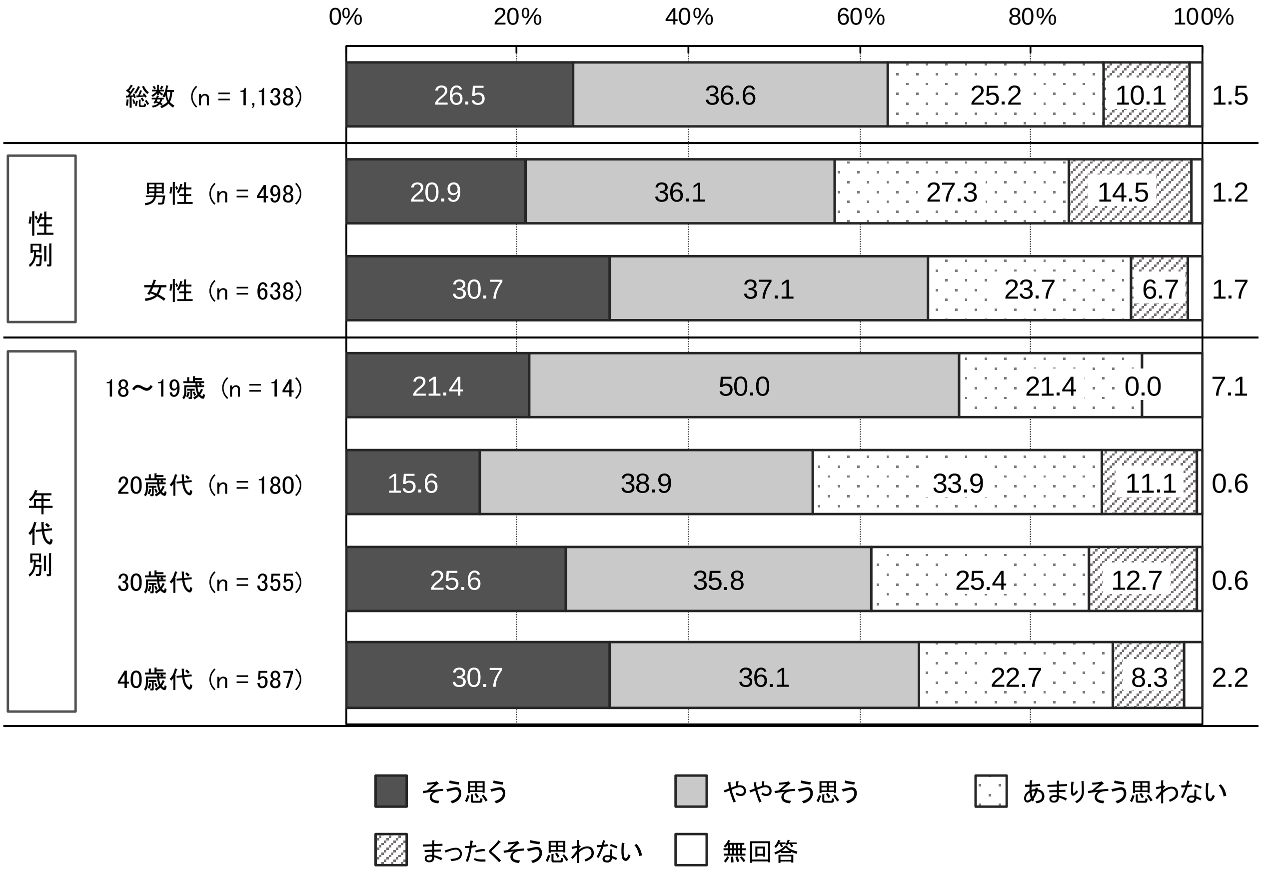
【問23】　あなたの職場は、子育てをする人（男女問わず）にとって働きやすいと思いますか。次の中から１つ選び○印をつけてください。

◆ 子育てをする人にとって働きやすい職場かについては、「ややそう思う」が 36.6％で最も高く、次いで「そう思う」が 26.5％、「あまりそう思わない」が 25.2％となっている。また、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』は、63.1％となっている。

◆ 性別でみると、『そう思う』で、女性が 67.8％、男性が 57.0％と、女性の割合が男性より 10.8 ポイント高くなっている。

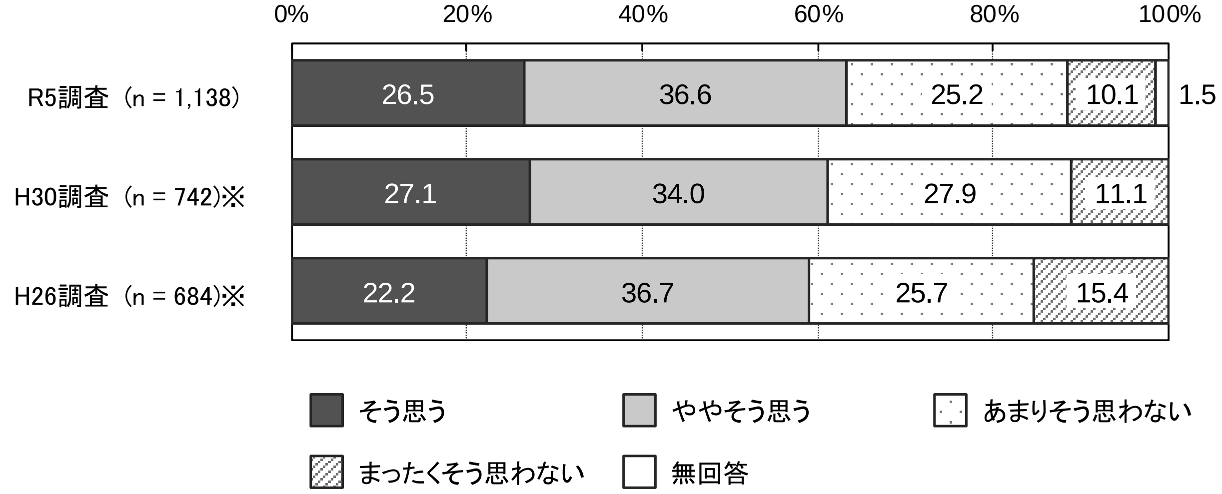
◆ 年代別でみると、20～40 歳代では、『そう思う』の割合が、年代が上がるにつれて高くなっている。

図表 23-1　子育てをする人にとって働きやすい職場か（総数、性別、年代別）



◆　過去の調査と比較すると、平成 26 年調査から『そう思う』の割合がやや増加傾向にある。

図表 23-2　子育てをする人にとって働きやすい職場か（総数、経年比較（参考））



※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。
※H26 調査の集計は、就業の有無を不問とし、設問に回答した方を総数とした。

【問23ー②】　問23で「３（あまりそう思わない）」または「４（まったくそう思わない）」と答えた方にお聞きします。
働きにくいのは、何が原因だと思いますか。
あてはまる番号すべてに〇印をつけてください。（複数回答）

◆ 子育てをする人にとって働きにくいと思う原因については、「日常的に労働時間が長い」が 49.5％で最も高く、次いで「有給休暇が取りづらい雰囲気がある」が 41.3％、「ひとりひとりの業務量が多い」が 36.6％となっている。

◆ 性別でみると、男女ともに「日常的に労働時間が長い」が最も高く、男性で 56.7％、女性で 41.8％と、男性の割合が女性より 14.9 ポイント高くなっている。また、「子どもの病気などで急用が入ったとき、職場で柔軟な対応ができない」では、女性の割合が男性より 7.2 ポイント高くなっている。

図表 23-2-1　子育てをする人にとって働きにくいと思う原因（総数、性別）

（％）

	項目	総数 (n = 402)	男性 (n = 208)	女性 (n = 194)
1	子育てを重視しながら働くことに上司や同僚の理解・協力が得られない	29.4	34.6	23.7
2	日常的に労働時間が長い	**49.5**	**56.7**	**41.8**
3	通勤時間が長い	13.9	15.9	11.9
4	始業・就業時間が固定的である	27.6	25.0	30.4
5	営業時間の制約（顧客対応や長時間開店など）がある	13.7	13.5	13.9
6	ひとりひとりの業務量が多い	36.6	40.9	32.0
7	有給休暇が取りづらい雰囲気がある	**41.3**	**43.3**	**39.2**
8	育児に関する休暇・休業がとりづらい雰囲気がある	33.6	36.5	30.4
9	育児支援制度の利用が昇進や昇給に不利である	9.7	12.5	6.7
10	転勤がある	8.0	9.1	6.7
11	職場で継続就業してキャリア形成している例がない	9.0	6.7	11.3
12	子どもの病気などで急用が入ったとき、職場で柔軟な対応ができない	31.8	28.4	35.6
13	復職にあたっての異動・配置の本人希望が通りにくい	8.7	6.7	10.8
14	その他	5.7	1.9	9.8
	無回答	0.2	0.5	0.0

◆ 年代別でみると、いずれの年代においても「日常的に労働時間が長い」が最も高く、年代が下がるにつれて割合が高くなっている。「ひとりひとりの業務量が多い」、「子どもの病気などで急用が入ったとき、職場で柔軟な対応ができない」では年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

図表 23-2-2　子育てをする人にとって働きにくいと思う原因（年代別）

（%）

	項目	18～19歳 (n = 3)	20歳代 (n = 81)	30歳代 (n = 135)	40歳代 (n = 182)
1	子育てを重視しながら働くことに上司や同僚の理解・協力が得られない	0.0	25.9	33.3	28.0
2	日常的に労働時間が長い	**66.7**	**53.1**	**51.9**	**46.2**
3	通勤時間が長い	**66.7**	11.1	12.6	15.4
4	始業・就業時間が固定的である	0.0	24.7	32.6	25.8
5	営業時間の制約（顧客対応や長時間開店など）がある	0.0	11.1	14.1	14.8
6	ひとりひとりの業務量が多い	0.0	28.4	37.8	**40.1**
7	有給休暇が取りづらい雰囲気がある	33.3	38.3	**46.7**	38.5
8	育児に関する休暇・休業がとりづらい雰囲気がある	**66.7**	**42.0**	33.3	29.1
9	育児支援制度の利用が昇進や昇給に不利である	0.0	9.9	9.6	9.9
10	転勤がある	0.0	8.6	9.6	6.6
11	職場で継続就業してキャリア形成している例がない	0.0	8.6	7.4	10.4
12	子どもの病気などで急用が入ったとき、職場で柔軟な対応ができない	0.0	27.2	29.6	35.7
13	復職にあたっての異動・配置の本人希望が通りにくい	0.0	6.2	6.7	11.5
14	その他	0.0	6.2	4.4	6.6
	無回答	0.0	0.0	0.7	0.0

◆ 過去の調査と比較すると、平成30年調査、平成26年調査より「有給休暇が取りづらい雰囲気がある」、「子どもの病気などで急用が入ったとき、職場で柔軟な対応ができない」の割合が減少している。

図表 23-2-3　子育てをする人にとって働きにくいと思う原因（総数、経年比較（参考））

（%）

	項目	R5調査 (n = 402)	H30調査 (n = 299)※	H26調査 (n = 281)
1	子育てを重視しながら働くことに上司や同僚の理解・協力が得られない	29.4	34.1	28.8
2	日常的に労働時間が長い	**49.5**	**53.5**	**47.3**
3	通勤時間が長い	13.9	12.7	14.2
4	始業・就業時間が固定的である	27.6	24.4	13.2
5	営業時間の制約（顧客対応や長時間開店など）がある	13.7	12.7	12.1
6	ひとりひとりの業務量が多い	36.6	33.8	33.8
7	有給休暇が取りづらい雰囲気がある	**41.3**	**46.2**	**44.5**
8	育児に関する休暇・休業がとりづらい雰囲気がある	33.6	34.8	36.7
9	育児支援制度の利用が昇進や昇給に不利である	9.7	10.7	9.3
10	転勤がある	8.0	5.7	11.0
11	職場で継続就業してキャリア形成している例がない	9.0	11.7	8.5
12	子どもの病気などで急用が入ったとき、職場で柔軟な対応ができない	31.8	34.4	35.6
13	復職にあたっての異動・配置の本人希望が通りにくい	8.7	11.0	9.3
14	その他	5.7	7.0	8.2
	無回答	0.2	-	2.1

※H30調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。

Ⅲ　子育てについてお聞きします（子どもがいない方は問31にお進みください）。

※問24～問30は、回答者属性の⑦で「子どもの人数」に「1人」以上と答えた方を総数とした。

【問24】　あなたは、次の労働関連制度などを利用したことがありますか。
あてはまる番号すべてに○印をつけてください。（複数回答）

◆　労働関連制度の利用については、「いずれも利用したことがない」が55.4％で最も高く、次いで「育児休業制度」が27.5％、「短時間勤務制度」が11.5％となっている。

◆　性別でみると、男女ともに「いずれも利用したことがない」が最も高く、次いで男性では「在宅勤務」、女性では「育児休業制度」の割合が高くなっている。

図表24-1　労働関連制度の利用（総数、性別）

（％）

	項目	総数（n = 816）	男性（n = 273）	女性（n = 528）
1	育児休業制度	**27.5**	13.2	**34.7**
2	短時間勤務制度	11.5	2.9	15.3
3	フレックスタイム制度	7.0	14.3	3.2
4	所定外時間勤務の免除	1.0	0.7	0.9
5	在宅勤務	10.4	**19.0**	6.1
6	育児に関する費用の補助	5.1	6.2	4.5
7	勤務地の限定ないし指定	2.6	1.5	3.0
8	再雇用制度	0.9	0.7	0.9
9	子の看護休暇	10.2	9.2	10.4
10	その他育児に関連した制度	0.1	0.0	0.0
11	いずれも利用したことがない	**55.4**	**56.0**	**55.7**
	無回答	2.7	3.3	2.1

◆ 年代別でみると、いずれの年代においても「いずれも利用したことがない」が最も高く、そのうち 40 歳代で 60.4%と他の年代に比べて高くなっている。「育児休業制度」では、18～29 歳で 36.1%と他の年代に比べて高くなっている。

図表 24-2　労働関連制度の利用（年代別）

（%）

	項目	18～29歳 (n = 36)	30歳代 (n = 260)	40歳代 (n = 503)
1	育児休業制度	**36.1**	**35.4**	**22.7**
2	短時間勤務制度	11.1	15.0	8.9
3	フレックスタイム制度	2.8	5.4	8.2
4	所定外時間勤務の免除	0.0	0.8	1.0
5	在宅勤務	11.1	8.1	11.7
6	育児に関する費用の補助	11.1	5.4	4.4
7	勤務地の限定ないし指定	0.0	0.8	3.8
8	再雇用制度	0.0	0.4	1.0
9	子の看護休暇	11.1	12.7	8.7
10	その他育児に関連した制度	0.0	0.0	0.0
11	いずれも利用したことがない	**47.2**	**48.5**	**60.4**
	無回答	5.6	2.3	2.2

◆　過去の調査と比較すると、平成 26 年調査から「いずれも利用したことがない」の割合が減少し、「育児休業制度」の割合が増加傾向にある。

図表 24-3　労働関連制度の利用（総数、経年比較（参考））

（%）

項目		R5調査 (n = 816)	H30調査 (n = 459)※	H26調査 (n = 562)
1	育児休業制度	**27.5**	**20.0**	**14.8**
2	短時間勤務制度	11.5	6.5	5.3
3	フレックスタイム制度	7.0	-	-
4	所定外時間勤務の免除	1.0	1.5	0.2
5	在宅勤務	10.4	1.3	0.7
6	育児に関する費用の補助	5.1	9.6	5.5
7	勤務地の限定ないし指定	2.6	1.1	0.9
8	再雇用制度	0.9	0.2	1.1
9	子の看護休暇	10.2	5.9	3.7
10	その他育児に関連した制度	0.1	0.7	1.1
11	いずれも利用したことがない	**55.4**	**68.2**	**70.6**
	無回答	2.7	-	7.1

※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。

【問24ー②】　<u>問24で「１」と答えなかった方（育児休業を取得しなかった方）にお聞きします。</u>
育児休業を取得しなかったのはなぜですか。
あてはまる番号すべてに○印をつけてください。（複数回答）

◆ 育児休業を取得しなかった理由については、「その他」を除き、「職場に育児休業制度がなかった」が 19.6%で最も高く、次いで「自分の仕事が忙しく同僚に迷惑がかかる」が17.9%となっている。「その他」の自由記述では、「出産前に仕事をやめたから」、「結婚で仕事をやめたから」、「パートのため」、「自営業のため」などの意見があった。

◆ 性別でみると、男性では「自分の仕事が忙しく同僚に迷惑がかかる」が最も高く、次いで「取得しにくい雰囲気が職場内にあった」の割合が高くなっており、上位２位の項目ともに男性の割合が女性より高くなっている。

図表 24-2-1　育児休業を取得しなかった理由（総数、性別）

（%）

	項目	総数（n = 592）	男性（n = 237）	女性（n = 345）
1	職場に育児休業制度がなかった	**<u>19.6</u>**	22.8	17.4
2	自分の仕事が忙しく同僚に迷惑がかかる	**17.9**	**<u>34.6</u>**	6.4
3	取得しにくい雰囲気が職場内にあった	15.0	**24.9**	8.4
4	育児休業の対象者ではなかった	10.5	3.4	15.1
5	取得すると収入が減る	10.3	21.5	1.7
6	制度を知らなかった	4.4	3.4	4.9
7	勤務評価に影響する	3.5	8.4	0.0
8	配偶者が取得したため、取得する必要がなかった	5.6	13.1	0.6
9	配偶者が子育てに協力してくれるため、取得する必要がなかった	7.6	15.6	2.3
10	子どもを預かってくれる人（場所）があったため、取得する必要がなかった	4.9	4.2	5.2
11	取得したいと思わなかった	11.5	11.8	11.6
12	その他	16.6	5.9	**<u>23.8</u>**
	無回答	13.9	8.4	17.4

◆ 年代別でみると、30 歳代では「取得しにくい雰囲気が職場内にあった」、40 歳代では「職場に育児休業制度がなかった」が最も高くなっている。

図表 24-2-2　育児休業を取得しなかった理由（年代別）

（%）

	項目	18～29歳（n = 23）	30歳代（n = 168）	40歳代（n = 389）
1	職場に育児休業制度がなかった	0.0	14.3	**23.4**
2	自分の仕事が忙しく同僚に迷惑がかかる	13.0	**17.3**	**18.8**
3	取得しにくい雰囲気が職場内にあった	4.3	**19.0**	14.1
4	育児休業の対象者ではなかった	8.7	10.7	10.5
5	取得すると収入が減る	**21.7**	11.9	8.5
6	制度を知らなかった	4.3	3.0	4.9
7	勤務評価に影響する	4.3	5.4	2.6
8	配偶者が取得したため、取得する必要がなかった	4.3	4.8	5.9
9	配偶者が子育てに協力してくれるため、取得する必要がなかった	8.7	10.1	6.4
10	子どもを預かってくれる人（場所）があったため、取得する必要がなかった	0.0	4.2	5.4
11	取得したいと思わなかった	17.4	12.5	11.1
12	その他	**26.1**	13.7	17.0
	無回答	21.7	14.9	12.1

◆ 過去の調査と比較すると、平成 26 年調査から「職場に育児休業制度がなかった」の割合が減少傾向にある。

図表 24-2-3　育児休業を取得しなかった理由（総数、経年比較（参考））

（%）

	項目	R5調査（n = 592）	H30調査（n = 332）※	H26調査（n = 479）
1	職場に育児休業制度がなかった	**19.6**	**21.7**	**25.1**
2	自分の仕事が忙しく同僚に迷惑がかかる	**17.9**	16.3	13.2
3	取得しにくい雰囲気が職場内にあった	15.0	16.0	12.1
4	育児休業の対象者ではなかった	10.5	9.9	7.1
5	取得すると収入が減る	10.3	7.8	5.0
6	制度を知らなかった	4.4	4.8	2.5
7	勤務評価に影響する	3.5	4.8	3.3
8	配偶者が取得したため、取得する必要がなかった	5.6	9.3	3.3
9	配偶者が子育てに協力してくれるため、取得する必要がなかった	7.6	13.3	9.4
10	子どもを預かってくれる人（場所）があったため、取得する必要がなかった	4.9	7.8	7.3
11	取得したいと思わなかった	11.5	13.3	10.2
12	その他	16.6	**24.1**	**14.8**
	無回答	13.9	-	18.4

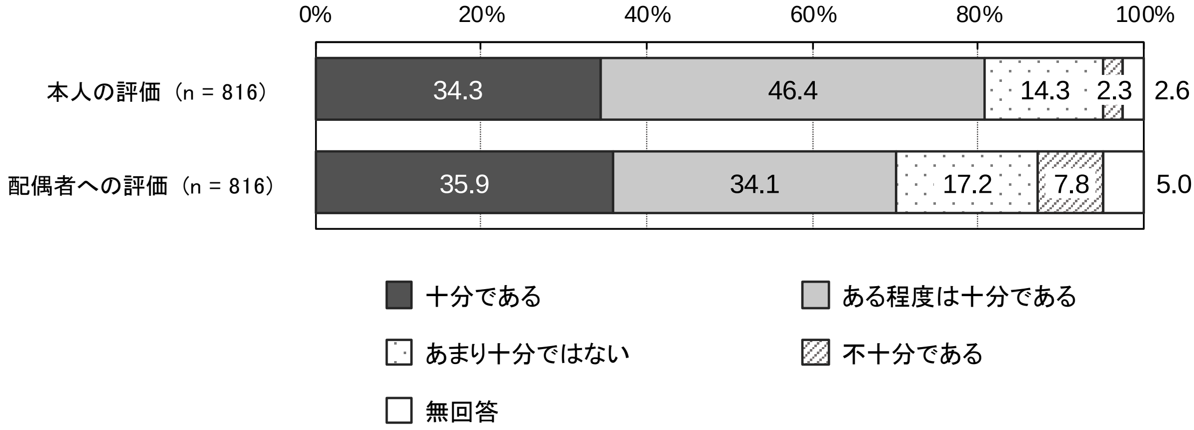
※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。

【問25】　あなたとあなたの配偶者の子育てへの関わりは十分だと思いますか。
それぞれについて、あてはまる番号を１つ選び○印をつけてください。
（配偶者のいらっしゃらない方は、あなたご自身についてのみお答えください）

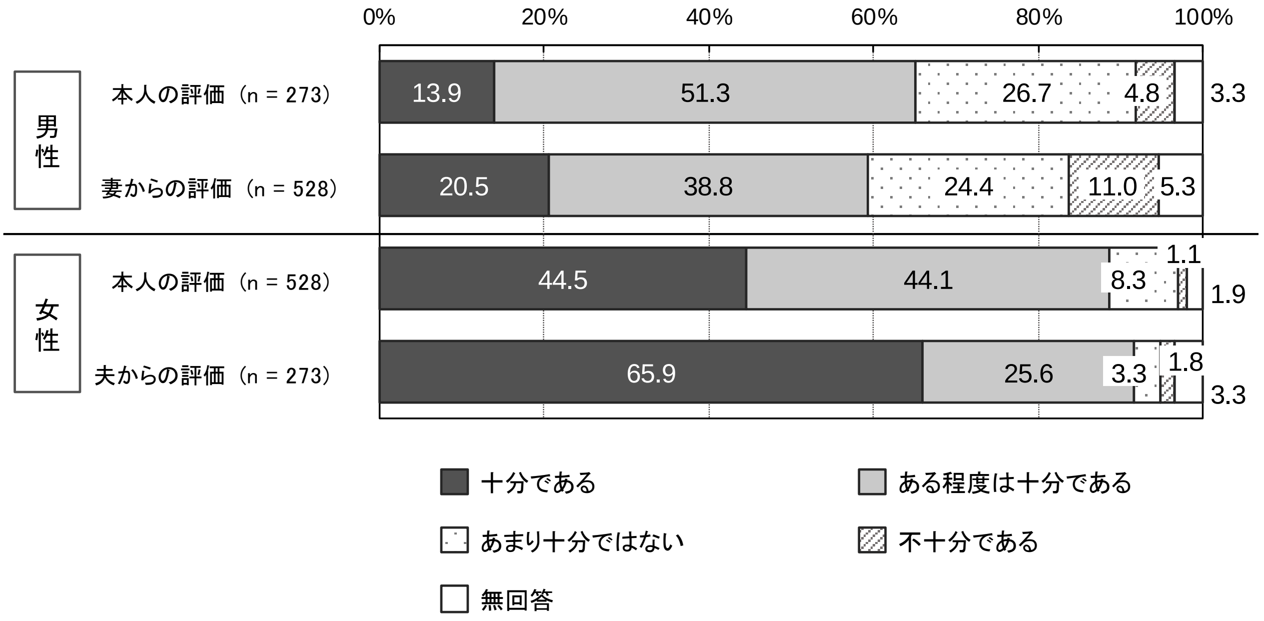
◆ 子育てへの関わり状況について、回答者本人と本人から見た配偶者について聞いたところ、本人の評価は、「十分である」と「ある程度は十分である」を合わせた『十分』が 80.7%で、「あまり十分ではない」と「不十分である」を合わせた『不十分』が 16.6%であった。

◆ 性別でみると、女性の夫からの評価は『十分』が 91.5%と高くなっているのに対し、男性の妻からの評価は『十分』が 59.3%となっている。また、本人の評価では、『十分』が男性で 65.2%、女性で 88.6%と女性の割合が高く、『不十分』が男性で 31.5%、女性で 9.4%と男性の割合が高くなっている。

図表 25-1　子育てへの関わり状況（総数）

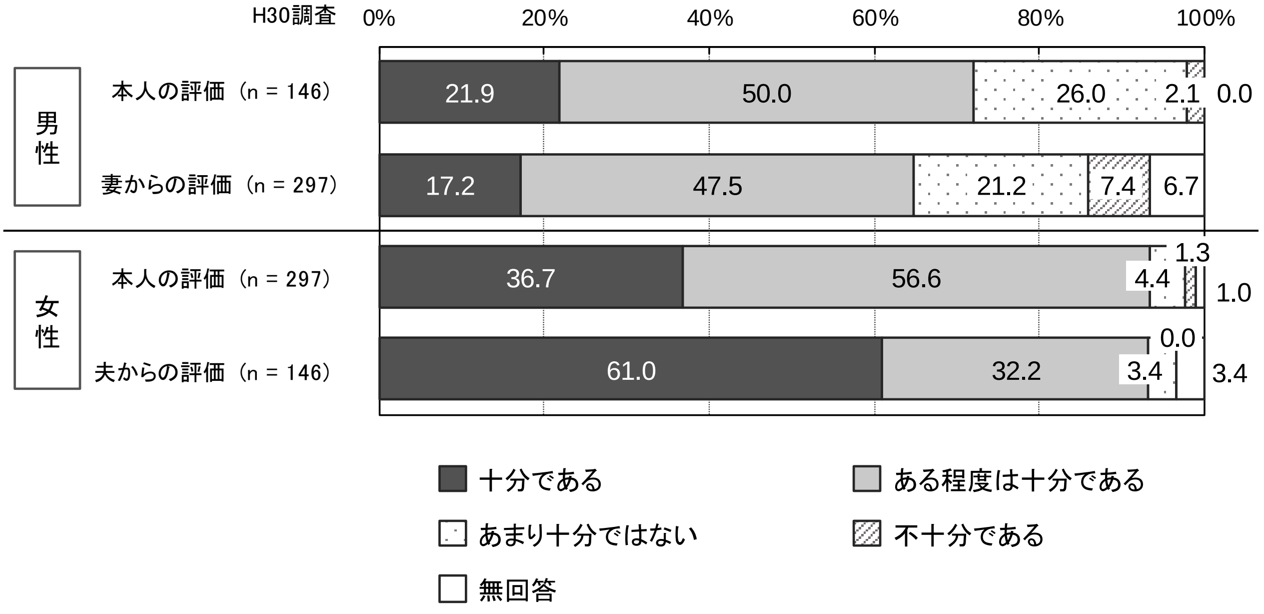


図表 25-2　子育てへの関わり状況（性別）



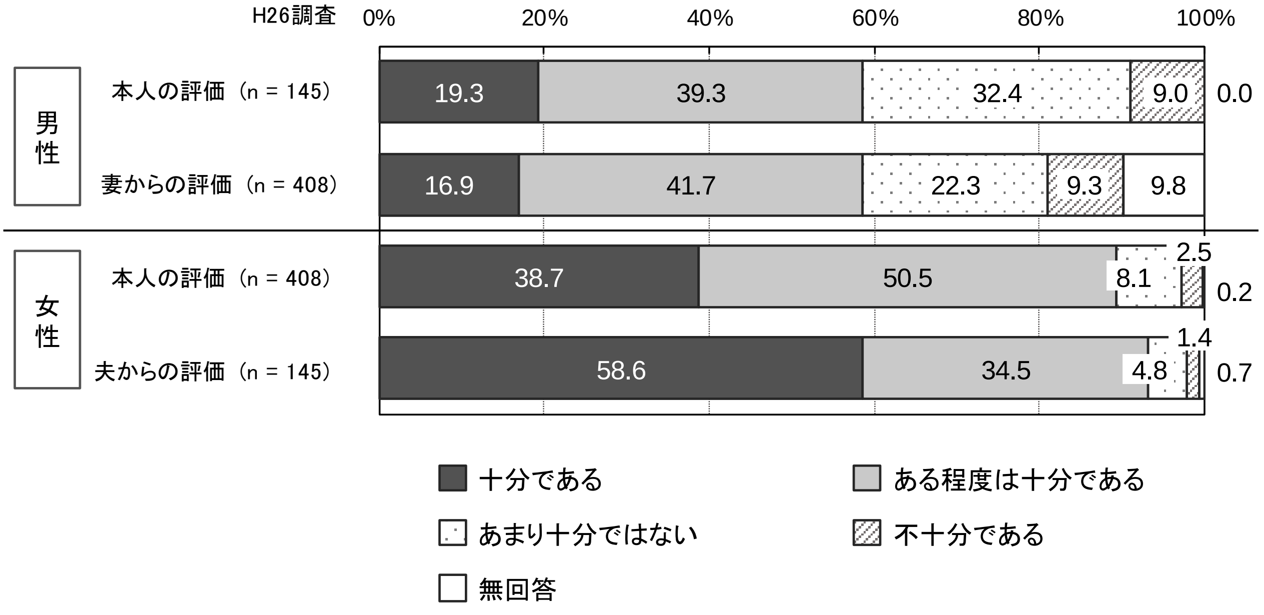
◆　過去の調査と性別で比較すると、いずれの調査においても女性の夫からの評価は『十分』が９割以上と高くなっているのに対し、男性の妻からの評価は『十分』が６割前後となっている。

図表 25-3　子育てへの関わり状況（【性別】経年比較（参考））



※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。

図表 25-4　子育てへの関わり状況（【性別】経年比較（参考））



【問25ー②】　問25で、あなたまたは配偶者が、「３（あまり十分でない)」または「４（不十分である)」と答えた方にお聞きします。
関わりが十分でないのは、何が原因だと思いますか。あてはまる番号すべてに○印をつけてください。（配偶者のいらっしゃらない方は、あなたご自身についてのみお答えください）（複数回答）

◆ 子育てへの関わりが不十分な理由について、性別でみると、男性は本人及び妻からの評価ともに「仕事が忙しすぎるため」が最も高く、女性においても本人及び夫からの評価ともに「仕事が忙しすぎるため」が最も高くなっている。

◆ 男性の本人の評価と妻からの評価を比較すると、「趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にするため」、「子どものことや家庭のことにあまり関心がないため」、「子育ての大切さを理解していないため」、「子育ては女性がするべきものと考えているため」で、妻からの評価の割合が本人の評価より 20 ポイント以上高くなっている。

図表 25-2-1　子育てへの関わりが不十分な理由（性別）

（%）

	項目	男　性		女　性	
		本人の評価（n = 86）	妻からの評価（n = 187）	本人の評価（n = 50）	夫からの評価（n = 14）
1	仕事が忙しすぎるため	**76.7**	**60.4**	**62.0**	**50.0**
2	子どもの病気や行事などで気軽に休みが取れる職場でないため	**43.0**	**53.5**	**36.0**	**28.6**
3	趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にするため	23.3	43.3	8.0	21.4
4	子どものことや家庭のことにあまり関心がないため	9.3	30.5	4.0	7.1
5	子どもの世話を面倒だと考えているため	10.5	29.4	16.0	14.3
6	子育ての大切さを理解していないため	7.0	33.7	10.0	21.4
7	子どもとどう接したらよいかわからないため	19.8	26.2	14.0	14.3
8	子育てに関する知識や情報が乏しいため	26.7	41.2	10.0	14.3
9	子育ては女性がするべきものと考えているため	12.8	49.2	4.0	14.3
10	その他	4.7	7.0	8.0	7.1
	無回答	3.5	7.0	12.0	42.9

◆ 過去の調査と性別で比較すると、いずれの調査においても、男性は本人及び妻からの評価ともに「仕事が忙しすぎるため」が最も高く、本人の評価の割合が妻からの評価より高くなっている。

図表 25-2-2　子育てへの関わりが不十分な理由（【性別】経年比較（参考））

＜H30調査＞　（%）

	項目	男性		女性	
		本人の評価 (n = 41)※	妻からの評価 (n = 86)※	本人の評価 (n = 25)※	夫からの評価 (n = 7)※
1	仕事が忙しすぎるため	**56.1**	**54.7**	**52.0**	**71.4**
2	子どもの病気や行事などで気軽に休みが取れる職場でないため	**36.6**	38.4	20.0	**100.0**
3	趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にするため	17.1	38.4	8.0	0.0
4	子どものことや家庭のことにあまり関心がないため	2.4	29.1	8.0	0.0
5	子どもの世話を面倒だと考えているため	7.3	15.1	24.0	0.0
6	子育ての大切さを理解していないため	7.3	16.3	16.0	0.0
7	子どもとどう接したらよいかわからないため	9.8	24.4	**32.0**	14.3
8	子育てに関する知識や情報が乏しいため	9.8	30.2	24.0	14.3
9	子育ては女性がするべきものと考えているため	7.3	**45.3**	4.0	14.3
10	その他	7.3	14.0	4.0	0.0

※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。

図表 25-2-3　子育てへの関わりが不十分な理由（【性別】経年比較（参考））

＜H26調査＞　（%）

項目		男性		女性	
		本人の評価（n = 60）	妻からの評価（n = 129）	本人の評価（n = 43）	夫からの評価（n = 9）
1	仕事が忙しすぎるため	**76.7**	**71.3**	**60.5**	**77.8**
2	子どもの病気や行事などで気軽に休みが取れる職場でないため	**40.0**	**50.4**	**32.6**	**22.2**
3	趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にするため	10.0	32.6	4.7	1.1
4	子どものことや家庭のことにあまり関心がないため	3.3	17.8	4.7	0.0
5	子どもの世話を面倒だと考えているため	3.3	13.2	4.7	11.1
6	子育ての大切さを理解していないため	3.3	17.8	2.3	0.0
7	子どもとどう接したらよいかわからないため	15.0	18.6	7.0	11.1
8	子育てに関する知識や情報が乏しいため	6.7	20.9	7.0	11.1
9	子育ては女性がするべきものと考えているため	5.0	27.9	4.7	0.0
10	その他	5.0	4.7	11.6	0.0

【問26】　一人目の子どもが生まれてから、あなたや配偶者は働き方や日ごろの自分の時間の過ごし方が変わりましたか。あてはまる番号すべてに○印をつけてください。（配偶者のいらっしゃらない方は、あなたご自身についてのみお答えください。）（複数回答）

＜日ごろの自分の時間の過ごし方＞

◆ 子どもが生まれてからの時間の過ごし方について、性別でみると、男性は本人の評価では「友人との付き合い、趣味の活動時間を減らした」が最も高く、妻からの評価では「子どもを含めて家族で楽しめることを始めた」が最も高くなっている。女性は本人及び夫からの評価ともに「家事をする時間が増えた」が最も高くなっている。

◆ 男性の本人の評価と妻からの評価を比較すると、「友人との付き合い、趣味の活動時間を減らした」、「子ども中心の生活とし、自分の時間はもたないようになった」、「家事をする時間が増えた」では、妻からの評価の割合が本人の評価より 20 ポイント以上低くなっている。

図表 26-1　子どもが生まれてからの時間の過ごし方（性別）

（%）

	項目	男性		女性	
		本人の評価（n = 273）	妻からの評価（n = 528）	本人の評価（n = 528）	夫からの評価（n = 273）
1	これまでと変わらない	23.1	**37.3**	9.1	6.6
2	友人との付き合い、趣味の活動時間を減らした	**60.1**	32.2	**65.9**	49.8
3	子どもに関係した友人との付き合い（ボランティア、PTAを含む）、新しい趣味の活動を始めた	14.7	9.7	36.0	26.4
4	子どもを含めて家族で楽しめることを始めた	**53.1**	**41.3**	50.4	49.1
5	子ども中心の生活とし、自分の時間はもたないようになった	33.0	12.5	55.1	**50.5**
6	家事をする時間が増えた	44.7	22.0	**69.3**	**54.2**
	無回答	2.2	14.2	1.9	10.3

◆ 過去の調査と性別で比較すると、男性の妻からの評価は、平成 26 年調査、平成 30 年調査で「これまでと変わらない」の割合が最も高くなっていたが、令和５年調査では「子どもを含めて家族で楽しめることを始めた」の割合が最も高くなっている。

図表 26-2 子どもが生まれてからの時間の過ごし方（【性別】経年比較（参考））

＜H30調査＞ （％）

	項目	男性 本人の評価（n = 147）	男性 妻からの評価（n = 293）	女性 本人の評価（n = 293）	女性 夫からの評価（n = 147）
1	これまでと変わらない	20.4	**43.3**	5.1	7.5
2	友人との付き合い、趣味の活動時間を減らした	**55.8**	30.7	**64.5**	48.3
3	子どもに関係した友人との付き合い（ボランティア、PTAを含む）、新しい趣味の活動を始めた	18.4	8.9	36.9	42.2
4	子どもを含めて家族で楽しめることを始めた	**53.7**	**38.2**	45.1	43.5
5	子ども中心の生活とし、自分の時間はもたないようになった	34.7	16.0	61.8	**51.7**
6	家事をする時間が増えた	37.4	16.4	**67.6**	**53.7**
	無回答	1.4	8.5	2.4	9.5

※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。

図表 26-3 子どもが生まれてからの時間の過ごし方（【性別】経年比較（参考））

＜H26調査＞ （％）

	項目	男性 本人の評価（n = 145）	男性 妻からの評価（n = 408）	女性 本人の評価（n = 408）	女性 夫からの評価（n = 145）
1	これまでと変わらない	23.4	**38.7**	7.6	5.5
2	友人との付き合い、趣味の活動時間を減らした	**43.4**	17.2	40.7	26.9
3	子どもに関係した友人との付き合い（ボランティア、PTAを含む）、新しい趣味の活動を始めた	11.0	4.9	38.0	26.2
4	子どもを含めて家族で楽しめることを始めた	**31.7**	**30.4**	37.5	28.3
5	子ども中心の生活とし、自分の時間はもたないようになった	30.3	10.3	**48.3**	**46.9**
6	家事をする時間が増えた	20.0	11.0	**49.0**	**42.8**
	無回答	5.5	18.1	7.6	13.1

＜働き方＞

◆ 子どもが生まれてからの働き方について、性別でみると、男性は本人及び妻からの評価ともに「これまでと変わらない」が最も高くなっている。女性は本人及び夫からの評価ともに「仕事を辞めた」が最も高く、次いで「労働時間を減らした」、「正社員からパート・アルバイトに変えた」の割合が高くなっている。

図表 26-4 子どもが生まれてからの働き方（性別）

（%）

項目		男 性		女 性	
		本人の評価（n = 273）	妻からの評価（n = 528）	本人の評価（n = 528）	夫からの評価（n = 273）
1	これまでと変わらない	**73.6**	**73.7**	18.9	13.9
2	労働時間を増やした	**10.3**	**6.6**	4.9	2.6
3	労働時間を減らした	9.5	4.0	**30.5**	**24.9**
4	勤務時間（フレックスタイムを含む）、勤務日を変えた	5.5	2.3	7.8	6.6
5	勤務地を変えた	4.0	4.0	7.8	5.9
6	正社員からパート・アルバイトに変えた	1.5	0.0	19.5	15.8
7	転職した	6.6	6.4	12.3	9.9
8	仕事を辞めた	1.8	0.4	**33.5**	**28.2**
9	元々仕事はしていなかった	0.4	0.0	9.8	5.5
	無回答	5.5	14.8	5.5	21.2

◆ 過去の調査と性別で比較すると、いずれの調査においても、男性は本人及び妻からの評価ともに「これまでと変わらない」の割合が最も高く、女性は本人及び夫からの評価ともに「仕事を辞めた」の割合が最も高くなっている。

図表 26-5 子どもが生まれてからの働き方（【性別】経年比較（参考））

＜H30調査＞ （%）

	項目	男性 本人の評価 (n = 147)	男性 妻からの評価 (n = 293)	女性 本人の評価 (n = 293)	女性 夫からの評価 (n = 147)
1	これまでと変わらない	79.6	75.8	11.9	17.7
2	労働時間を増やした	8.2	7.8	3.1	2.0
3	労働時間を減らした	9.5	2.7	30.0	23.8
4	勤務時間（フレックスタイムを含む）、勤務日を変えた	2.7	1.4	9.6	8.8
5	勤務地を変えた	2.0	4.1	8.2	4.8
6	正社員からパート・アルバイトに変えた	0.0	0.0	17.4	10.9
7	転職した	6.8	7.2	9.2	7.5
8	仕事を辞めた	2.0	0.7	39.9	26.5
9	元々仕事はしていなかった	1.4	0.3	12.6	8.8
	無回答	2.7	12.6	5.1	20.4

※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。

図表 26-6 子どもが生まれてからの働き方（【性別】経年比較（参考））

＜H26調査＞ （%）

	項目	男性 本人の評価 (n = 145)	男性 妻からの評価 (n = 408)	女性 本人の評価 (n = 408)	女性 夫からの評価 (n = 145)
1	これまでと変わらない	71.0	70.3	16.4	15.9
2	労働時間を増やした	7.6	5.6	2.0	5.5
3	労働時間を減らした	6.2	2.0	20.6	17.2
4	勤務時間（フレックスタイムを含む）、勤務日を変えた	1.4	1.2	7.8	4.1
5	勤務地を変えた	2.8	2.5	6.6	3.4
6	正社員からパート・アルバイトに変えた	0.0	0.5	12.0	7.6
7	転職した	8.3	6.1	6.1	4.8
8	仕事を辞めた	0.0	1.2	41.2	35.2
9	元々仕事はしていなかった	0.7	0.2	14.2	9.7
	無回答	10.3	17.4	8.3	16.6

【問27】　あなたの子どもを通じたご近所付き合いについて、お聞きします。
この中からあてはまる番号すべてに〇印をつけてください。（複数回答）

◆　子どもを通じた近所付き合いについては、「保育所や幼稚園の送り迎え、近所での買い物などの際に、あいさつをする程度の人がいる」が 55.4%で最も高く、次いで「子ども同士を遊ばせながら、立ち話をする程度の人がいる」が 45.2%、「子どもを連れて家を行き来できる人がいる」が 34.1%となっている。

◆　性別でみると、「子どもを預けられる人がいる」、「子どもを通して関わっている人はいない」を除くいずれの項目においても、女性の割合が男性より高くなっている。

図表 27-1　子どもを通じた近所付き合い（総数、性別）

（%）

	項目	総数 (n = 816)	男性 (n = 273)	女性 (n = 528)
1	子どもを預けられる人がいる	24.9	26.4	24.2
2	子どもをしかったり、注意してくれたりする人がいる	17.4	13.9	19.1
3	子どもを連れて家を行き来できる人がいる	34.1	28.9	36.7
4	子ども同士を遊ばせながら、立ち話をする程度の人がいる	**45.2**	**33.0**	**51.7**
5	子どもを連れて、一緒に遊びや旅行に出かける人がいる	20.2	15.4	22.5
6	子育ての悩みを相談できる人がいる	31.7	19.4	38.3
7	保育所や幼稚園の送り迎え、近所での買い物などの際に、あいさつをする程度の人がいる	**55.4**	**49.5**	**58.3**
8	子どもを通して関わっている人はいない	15.7	16.8	15.0
	無回答	1.8	3.7	0.8

◆ 年代別でみると、18～29 歳では「子どもを通して関わっている人はいない」が最も高く、30～40 歳代では「保育所や幼稚園の送り迎え、近所での買い物などの際に、あいさつをする程度の人がいる」が最も高くなっている。また、「子育ての悩みを相談できる人がいる」では、年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

図表 27-2　子どもを通じた近所付き合い（年代別）

（%）

	項目	18～29歳 （n = 36）	30歳代 （n = 260）	40歳代 （n = 503）
1	子どもを預けられる人がいる	8.3	22.3	27.4
2	子どもをしかったり、注意してくれたりする人がいる	5.6	16.5	18.3
3	子どもを連れて家を行き来できる人がいる	16.7	35.0	35.0
4	子ども同士を遊ばせながら、立ち話をする程度の人がいる	19.4	**45.0**	**47.1**
5	子どもを連れて、一緒に遊びや旅行に出かける人がいる	0.0	21.9	20.7
6	子育ての悩みを相談できる人がいる	13.9	28.1	34.8
7	保育所や幼稚園の送り迎え、近所での買い物などの際に、あいさつをする程度の人がいる	**25.0**	**58.5**	**55.9**
8	子どもを通して関わっている人はいない	**47.2**	16.2	13.3
	無回答	2.8	1.5	1.6

◆ 過去の調査と比較すると、平成 26 年調査から「子どもをしかったり、注意してくれたりする人がいる」、「子どもを連れて家を行き来できる人がいる」、「子ども同士を遊ばせながら、立ち話をする程度の人がいる」、「子どもを連れて、一緒に遊びや旅行に出かける人がいる」の割合が減少傾向にある。

図表 27-3　子どもを通じた近所付き合い（総数、経年比較（参考））

（%）

	項目	R5調査（n = 816）	H30調査（n = 470）※	H26調査（n = 562）
1	子どもを預けられる人がいる	24.9	28.3	27.6
2	子どもをしかったり、注意してくれたりする人がいる	17.4	26.6	30.2
3	子どもを連れて家を行き来できる人がいる	34.1	42.6	46.6
4	子ども同士を遊ばせながら、立ち話をする程度の人がいる	**45.2**	**53.2**	**57.5**
5	子どもを連れて、一緒に遊びや旅行に出かける人がいる	20.2	22.3	29.4
6	子育ての悩みを相談できる人がいる	31.7	41.9	41.6
7	保育所や幼稚園の送り迎え、近所での買い物などの際に、あいさつをする程度の人がいる	**55.4**	**74.5**	**63.2**
8	子どもを通して関わっている人はいない	15.7	8.9	9.4
	無回答	1.8	-	4.6

※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。

【問28】　あなたは、子育てに関して悩みを感じたことはありますか。
この中からあてはまる番号すべてに○印をつけてください。（複数回答）

◆ 子育てに関する悩みについては、「子どものしつけ」が59.8%で最も高く、次いで「勉強・進学・就職」が53.8%、「子どもの健康」が41.4%となっている。

◆ 性別でみると、男女ともに「子どものしつけ」が最も高く、男性の割合が女性より7.2ポイント高くなっている。「いじめ・交友関係」では、女性の割合が男性より4.6ポイント高くなっている。

図表 28-1　子育てに関する悩み（総数、性別）

（%）

	項目	総数 (n = 816)	男性 (n = 273)	女性 (n = 528)
1	子どものしつけ	**59.8**	**64.8**	**57.6**
2	子どもの健康	41.4	39.9	42.4
3	子どもの発育	40.9	42.5	40.7
4	勉強・進学・就職	**53.8**	**52.4**	**55.1**
5	いじめ・交友関係	26.8	24.2	28.8
6	非行・家庭内暴力	2.7	2.2	3.0
7	不登校・ひきこもり	10.0	9.2	10.4
8	子どもに行き過ぎた体罰を与えたことがある	5.5	4.8	5.9
9	育児放棄のようになったことがある	2.5	1.5	2.8
10	出産や育児でうつ病になった時期がある	6.4	2.6	8.5
11	わが子を虐待しているのではないかと、悩んだことがある	8.1	3.3	10.4
12	その他	4.2	4.0	4.0
	無回答	3.8	2.9	4.0

◆ 年代別でみると、18～29 歳、30 歳代では「子どものしつけ」、40 歳代では「勉強・進学・就職」が最も高くなっている。「勉強・進学・就職」、「いじめ・交友関係」では年代が上がるにつれて割合が高く、「子どもの健康」、「子どもの発育」では年代が下がるにつれて割合が高くなっている。

図表 28-2　子育てに関する悩み（年代別）

（%）

	項目	18～29歳 (n = 36)	30歳代 (n = 260)	40歳代 (n = 503)
1	子どものしつけ	**61.1**	**61.5**	**59.2**
2	子どもの健康	47.2	44.2	39.8
3	子どもの発育	**52.8**	**46.5**	37.8
4	勉強・進学・就職	27.8	41.5	**63.0**
5	いじめ・交友関係	11.1	20.4	32.0
6	非行・家庭内暴力	8.3	1.2	3.0
7	不登校・ひきこもり	5.6	5.0	12.9
8	子どもに行き過ぎた体罰を与えたことがある	8.3	5.0	5.6
9	育児放棄のようになったことがある	5.6	2.3	2.2
10	出産や育児でうつ病になった時期がある	13.9	7.7	5.2
11	わが子を虐待しているのではないかと、悩んだことがある	8.3	8.8	7.8
12	その他	11.1	2.7	4.4
	無回答	2.8	4.6	3.0

◆　過去の調査と比較すると、「子どものしつけ」の割合が減少傾向にある。

図表 28-3　子育てに関する悩み（総数、経年比較（参考））

（%）

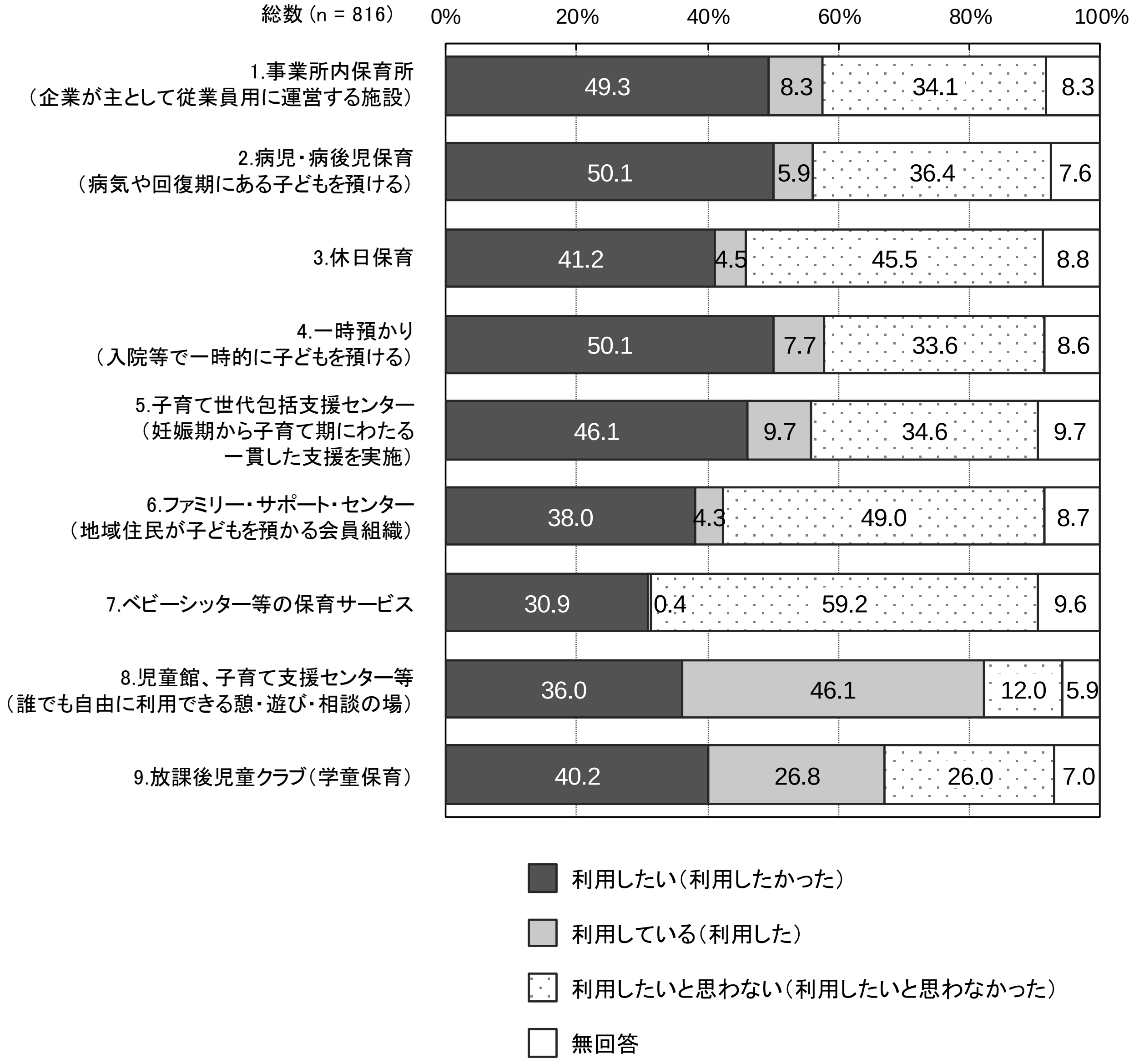
	項目	R5調査（n = 816）	H30調査（n = 457）※
1	子どものしつけ	**59.8**	**75.5**
2	子どもの健康	41.4	43.5
3	子どもの発育	40.9	44.4
4	勉強・進学・就職	**53.8**	**53.0**
5	いじめ・交友関係	26.8	30.0
6	非行・家庭内暴力	2.7	2.6
7	不登校・ひきこもり	10.0	-
8	子どもに行き過ぎた体罰を与えたことがある	5.5	10.5
9	育児放棄のようになったことがある	2.5	4.4
10	出産や育児でうつ病になった時期がある	6.4	6.6
11	わが子を虐待しているのではないかと、悩んだことがある	8.1	9.0
12	その他	4.2	4.6
	無回答	3.8	-

※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。

【問29】　あなたは、次の子育てに関連する制度について、どのように思いますか。
あてはまるものを１つ選びそれぞれ○印をつけてください。

- ◆ 子育てに関連する制度について、『利用したい（利用したかった）』の割合が最も高い項目は、「2.病児・病後児保育」、「4.一時預かり」でともに50.1%、次いで「1.事業所内保育所」が（49.3%）となっている。
- ◆ 『利用している（利用した）』の割合が最も高い項目は、「8.児童館、子育て支援センター等」で46.1%、次いで「9.放課後児童クラブ」（26.8%）となっている。

図表 29-1　子育てに関連する制度（総数）



◆ 性別でみると、女性は、「1.事業所内保育所」で『利用したい（利用したかった）』の割合が男性より 6.1 ポイント高く、男性は「8.児童館、子育て支援センター等」で『利用したい（利用したかった）』の割合が女性より 4.7 ポイント高くなっている。
◆ 年代別でみると、「6.ファミリー・サポート・センター」を除くいずれの項目においても、『利用したい（利用したかった）』の割合が年代が下がるにつれて高くなっている。

図表 29-2　子育てに関連する制度：項目１～４（性別、年代別）

（%）

項目			回答者数（件）	利用したい（利用したかった）	利用している（利用した）	利用したいと思わない（利用したいと思わなかった）	無回答
1.事業所内保育所（企業が主として従業員用に運営する施設）	総　数		816	49.3	8.3	34.1	8.3
	性別	男性	273	45.4	6.2	40.3	8.1
		女性	528	51.5	9.1	31.3	8.1
	年代別	18～29歳	36	55.6	5.6	36.1	2.8
		30歳代	260	52.3	8.5	29.6	9.6
		40歳代	503	48.1	8.2	36.6	7.2
2.病児・病後児保育（病気や回復期にある子どもを預ける）	総　数		816	50.1	5.9	36.4	7.6
	性別	男性	273	50.9	5.1	36.3	7.7
		女性	528	50.6	6.3	36.2	7.0
	年代別	18～29歳	36	69.4	0.0	27.8	2.8
		30歳代	260	52.7	6.5	33.1	7.7
		40歳代	503	48.3	5.8	39.0	7.0
3.休日保育	総　数		816	41.2	4.5	45.5	8.8
	性別	男性	273	40.7	5.5	45.1	8.8
		女性	528	41.9	4.0	45.8	8.3
	年代別	18～29歳	36	55.6	0.0	38.9	5.6
		30歳代	260	40.8	5.4	44.2	9.6
		40歳代	503	40.6	4.4	47.3	7.8
4.一時預かり（入院等で一時的に子どもを預ける）	総　数		816	50.1	7.7	33.6	8.6
	性別	男性	273	49.8	5.9	35.2	9.2
		女性	528	50.8	8.7	32.8	7.8
	年代別	18～29歳	36	58.3	8.3	30.6	2.8
		30歳代	260	52.3	10.0	28.5	9.2
		40歳代	503	49.1	6.6	36.8	7.6

※各選択肢の回答の割合が高い項目第1位、第2位を属性ごと網掛けにて示している。

図表 29-3　子育てに関連する制度：項目５～９（性別、年代別）

（%）

項目			回答者数（件）	利用したい（利用したかった）	利用している（利用した）	利用したいと思わない（利用したいと思わなかった）	無回答
5.子育て世代包括支援センター（妊娠期から子育て期にわたる一貫した支援を実施）	総　数		816	46.1	9.7	34.6	9.7
	性別	男性	273	45.4	8.1	37.7	8.8
		女性	528	47.0	10.4	33.0	9.7
	年代別	18～29歳	36	55.6	5.6	36.1	2.8
		30歳代	260	48.5	9.2	31.5	10.8
		40歳代	503	44.9	10.1	36.4	8.5
6.ファミリー・サポート・センター（地域住民が子どもを預かる会員組織）	総　数		816	38.0	4.3	49.0	8.7
	性別	男性	273	38.5	3.3	49.5	8.8
		女性	528	38.1	4.7	49.1	8.1
	年代別	18～29歳	36	38.9	2.8	55.6	2.8
		30歳代	260	40.4	3.1	46.9	9.6
		40歳代	503	37.4	4.8	50.3	7.6
7.ベビーシッター等の保育サービス	総　数		816	30.9	0.4	59.2	9.6
	性別	男性	273	27.8	0.7	62.6	8.8
		女性	528	32.6	0.2	57.8	9.5
	年代別	18～29歳	36	50.0	0.0	47.2	2.8
		30歳代	260	34.6	0.4	55.0	10.0
		40歳代	503	28.0	0.4	62.8	8.7
8.児童館、子育て支援センター等（誰でも自由に利用できる憩・遊び・相談の場）	総　数		816	36.0	46.1	12.0	5.9
	性別	男性	273	39.2	36.3	17.6	7.0
		女性	528	34.5	51.9	8.9	4.7
	年代別	18～29歳	36	66.7	13.9	16.7	2.8
		30歳代	260	39.6	46.2	9.6	4.6
		40歳代	503	32.6	49.1	12.7	5.6
9.放課後児童クラブ（学童保育）	総　数		816	40.2	26.8	26.0	7.0
	性別	男性	273	40.7	25.6	26.7	7.0
		女性	528	40.0	27.5	25.8	6.8
	年代別	18～29歳	36	63.9	8.3	22.2	5.6
		30歳代	260	52.3	20.8	19.6	7.3
		40歳代	503	32.8	31.4	29.6	6.2

◆　過去の調査と比較すると、平成 30 年調査から「5.子育て世代包括支援センター」、「6.ファミリー・サポート・センター」、「7.ベビーシッター等の保育サービス」で『利用したい（利用したかった）』の割合が増加傾向にある。

図表 29-4　子育てに関連する制度（総数、経年比較（参考））

（%）

項目		回答者数（件）	利用したい（利用したかった）	利用している（利用した）	利用したいと思わない（利用したいと思わなかった）	無回答
1.事業所内保育所（企業が主として従業員用に運営する施設）	R5調査	816	49.3	8.3	34.1	8.3
	H30調査	475	52.6	8.8	32.0	6.5
2.病児・病後児保育（病気や回復期にある子どもを預ける）	R5調査	816	50.1	5.9	36.4	7.6
	H30調査	475	50.3	5.9	36.4	7.4
3.休日保育	R5調査	816	41.2	4.5	45.5	8.8
	H30調査	475	42.3	4.8	44.2	8.6
4.一時預かり（入院等で一時的に子どもを預ける）	R5調査	816	50.1	7.7	33.6	8.6
	H30調査	475	52.4	7.4	32.0	8.2
5.子育て世代包括支援センター（妊娠期から子育て期にわたる一貫した支援を実施）	R5調査	816	46.1	9.7	34.6	9.7
	H30調査	475	43.6	9.5	37.7	9.3
6.ファミリー・サポート・センター（地域住民が子どもを預かる会員組織）	R5調査	816	38.0	4.3	49.0	8.7
	H30調査	475	33.7	4.2	51.8	10.3
7.ベビーシッター等の保育サービス	R5調査	816	30.9	0.4	59.2	9.6
	H30調査	475	23.2	1.3	65.9	9.7
8.児童館、子育て支援センター等（誰でも自由に利用できる憩・遊び・相談の場）	R5調査	816	36.0	46.1	12.0	5.9
	H30調査	475	36.6	47.8	10.3	5.3
9.放課後児童クラブ（学童保育）	R5調査	816	40.2	26.8	26.0	7.0
	H30調査	475	45.3	21.5	26.9	6.3

※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。
※各選択肢の回答の割合が高い項目第1位、第2位を調査ごと網掛けにて示している。

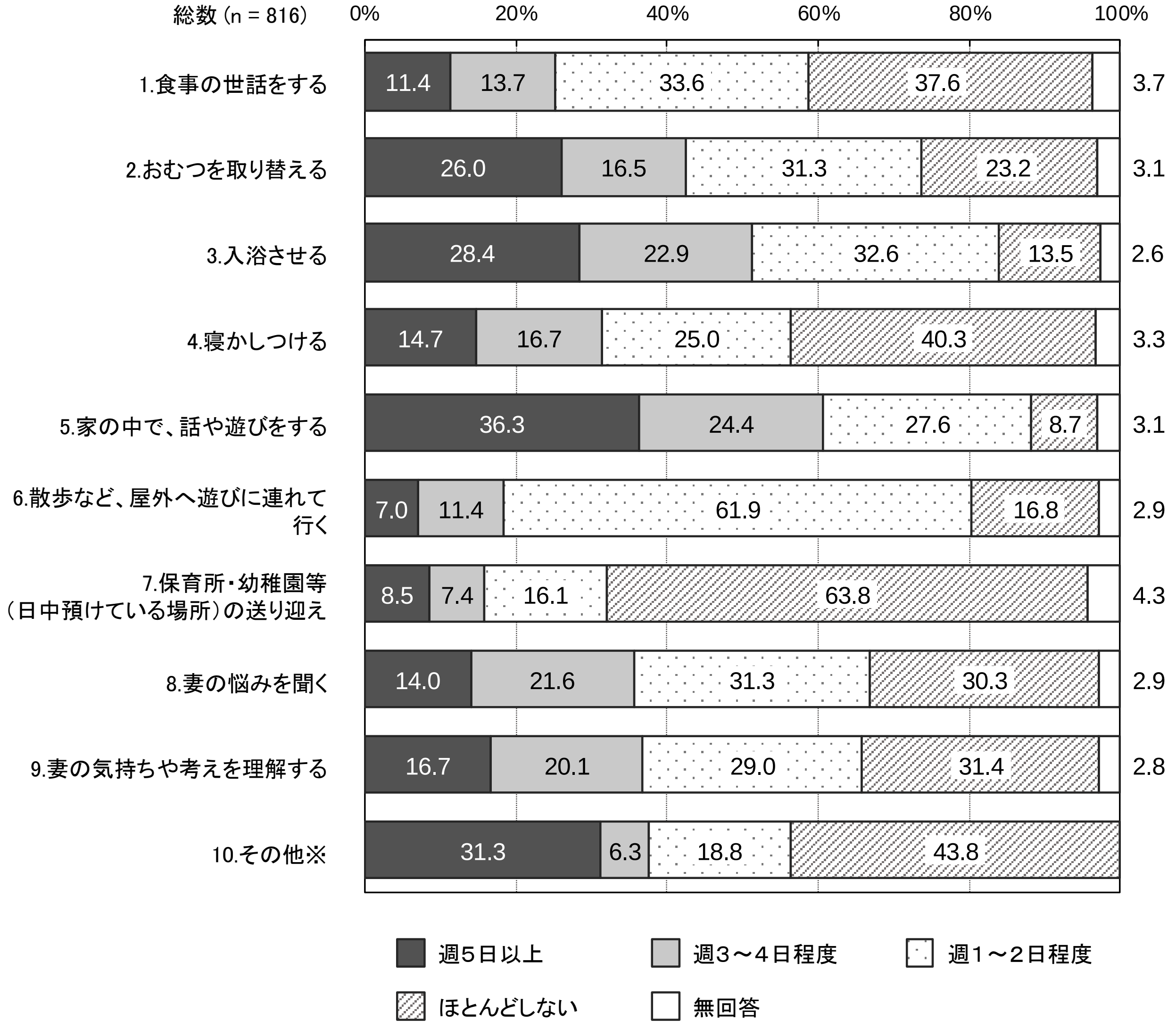
【問30】　小学校入学前（６歳まで）の育児について、あなたのご家庭の中で、夫が行っている（行っていた）項目は何ですか。また、その頻度はどれくらいですか。男性はご自身の、女性は配偶者の状況に関して、それぞれの項目について最もあてはまる番号を１つ選び○印をつけてください。

◆ 男性の育児への参加状況について、『週５日以上』の割合が最も高い項目は、「5.家の中で、話や遊びをする」で 36.3%、次いで「3.入浴させる」（28.4%）、「2.おむつを取り替える」（26.0%）となっている。

◆ 『週１～２日程度』の割合が最も高い項目は、「6.散歩など、屋外へ遊びに連れて行く」で 61.9%、次いで「1.食事の世話をする」（33.6%）、「3.入浴させる」（32.6%）となっている。

◆ また、『ほとんどしない』の割合が最も高い項目は、「7.保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎え」で 63.8%、次いで「4.寝かしつける」（40.3%）、「1.食事の世話をする」（37.6%）となっている。

図表 30-1　男性の育児への参加状況（総数）



※「その他」の項目は、「その他」の欄に記述があった方のみを総数（n=16）とした。回答者が少なく、記述内容も多岐に亘るため、分析を省略している。

◆　性別でみると、男性自身は、いずれの項目においても『週５以上』『週３～４日程度』の割合が女性より高くなっているのに対し、女性の配偶者への評価は、いずれの項目においても『ほとんどしない』の割合が男性より高くなっている。
◆　年代別でみると、「1.食事の世話をする」、「2.おむつを取り替える」、「4.寝かしつける」で『ほとんどしない』の割合が年代が上がるにつれて高くなっている。

図表 30-2　男性の育児への参加状況：項目１～５（性別、年代別）

（%）

項目			回答者数（件）	週5日以上	週3～4日程度	週1～2日程度	ほとんどしない	無回答
1.食事の世話をする	総　数		816	11.4	13.7	33.6	37.6	3.7
	性別	男性	273	13.9	19.8	36.6	26.0	3.7
		女性	528	10.0	10.2	32.6	43.8	3.4
	年代別	18～29歳	36	33.3	19.4	19.4	22.2	5.6
		30歳代	260	11.5	15.8	38.5	32.3	1.9
		40歳代	503	9.7	11.9	32.8	41.9	3.6
2.おむつを取り替える	総　数		816	26.0	16.5	31.3	23.2	3.1
	性別	男性	273	34.1	20.5	29.7	12.1	3.7
		女性	528	22.0	14.8	32.0	28.8	2.5
	年代別	18～29歳	36	44.4	22.2	13.9	13.9	5.6
		30歳代	260	29.2	19.2	32.3	17.7	1.5
		40歳代	503	23.1	15.1	32.4	26.6	2.8
3.入浴させる	総　数		816	28.4	22.9	32.6	13.5	2.6
	性別	男性	273	35.2	25.3	27.5	9.2	2.9
		女性	528	24.6	22.3	35.2	15.7	2.1
	年代別	18～29歳	36	44.4	8.3	25.0	16.7	5.6
		30歳代	260	25.8	23.1	36.5	13.5	1.2
		40歳代	503	28.6	24.5	31.2	13.3	2.4
4.寝かしつける	総　数		816	14.7	16.7	25.0	40.3	3.3
	性別	男性	273	19.4	24.2	27.8	24.5	4.0
		女性	528	12.5	12.7	23.5	48.7	2.7
	年代別	18～29歳	36	30.6	13.9	16.7	33.3	5.6
		30歳代	260	13.8	18.8	26.5	39.2	1.5
		40歳代	503	14.3	15.7	24.9	41.9	3.2
5.家の中で、話や遊びをする	総　数		816	36.3	24.4	27.6	8.7	3.1
	性別	男性	273	40.7	33.0	19.8	2.9	3.7
		女性	528	33.9	20.5	31.8	11.4	2.5
	年代別	18～29歳	36	50.0	19.4	13.9	11.1	5.6
		30歳代	260	37.3	26.2	30.0	5.0	1.5
		40歳代	503	35.0	24.3	27.4	10.5	2.8

※各選択肢の回答の割合が高い項目第1位、第2位を属性ごと網掛けにて示している。

図表 30-3　男性の育児への参加状況：項目６～10（性別、年代別）

（%）

項目			回答者数（件）	週5日以上	週3～4日程度	週1～2日程度	ほとんどしない	無回答
6.散歩など、屋外へ遊びに連れて行く	総　数		816	7.0	11.4	61.9	16.8	2.9
	性別	男性	273	8.4	14.7	64.5	9.2	3.3
		女性	528	6.1	9.5	61.6	20.5	2.5
	年代別	18～29歳	36	11.1	8.3	52.8	19.4	8.3
		30歳代	260	3.5	10.0	69.6	15.4	1.5
		40歳代	503	8.5	12.1	59.4	17.5	2.4
7.保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎え	総　数		816	8.5	7.4	16.1	63.8	4.3
	性別	男性	273	8.8	8.1	22.7	56.4	4.0
		女性	528	8.1	6.6	12.9	68.2	4.2
	年代別	18～29歳	36	5.6	5.6	16.7	58.3	13.9
		30歳代	260	7.7	6.9	12.7	68.5	4.2
		40歳代	503	9.1	7.4	17.9	62.8	2.8
8.妻の悩みを聞く	総　数		816	14.0	21.6	31.3	30.3	2.9
	性別	男性	273	16.1	27.5	33.3	19.8	3.3
		女性	528	13.1	18.2	30.9	35.4	2.5
	年代別	18～29歳	36	19.4	27.8	11.1	36.1	5.6
		30歳代	260	15.0	23.1	34.6	25.8	1.5
		40歳代	503	13.3	19.9	31.8	32.4	2.6
9.妻の気持ちや考えを理解する	総　数		816	16.7	20.1	29.0	31.4	2.8
	性別	男性	273	20.1	26.4	31.9	18.3	3.3
		女性	528	15.3	16.7	27.8	37.9	2.3
	年代別	18～29歳	36	30.6	16.7	13.9	33.3	5.6
		30歳代	260	20.4	21.9	29.6	26.5	1.5
		40歳代	503	14.3	19.1	30.2	34.0	2.4
10.その他※	総　数		16	31.3	6.3	18.8	43.8	-
	性別	男性	5	60.0	20.0	20.0	0.0	-
		女性	11	18.2	0.0	18.2	63.6	-
	年代別	18～29歳	1	0.0	0.0	0.0	100.0	-
		30歳代	6	16.7	0.0	16.7	66.7	-
		40歳代	9	44.4	11.1	22.2	22.2	-

※「その他」の項目は、属性別の回答者数が少ないため、分析を省略している。

◆　過去の調査と比較すると、平成 26 年調査から『週５日以上』で「2.おむつを取り替える」、「5.家の中で、話や遊びをする」の割合が増加傾向にある。

図表 30-4　男性の育児への参加状況（総数、経年比較（参考））

（%）

項目		回答者数（件）	週5日以上	週3～4日程度	週1～2日程度	ほとんどしない	無回答
1.食事の世話をする	R5調査	816	11.4	13.7	33.6	37.6	3.7
	H30調査	459	10.9	10.0	31.8	44.4	2.8
	H26調査	562	7.5	7.1	30.1	41.5	13.9
2.おむつを取り替える	R5調査	816	26.0	16.5	31.3	23.2	3.1
	H30調査	459	17.0	17.9	35.1	27.5	2.6
	H26調査	562	15.2	15.2	33.8	26.9	9.0
3.入浴させる	R5調査	816	28.4	22.9	32.6	13.5	2.6
	H30調査	459	27.9	21.4	38.6	10.9	1.3
	H26調査	562	28.5	19.4	32.2	11.2	8.7
4.寝かしつける	R5調査	816	14.7	16.7	25.0	40.3	3.3
	H30調査	459	10.7	14.4	28.3	44.4	2.2
	H26調査	562	11.2	12.5	26.0	38.7	11.6
5.家の中で、話や遊びをする	R5調査	816	36.3	24.4	27.6	8.7	3.1
	H30調査	459	31.4	27.5	33.3	5.9	2.0
	H26調査	562	27.2	20.1	34.3	8.2	10.1
6.散歩など、屋外へ遊びに連れて行く	R5調査	816	7.0	11.4	61.9	16.8	2.9
	H30調査	459	6.3	10.0	66.0	14.8	2.8
	H26調査	562	4.4	8.2	62.6	14.8	10.0
7.保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎え	R5調査	816	8.5	7.4	16.1	63.8	4.3
	H30調査	459	5.9	3.9	13.1	69.7	7.4
	H26調査	562	4.1	3.7	10.7	64.6	16.9
8.妻の悩みを聞く	R5調査	816	14.0	21.6	31.3	30.3	2.9
	H30調査	459	15.9	20.9	33.3	27.7	2.2
	H26調査	562	15.7	12.1	34.4	26.2	11.6
9.妻の気持ちや考えを理解する	R5調査	816	16.7	20.1	29.0	31.4	2.8
	H30調査	459	16.3	22.7	32.7	25.7	2.6
	H26調査	562	15.7	14.3	33.0	24.1	13.0

※「その他」の項目は、各調査において回答者数が少ないため、図表から省略している。
※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。
※各選択肢の回答の割合が高い項目第1位、第2位を調査ごと網掛けにて示している。

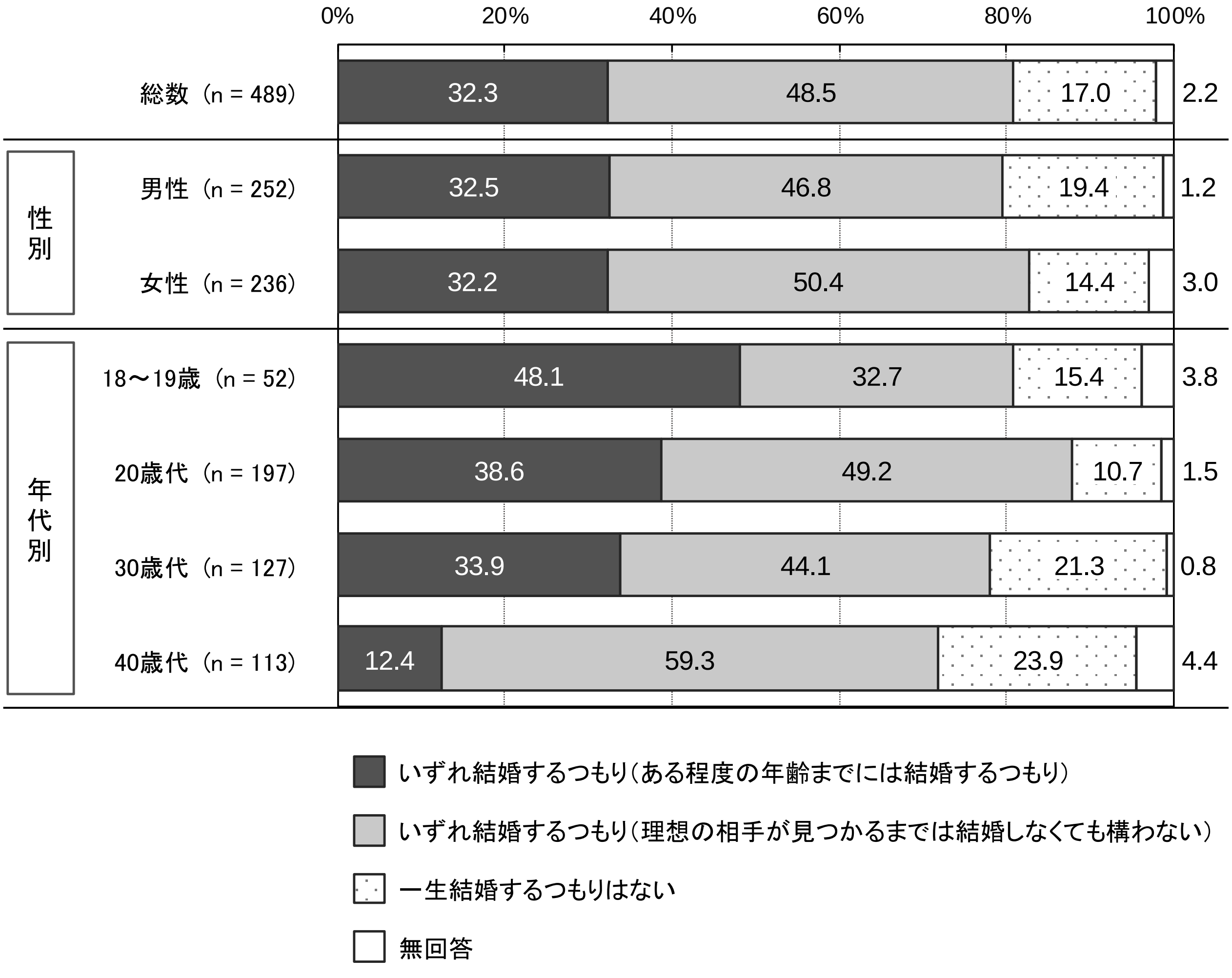
Ⅳ　独身の方にお聞きします（独身でない方は調査終了です）。

※問 31～問 32 は、回答者属性の⑤で、「1. 結婚したことはない」と答えた方を総数とした。（未婚と答えた方のみ対象）

【問31】　自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどれですか。次の中から１つ選び〇印をつけてください。

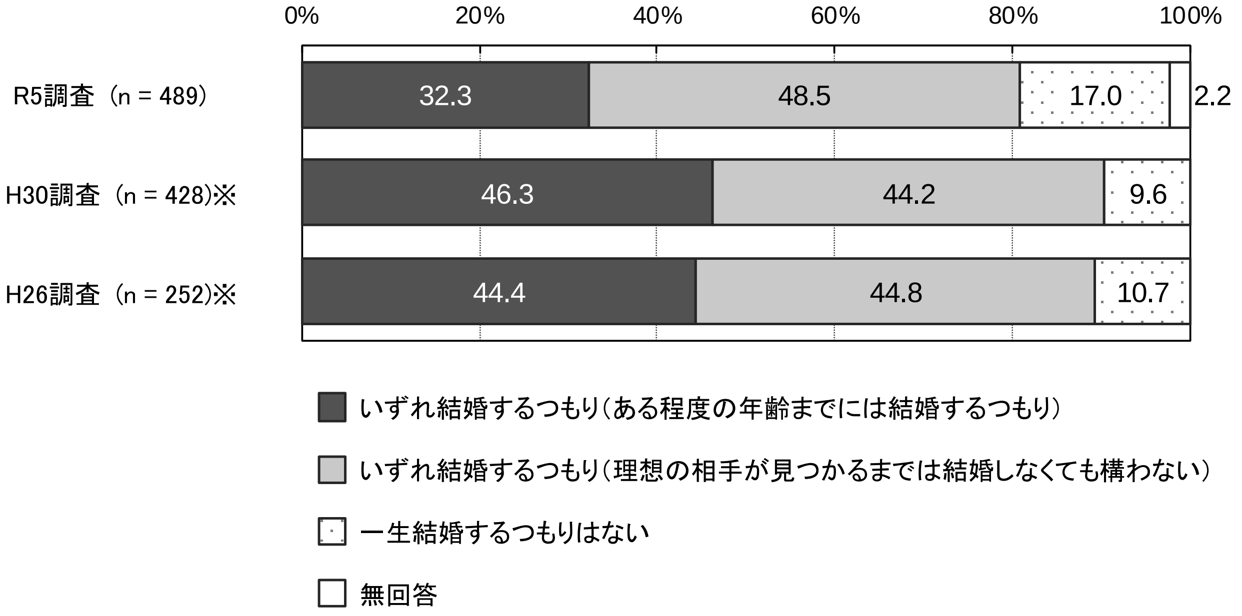
- ◆ 結婚の意思については、「いずれ結婚するつもり（理想の相手が見つかるまでは結婚しなくても構わない）」が 48.5％と最も高く、次いで「いずれ結婚するつもり（ある程度の年齢までには結婚するつもり）」が 32.3％、「一生結婚するつもりはない」が 17.0％となっている。
- ◆ 性別でみると、男女ともに「いずれ結婚するつもり（理想の相手が見つかるまでは結婚しなくても構わない）」が最も高くなっている。「一生結婚するつもりはない」では、男性の割合が女性より 5.0 ポイント高くなっている。
- ◆ 年代別でみると、「いずれ結婚するつもり（ある程度の年齢までには結婚するつもり）」では、年代が下がるにつれて割合が高くなっている。

図表 31-1　結婚の意思（総数、性別、年代別）



◆ 過去の調査と比較すると、平成 26 年、平成 30 年調査より「いずれ結婚するつもり（ある程度の年齢までには結婚するつもり）」の割合が減少し、「一生結婚するつもりはない」の割合が増加している。

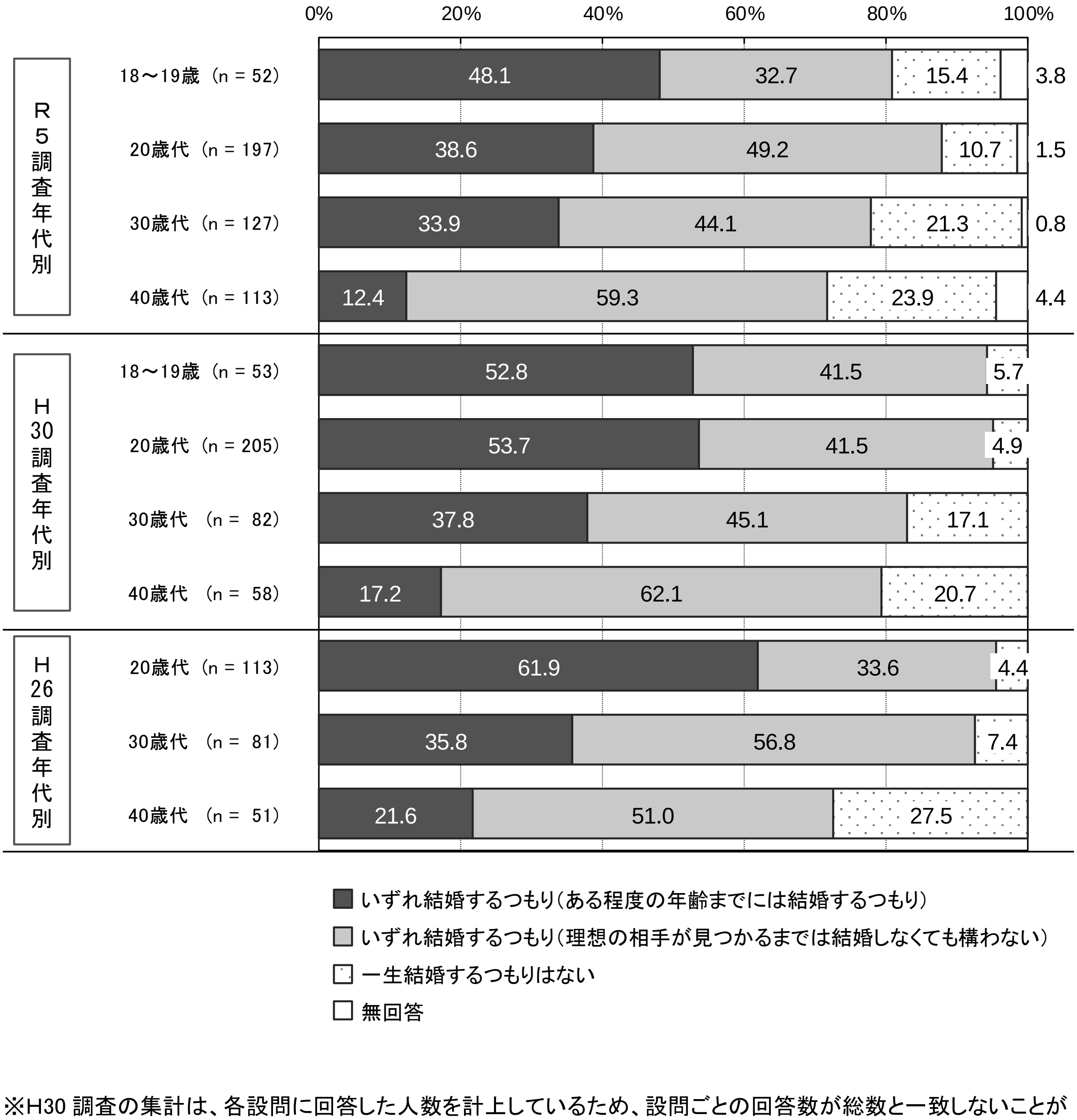
図表 31-2　結婚の意思（総数、経年比較（参考））



※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。
※H26 調査の集計は、この設問に回答した方を総数とした。

◆　過去の調査と年代別で比較すると、18～19 歳は平成 30 年調査から、20 歳代、30 歳代は平成 26 年調査から「一生結婚するつもりはない」の割合が増加傾向にある。

図表 31-3　結婚の意思（【年代別】経年比較（参考））



※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。
※H26 調査の集計は、この設問に回答した方を総数とした。

【問32】 現在、あなたが独身でいる理由を次の中から選ぶとすればどれですか。 ご自分に最もあてはまると思われる番号を３つ以内で選び○印をつけてください。 （複数回答）

◆ 独身でいる理由については、「適当な相手にまだめぐり会わないから」が 45.4%で最も高く、次いで「経済的な余裕がないから」が 28.8%、「結婚する必要性を感じないから」が 24.7%となっている。

◆ 性別でみると、男女ともに「適当な相手にまだめぐり会わないから」が最も高くなっている。「異性とうまく付き合えないから」、「経済的な余裕がないから」では、男性の割合が女性より 10 ポイント以上高くなっている。

図表 32-1　独身でいる理由（総数、性別）

（%）

	項目	総数 （n = 489）	男性 （n = 252）	女性 （n = 236）
1	結婚するにはまだ若すぎるから	15.1	14.3	16.1
2	結婚する必要性を感じないから	24.7	24.6	25.0
3	今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから	15.3	12.3	18.6
4	今は、趣味や娯楽を楽しみたいから	24.1	21.4	**27.1**
5	独身の自由や気楽さを失いたくないから	23.3	24.6	22.0
6	適当な相手にまだめぐり会わないから	**45.4**	**44.8**	**46.2**
7	異性とうまく付き合えないから	18.2	23.8	12.3
8	経済的な余裕がないから	**28.8**	**38.5**	18.6
9	結婚生活のための住宅のめどが立たないから	3.1	4.4	1.7
10	親や周囲が結婚に同意しない（だろう）から	1.4	2.0	0.8
11	その他	4.9	2.8	7.2
12	すでに結婚が決まっている	1.8	1.6	2.1
	無回答	2.5	2.0	2.5

◆ 年代別でみると、18～19 歳では「結婚するにはまだ若すぎるから」、20～40 歳代では「適当な相手にまだめぐり会わないから」が最も高くなっている。20 歳代では「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」、30 歳代では「経済的な余裕がないから」の割合が他の年代に比べて高くなっている。

図表 32-2　独身でいる理由（年代別）

（%）

	項目	18～19歳（n = 52）	20歳代（n = 197）	30歳代（n = 127）	40歳代（n = 113）
1	結婚するにはまだ若すぎるから	**63.5**	20.3	0.0	0.9
2	結婚する必要性を感じないから	15.4	27.9	22.0	26.5
3	今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから	**38.5**	20.3	7.9	4.4
4	今は、趣味や娯楽を楽しみたいから	17.3	**32.0**	22.8	15.0
5	独身の自由や気楽さを失いたくないから	11.5	22.8	26.8	25.7
6	適当な相手にまだめぐり会わないから	21.2	**41.6**	**52.0**	**55.8**
7	異性とうまく付き合えないから	9.6	12.7	27.6	21.2
8	経済的な余裕がないから	15.4	29.9	**33.1**	**28.3**
9	結婚生活のための住宅のめどが立たないから	0.0	4.1	3.1	2.7
10	親や周囲が結婚に同意しない（だろう）から	1.9	0.5	3.1	0.9
11	その他	1.9	2.0	6.3	9.7
12	すでに結婚が決まっている	0.0	3.6	1.6	0.0
	無回答	5.8	2.0	1.6	2.7

◆ 性別・結婚の意思別でみると、「結婚する必要性を感じないから」では、男女ともに結婚するつもりはない方の割合が結婚の意思のある方（A、B）に比べて高くなっている。また、男性の結婚の意思のある方（A、B）では、「経済的な余裕がないから」の割合が他に比べて高くなっている。

図表 32-3　独身でいる理由（性別・結婚の意思別）

（%）

項目		回答者数（件）	結婚するにはまだ若すぎるから	結婚する必要性を感じないから	今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから	今は、趣味や娯楽を楽しみたいから	独身の自由や気楽さを失いたくないから	適当な相手にまだめぐり会わないから	異性とうまく付き合えないから
未婚の方（総数）		489	15.1	24.7	15.3	24.1	23.3	**45.4**	18.2
性別・結婚の意思別	男性・いずれ結婚するA	82	29.3	8.5	20.7	18.3	11.0	**46.3**	17.1
	男性・いずれ結婚するB	118	6.8	23.7	9.3	22.9	29.7	**58.5**	24.6
	男性・結婚するつもりはない	49	6.1	**55.1**	4.1	24.5	36.7	12.2	34.7
	女性・いずれ結婚するA	76	28.9	2.6	26.3	23.7	7.9	**46.1**	10.5
	女性・いずれ結婚するB	119	10.9	30.3	16.8	31.1	32.8	**57.1**	12.6
	女性・結婚するつもりはない	34	8.8	**61.8**	8.8	26.5	20.6	17.6	17.6

項目		回答者数（件）	経済的な余裕がないから	結婚生活のための住宅のめどが立たないから	親や周囲が結婚に同意しない（だろう）から	その他	すでに結婚が決まっている	無回答
未婚の方（総数）		489	28.8	3.1	1.4	4.9	1.8	2.5
性別・結婚の意思別	男性・いずれ結婚するA	82	32.9	6.1	1.2	1.2	4.9	1.2
	男性・いずれ結婚するB	118	44.9	2.5	2.5	1.7	0.0	1.7
	男性・結婚するつもりはない	49	32.7	6.1	2.0	8.2	0.0	0.0
	女性・いずれ結婚するA	76	18.4	3.9	1.3	5.3	6.6	1.3
	女性・いずれ結婚するB	119	21.8	0.8	0.8	6.7	0.0	0.8
	女性・結婚するつもりはない	34	11.8	0.0	0.0	8.8	0.0	0.0

※「いずれ結婚する A」は、「いずれ結婚するつもり（ある程度の年齢までには結婚するつもり）」。
※「いずれ結婚する B」は、「いずれ結婚するつもり（理想の相手が見つかるまでは結婚しなくても構わない）」。
※「結婚するつもりはない」は、「一生結婚するつもりはない」。

◆ 過去の調査と比較すると、平成 26 年調査から「結婚する必要性を感じないから」、「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」、「独身の自由や気楽さを失いたくないから」の割合が増加傾向にある。

図表 32-4　独身でいる理由（総数、経年比較（参考））

（%）

	項目	R5調査 (n = 489)	H30調査 (n = 440)※	H26調査 (n = 252)
1	結婚するにはまだ若すぎるから	15.1	23.9	13.9
2	結婚する必要性を感じないから	24.7	20.2	19.8
3	今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから	15.3	23.6	19.0
4	今は、趣味や娯楽を楽しみたいから	24.1	22.7	11.9
5	独身の自由や気楽さを失いたくないから	23.3	22.0	15.5
6	適当な相手にまだめぐり会わないから	**45.4**	**44.3**	**44.0**
7	異性とうまく付き合えないから	18.2	10.7	13.5
8	経済的な余裕がないから	**28.8**	**29.5**	**26.2**
9	結婚生活のための住宅のめどが立たないから	3.1	2.7	3.2
10	親や周囲が結婚に同意しない（だろう）から	1.4	1.8	4.8
11	その他	4.9	7.7	10.3
12	すでに結婚が決まっている	1.8	4.3	7.5
	無回答	2.5	-	5.6

※H30 調査の集計は、各設問に回答した人数を計上しているため、設問ごとの回答数が総数と一致しないことがある。
※H26 調査の集計は、前問の「結婚の意思」に答えた方を総数とした。

㊙ 統計法に基づく統計調査

～少子化に関する県民意識調査　ご協力のお願い～

令和５年９月　岐阜県

日頃は岐阜県政へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

県では、少子化に関する課題について県民の皆さまのご意見を伺い、少子化に関する取組みを推進するための基礎的な資料とすることを目的に、少子化に関する県民意識調査を実施しています。

調査実施にあたり、市町村の住民基本台帳から１８歳以上の方４，０００人を無作為に選ばせていただきました。

あなたのお名前やご回答の内容が公表されることは決してございません。

また、調査目的外には使用しませんので、お考えを率直にお聞かせくださるようお願いします。

ご多用中とは存じますが、ぜひとも調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

ご記入にあたってのお願い

○　**令和５年９月３０日（土）**までにご回答をお願いします。
○　封筒の宛名のご本人がご回答ください。
　　ご本人でのご回答が困難な方は、ご家族などのご協力によりご回答ください。
○　郵送またはインターネットのどちらかを選んでいただき、ご回答ください。
○　本アンケート調査の所要時間は約１５分です。

1～11 ページ	すべての方への質問です
12 ページ	仕事をしている方への質問です →　仕事をしていない方は 13 ページへお進みください
13～17 ページ	子どもがいる方への質問です →　子どものいない方は 18 ページへお進みください
18 ページ	独身の方への質問です

郵送によりお答えいただく方

・　回答は、あてはまるものの番号を○印で囲んでください。
　（送付しました調査票に直接ご記入ください）

・　記入後は名前を書かずに、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、投函してください。

インターネットでお答えいただく方

・　お手持ちのスマートフォンまたはパソコンから回答いただくことができます。
　下記ＵＲＬを直接ご入力、またはＱＲコードからアクセスしてください。

https://logoform.jp/f/gm4wf

・　回答する際の ID は、 0000　です。

【お問い合わせ先】
岐阜県 健康福祉部 子ども・女性局　子育て支援課 少子化対策係
電話　０５８－２７２－１９１８（直通）

㊙統計法に基づく統計調査

少子化に関する県民意識調査
調　査　票

はじめに
調査を統計的に分析するために、あなたご自身のことについてお聞きします。
該当する番号に○をつけてください。

①あなたの年齢は、以下のどれですか（令和５年９月１日現在の満年齢でお答えください）。

１．１８歳～１９歳　　３．３０歳～３９歳
２．２０歳～２９歳　　４．４０歳～４９歳

②あなたのお住まいはどちらですか。

１．岐阜地域（岐阜市、羽島市、各務原市、山県市、瑞穂市、本巣市、羽島郡、本巣郡）
２．西濃地域（大垣市、海津市、不破郡、養老郡、安八郡、揖斐郡）
３．中濃地域（関市、美濃市、美濃加茂市、可児市、郡上市、加茂郡、可児郡）
４．東濃地域（多治見市、瑞浪市、土岐市、中津川市、恵那市）
５．飛騨地域（高山市、飛騨市、下呂市、大野郡）

③あなたの性別をお答えください。（ご自身が認識する性でお答えください。）

１．男性　　２．女性　　３.その他

④あなたの現在の就業形態（職業）をお聞きします。次の中から１つ選び○印をつけてください。

１．正社員　　５．学生
２．派遣・契約社員　　６．専業主婦・主夫
３．パート・アルバイト　　７．無職
４．自営業・家族従事・内職　　８．その他

④－２　働いている方にお聞きします。あなたの１週間の労働時間（残業時間を含む）及び普段働いている日に帰宅する時間について、数字で記入してください。

１週間の労働時間：約　　　　時間　・　帰宅時間：午前・午後　　　時頃

⑤あなたには配偶者（妻や夫）がいますか。（婚姻を届け出ていない事実婚を含む。）
あてはまる番号に○印をつけてください。

１．結婚したことはない（未婚）
２．現在、配偶者・パートナーがいる
３．結婚したことはあるが、現在、配偶者・パートナーはいない

⑥一緒に暮らしている人は、あなたを含めて何人ですか。

＿＿＿＿人

⑥－２　一緒に暮らしている人がいらっしゃる方にお聞きします。
あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。
あてはまる番号すべてに〇をつけてください。

１．配偶者（事実婚を含む）
２．子ども
３．自分の父
４．自分の母
５．配偶者の父
６．配偶者の母
７．自分のきょうだい
８．その他（　　　　　　　　　　　）

⑦お子さんがいらっしゃる方にお聞きします。
お子さんは何人いらっしゃいますか。
また、そのうち同居しているお子さんは何人いらっしゃいますか。

＿＿＿＿人 うち同居 ＿＿＿＿人

⑦－２　あなたのお子さんの学齢・学年について、
あてはまる番号すべてに〇をつけてください。（同居・別居を問いません）

１．０～２歳児
２．３歳～小学校入学前
３．小学校低学年（１年～３年）
４．小学校高学年（４年～６年）
５．中学生
６．高校生
７．大学生
８．社会人
９．その他

⑧あなたのお近く（※）には親族がいらっしゃいますか。
※おおむね、車で５～１０分程度、又は徒歩で３０分程度の距離
あてはまる番号すべてに〇をつけてください。

１．自分の父母
２．配偶者の父母
３．自分のきょうだい
４．配偶者のきょうだい
５．自分の父母やきょうだい以外の親族
６．配偶者の父母やきょうだい以外の親族
７．その他（　　　　　）
８．近居している親族はいない

⑨あなたのご家族全員の昨年１年間の収入の合計は、おいくらぐらいですか。
ボーナスなども含めた税込の額で、あてはまる番号を１つ選び〇印をつけてください。

１．３００万円未満
２．３００万円以上５００万円未満
３．５００万円以上７００万円未満
４．７００万円以上９００万円未満
５．９００万円以上

Ⅰ　全ての方にお聞きします。

【問１】　あなたは、結婚にはどのような良いところがあるとお考えですか。
この中からあてはまる番号を２つ以内で選び○印をつけてください。

１．経済的に余裕がもてる
２．社会的信用を得たり、周囲から認められる
３．精神的な安らぎの場が得られる
４．愛情を感じている人と暮らせる
５．自分の子どもや家庭がもてる
６．性的な充足が得られる
７．生活上便利になる
８．親から独立できる
９．親を安心させたり周囲の期待にこたえられる
１０．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　）
１１．結婚に良いところはないと思う

【問２】　あなたは、結婚相手を決める際、どのような点を重視しますか。
この中からあてはまる番号を３つ以内で選び○印をつけてください。

１．相手の学歴
２．相手の職業
３．相手の収入などの経済力
４．相手の人がら
５．相手の容姿
６．共通の趣味の有無
７．自分の仕事に対する理解と協力
８．家事・育児に対する能力や姿勢
９．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　）

【問３】　子どもについてお聞きします。

（１）実際にもつかどうかは別にして、あなたにとって理想の子どもの人数は何人ですか。

＿＿＿＿人

（２）現在、何人の子どもをおもちですか。

＿＿＿＿人（子どものいない方は「０」とご記入ください。）

（３）これから何人子どもをもちたいですか。

＿＿＿＿人（子どもをもつつもりのない方は「０」とご記入ください。）

【問４】　子どもをもたない理由や理想の人数より少ない理由（理想の子どもの数をもつ（予定の）方は、考えられる理由）は何ですか。
下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

１．子育てや教育にお金がかかりすぎるから
２．保育サービスが整っていないから
３．雇用が安定していないから
４．働きながら子育てできる職場環境がないから
５．自分の昇進・昇格に差し支えるから
６．家が狭いから
７．子どもがのびのび育つ社会環境でないから
８．自分や夫婦の生活を大切にしたいから
９．自分や配偶者が高年齢だから
１０．自分や配偶者が育児の負担に耐えられないから
１１．妊娠・出産のときの身体的・精神的な苦痛が嫌だから
１２．健康上の理由から
１３．欲しいけれども赤ちゃんを授からないから
１４．配偶者が家事・育児に参加しないから
１５．配偶者が望まないから
１６．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【問５】　あなたは、自分にとって子育てをして良かったと思うことは何ですか。
下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけてください。
※子どもがいない方は良いと思われることについてお答えください。

１．家庭が明るくなる
２．家族の会話が増える
３．夫婦の愛情がより深まる
４．生活にはりあいができる
５．子育てを通じて友人が増える
６．子育ての経験が仕事などで役立つ
７．子どもから教えられることがある
８．子どもをもつ喜びを実感できる
９．子育てにより自分が成長できる
１０．親や祖父母への感謝の気持ちが生まれる
１１．子どもが成長すること
１２．その他（　　　　　　　　　　　　　　）
１３．良いと思うことは特にない

【問６】　あなたは、自分にとって子育てをして負担に思うことは何ですか。
あてはまる番号すべてに〇をつけてください。
※子どもがいない方は負担だと思われることについてお答えください。

１．子育てによる身体的な疲れが大きい
２．子育てによる精神的な疲れが大きい
３．子育てに出費がかさむ
４．自分の自由な時間がもてない
５．夫婦で楽しむ時間がない
６．仕事が十分にできない
７．子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない
８．困ったときや不安なときに相談できる人がいない
９．子育てが十分にできない
１０．子どもが病気のとき
１１．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
１２．負担に思うことは特にない

【問７】　あなたは、子育てでは、どのようなことで家計の負担が大きいと思われますか。
過去のご経験や子どもが成長した将来の予想も含め、あてはまる番号を３つ以内で選び〇印をつけてください。

１．保育所・幼稚園の保育料（３歳～５歳児クラスの保育料は無償となっています）
２．子どもの小学校への入学準備にかかる費用
３．子どもが小学生の間に必要な費用
４．食費、衣服などの生活必需品の費用
５．医療費
６．家族で過ごすための娯楽費
７．塾や習い事の費用
８．子どもの中学校への入学準備にかかる費用
９．子どもが中学生の間に必要な費用
１０．子どもの高校への入学準備にかかる費用
１１．子どもが高校生の間に必要な費用
１２．子どもの大学・大学院への入学準備にかかる費用
１３．子どもが大学生・大学院生の間に必要な費用
１４．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
１５．特に負担になっていることはない・負担になると思うことはない

【問８】　あなたは、現在の低い出生率が続くことについて、将来に危機感を感じていますか。次の中から１つ選び〇印をつけてください。

１．大変危機感を感じている
２．多少危機感を感じている
３．どちらともいえない
４．あまり危機感を感じていない
５．全く危機感を感じていない
６．わからない

【問９】　出生率が低下し、子どもが少なくなっていますが、あなたが、少子化が与える影響で特に課題だと思うことは何ですか。
あてはまる番号すべてに〇をつけてください。

１．過疎化の一層の進行など、社会の活力に与える影響
２．労働力人口の減少など、経済の活力に与える影響
３．年金や医療費の負担など、社会保障に与える影響
４．学校の減少など、身近な日常生活に与える影響
５．切磋琢磨しあう同年代の子どもの減少など、子どもの健全な成長に与える影響
６．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
７．少子化問題については関心がない
８．特にない

【問 10】　「安心して子どもを生み育てることができる岐阜県づくり」を実現するために重要なことは何だと思いますか。
この中からあなたのお考えに近い番号すべてに〇印をつけてください。

１．安定した雇用など、生活基盤を確保すること
２．ワーク・ライフ・バランスの推進や休暇制度の充実など、子育てしやすい職場環境を整備すること
３．安心して妊娠・出産・子育てできる医療体制を整備すること
４．育児の不安感・孤立感を解消し、楽しく子育てできる環境をつくること
５．子どもを預けられる保育所、認定こども園の充実を図ること
６．子どもを預けられる幼稚園の充実を図ること
７．子育てにかかる経済的負担を軽減すること
８．幼児教育の充実を図ること
９．学校教育の充実を図ること
１０．子育て世帯に適した住宅の確保など、子育てしやすい居住環境を整備すること
１１．防犯や交通事故防止など、安全な子育て環境を確保すること
１２．行政、県民、ボランティア・ＮＰＯ、企業など社会が一体となって子育てを応援すること
１３．子育てに協力してくれる人や相談できる人がいること
１４．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【問11】　あなたは、結婚を希望する人の結婚を支援する施策として何が重要だと思いますか。
この中からあなたの考えに近い番号を３つ以内で選び○印をつけてください。

１．安定した雇用機会を提供すること
２．賃金を上げて安定した家計を営めるよう支援すること
３．結婚や住宅に対する資金貸与や補助を行うこと
４．出会いの場を提供すること
５．結婚した方が有利となるような税制を行うこと
６．夫婦がともに働きつづけられるよう職場環境を充実すること
７．若者の結婚を推奨するような啓発活動を行うこと
８．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
９．特にない

【問12】　あなたは、安心して妊娠・出産ができる環境を整備する施策として何が重要だと思いますか。
この中からあなたの考えに近い番号を３つ以内で選び○印をつけてください。

１．出産育児一時金（２０２３年４月から５０万円に増額）を増額する
２．不妊治療に対する助成（２０２３年４月から１回１０万円を助成）を拡充する
３．産前６週間（多胎妊娠は１４週間）・産後８週間の休業期間を拡大する
４．妊娠・出産について気軽に相談できる環境を整備する
５．産後のサポートを充実する
６．母子保健サービスを充実する（保健師による家庭訪問、母と子の健康サポートなど）
７．家事援助などを行うヘルパーの訪問サービスを充実する
８．産科医療体制を充実する
９．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
１０．特にない

【問13】　あなたは、育児を支援する施策として何が重要だと思いますか。
この中からあなたの考えに近い番号を３つ以内で選び○印をつけてください。

１．保育所の時間延長など、多様な保育サービスを充実する
２．児童手当や扶養控除など、子育てに対する経済的支援を充実する
３．育児休業をとりやすい職場環境を整備する
４．フレックスタイムの導入など、柔軟な働き方を推し進める
５．時間外勤務を短縮するなど、男性の育児参加を促進する
６．育児休業中の所得保障を充実する
７．出産・育児による退職後の再就職支援を充実する
８．子どもの医療費への支援を充実する
９．教育費への支援を充実する
１０．子どもを連れて安心して外出できる地域環境を整備する
１１．育児について相談する場、親同士が交流できる場を提供する
１２．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
１３．特にない

【問14】　あなたは、子育てにおいて、地域社会における住民同士の助け合いとして、どのような活動があればいいと思いますか。
**　この中からあなたのお考えに近い番号を３つ以内で選び〇印をつけてください。**

１．子育てに関する悩みを気軽に相談できるような活動
２．子育て家庭の家事を支援する活動
３．不意の外出の時などに子どもを預かる活動
４．子どもと遊んでくれる活動
５．子どもにスポーツや勉強を教えてくれる活動
６．子育てをする親同士で話ができる仲間づくりの活動
７．子育てに関連した情報を簡単に入手しあえるような活動
８．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
９．特にない

【問15】　本県では、社会全体で子育て家庭を応援し、子育てに温かい社会的気運の醸成を目的として「ぎふっこカード」※１「ぎふっこカードプラス」※２の交付を行い、参加店舗の協力のもと各種サービスなどの提供を行っています。あなたは、この「ぎふっこカード」「ぎふっこカードプラス」を知っていますか。
**　次の中から１つ選び〇印をつけてください。**

１．名前・内容についてよく知っている（頻繁に利用する）
２．名前・内容を知っている（利用したことがある）
３．聞いたことがあるが、内容までは知らない（利用したことがない）
４．全く知らなかった

※１ぎふっこカードとは
県内に在住する１８歳未満の子どもがいる世帯、妊娠中の方がいる世帯にお渡ししているカードで、岐阜県子育て家庭応援キャンペーン事業の参加店舗にて提示することで、割引やポイント加算などのサービスを受けることができるものです。

※２ぎふっこカードプラスとは
県内に在住する１８歳未満の子どもが３人以上いる世帯、３人目の子どもを妊娠中の方がいる世帯にお渡ししているカードで、ぎふっこカードのサービスに上乗せしたサービスなどを受けることができるものです。

【問16】　本県では、結婚を希望する方に出会いの場の情報を提供したり、婚活イベントやお見合いのサポートなどを行う「ぎふマリッジサポートセンター」※３を運営していますが、あなたは、この「ぎふマリッジサポートセンター」を知っていますか。
次の中から１つ選び〇印をつけてください。

１．名前・内容についてよく知っている
２．名前・内容について少しは知っている
３．聞いたことがあるが、内容までは知らない
４．全く知らなかった

※３ぎふマリッジサポートセンターとは
結婚に関する総合的な県の支援窓口で平成２７年８月に開設し、平成２９年５月からは、ＯＫＢふれあい会館２階に設置されています。無料で県内でのお見合いのサポート、婚活イベント情報の提供、独身者向けセミナーの開催など、出会いから成婚に至るまでの継続的な支援を実施しています。

【問 17】　民間事業者の行う結婚支援と比較して、県が運営する「ぎふマリッジサポートセンター」についてどのような印象を持ちますか。

項　　　目	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	関心がない
何となく安心感がある	1	2	3	4	5
イベントの企画・内容が充実	1	2	3	4	5
結婚できる可能性が高そう	1	2	3	4	5
サポート体制が充実	1	2	3	4	5
コストパフォーマンスがよい	1	2	3	4	5
良い人と出会えそうな気がする	1	2	3	4	5
誰でも気軽に登録しやすい	1	2	3	4	5
都市部に限らず各地でイベントを開催	1	2	3	4	5
地元の人と出会えそう	1	2	3	4	5
利用してみたい（利用を勧めたい）	1	2	3	4	5
県が運営することに意味がある	1	2	3	4	5

【問18】 本県では、毎月８のつく日を「早く家庭に帰る日」と定め、業務に支障のない人は早く家庭に帰り、家族との触れ合いや心身のリフレッシュに努めるよう取り組んでいます。あなたは、この「早く家庭に帰る日」を知っていますか。
次の中から１つ選び○印をつけてください。

１．内容についてよく知っている
２．内容について少しは知っている
３．聞いたことがあるが、内容までは知らない
４．全く知らなかった

【問19】 あなたの現在の仕事の状況についてお聞きします。
次の中から１つ選び○印をつけてください。

１．働いている（パートタイム・アルバイトを含む）
２．産前・産後休暇、育児休業中
３．結婚をきっかけに仕事を辞めた
４．出産をきっかけに仕事を辞めた
５．育児をきっかけに仕事を辞めた
６．結婚・出産・育児をきっかけに仕事を辞めたが、今は働いている
７．結婚・出産・育児以外の理由で仕事を辞めた
８．結婚・出産・育児以外の理由で仕事を辞めたが、今は働いている
９．これまでに働いたことがない
１０．現在、就学中である

【問20】 女性の結婚・出産後の働き方についてお聞きします。
女性の方は、結婚・出産後も働き続けたいと思いますか。また、男性の方はパートナーに結婚・出産後も働き続けてもらいたいと思いますか。
次の中から１つ選び○印をつけてください。

１．仕事を辞めることなく、働き続けたい
（仕事を辞めることなく、働き続けてもらいたい）
２．いったん仕事を辞めても、いずれは働きたい
（いったん仕事を辞めても、いずれは働いてもらいたい）
３．結婚・出産後は、働くつもりはない
（結婚・出産後は、働いてもらうつもりはない）

【問21】　あなたは、女性が子育てをしながら働く上で問題になっていることは何だと思いますか。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。

１．子育てに十分な時間をかけることができない
２．子育てを重視しながら働くことに上司や同僚の理解・協力が得られない
３．在宅勤務、短時間労働など柔軟な雇用条件が整備されていない
４．仕事と家事の両立が体力・時間的に難しい
５．仕事と育児の両立が体力・時間的に難しい
６．通勤時間が長い
７．昇給や昇進に不利である
８．休みがとりにくい、残業が多い
９．転勤がある
１０．子どもの病気などで急用が入ったとき、職場で柔軟な対応ができない
１１．子どもを預けられる保育所や認定こども園がない
１２．子どもを預けられる放課後児童クラブ（学童保育）がない
１３．保育所・認定こども園や放課後児童クラブ以外に子どもを預けられる施設がない
１４．子どもの病気の時や急な残業に対応してくれる保育サービスがない
１５．保育サービスにお金がかかる
１６．配偶者が家事・育児に参加しない
１７．家族（配偶者以外）の理解・協力が得られない
１８．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
１９．特に問題はない

【問22】　結婚、妊娠、出産、子育てなどに関して、気がついたことや考えていることがあれば教えてください。

○困っていること
○あるとよい支援・サービス
○ここが良いと感じているところ
○その他（ご自由にご意見をお願いいたします）

★質問は次ページからも続きます。

Ⅱ　仕事をしている方にお聞きします（仕事をしていない方は問２４にお進みくださ

【問23】　あなたの職場は、子育てをする人（男女問わず）にとって働きやすいと思いますか。
次の中から１つ選び〇印をつけてください。

１．そう思う
２．ややそう思う
３．あまりそう思わない
４．まったくそう思わない

【問23－②】　問23で「３（あまりそう思わない)」または「４（まったくそう思わない)」と答えた方にお聞きします。
働きにくいのは、何が原因だと思いますか。
あてはまる番号すべてに〇印をつけてください。

１．子育てを重視しながら働くことに上司や同僚の理解・協力が得られない
２．日常的に労働時間が長い
３．通勤時間が長い
４．始業・就業時間が固定的である
５．営業時間の制約（顧客対応や長時間開店など）がある
６．ひとりひとりの業務量が多い
７．有給休暇が取りづらい雰囲気がある
８．育児に関する休暇・休業がとりづらい雰囲気がある
９．育児支援制度の利用が昇進や昇給に不利である
１０．転勤がある
１１．職場で継続就業してキャリア形成している例がない
１２．子どもの病気などで急用が入ったとき、職場で柔軟な対応ができない
１３．復職にあたっての異動・配置の本人希望が通りにくい
１４．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

Ⅲ　子育てについてお聞きします（子どものいない方は問３１にお進みください)。

【問24】　あなたは、次の労働関連制度などを利用したことがありますか。
あてはまる番号すべてに〇印をつけてください。

１．育児休業制度
２．短時間勤務制度
３．フレックスタイム制度
４．所定外時間勤務の免除
５．在宅勤務
６．育児に関する費用の補助
７．勤務地の限定ないし指定
８．再雇用制度
９．子の看護休暇
１０．その他育児に関連した制度（　　　　　）
１１．いずれも利用したことがない

【問24－②】　問24で「１」と答えなかった方（育児休業を取得しなかった方）にお聞きします。
（「１」と答えた方は問25にお進みください）
育児休業を取得しなかったのはなぜですか。
あてはまる番号すべてに〇印をつけてください。

１．職場に育児休業制度がなかった
２．自分の仕事が忙しく同僚に迷惑がかかる
３．取得しにくい雰囲気が職場内にあった
４．育児休業の対象者ではなかった
５．取得すると収入が減る
６．制度を知らなかった
７．勤務評価に影響する
８．配偶者が取得したため、取得する必要がなかった
９．配偶者が子育てに協力してくれるため、取得する必要がなかった
１０．子どもを預かってくれる人（場所）があったため、取得する必要がなかった
１１．取得したいと思わなかった
１２．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【問25】　あなたとあなたの配偶者の子育てへの関わりは十分だと思いますか。
それぞれについて、あてはまる番号を１つ選び〇印をつけてください。
（配偶者のいらっしゃらない方は、あなたご自身についてのみお答えください）

	十分である	ある程度は十分である	あまり十分ではない	不十分である
あなた自身	1	2	3	4
配偶者	1	2	3	4

【問25－②】　問25で、あなたまたは配偶者が、「３（あまり十分でない）」または「４（不十分である）」と答えた方にお聞きします。
関わりが十分でないのは、何が原因だと思いますか。あてはまる番号すべてに○印をつけてください。
（配偶者のいらっしゃらない方は、あなたご自身についてのみお答えください）

	あなた	配偶者
１．仕事が忙しすぎるため	1	2
２．子どもの病気や行事などで気軽に休みが取れる職場でないため	1	2
３．趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にするため	1	2
４．子どものことや家庭のことにあまり関心がないため	1	2
５．子どもの世話を面倒だと考えているため	1	2
６．子育ての大切さを理解していないため	1	2
７．子どもとどう接したらよいかわからないため	1	2
８．子育てに関する知識や情報が乏しいため	1	2
９．子育ては女性がするべきものと考えているため	1	2
１０．その他（　　　　　　　　　　　　　）	1	2

【問26】　一人目の子どもが生まれてから、あなたや配偶者は働き方や日ごろの自分の時間の過ごし方が変わりましたか。あてはまる番号すべてに○印をつけてください。
（配偶者のいらっしゃらない方は、あなたご自身についてのみお答えください。）

＜日ごろの自分の時間の過ごし方＞

	あなた	配偶者
１．これまでと変わらない	1	2
２．友人との付き合い、趣味の活動時間を減らした	1	2
３．子どもに関係した友人との付き合い（ボランティア、ＰＴＡを含む）、新しい趣味の活動を始めた	1	2
４．子どもを含めて家族で楽しめることを始めた	1	2
５．子ども中心の生活とし、自分の時間はもたないようになった	1	2
６．家事をする時間が増えた	1	2

＜働き方＞

	あなた	配偶者
１．これまでと変わらない	1	2
２．労働時間を増やした	1	2
３．労働時間を減らした	1	2
４．勤務時間（フレックスタイムを含む）、勤務日を変えた	1	2
５．勤務地を変えた	1	2
６．正社員からパート・アルバイトに変えた	1	2
７．転職した	1	2
８．仕事を辞めた	1	2
９．元々仕事はしていなかった	1	2

【問27】　あなたの子どもを通じたご近所付き合いについて、お聞きします。
この中からあてはまる番号すべてに○印をつけてください。

１．子どもを預けられる人がいる
２．子どもをしかったり、注意してくれたりする人がいる
３．子どもを連れて家を行き来できる人がいる
４．子ども同士を遊ばせながら、立ち話をする程度の人がいる
５．子どもを連れて、一緒に遊びや旅行に出かける人がいる
６．子育ての悩みを相談できる人がいる
７．保育所や幼稚園の送り迎え、近所での買い物などの際に、あいさつをする程度の人がいる
８．子どもを通して関わっている人はいない

【問28】　あなたは、子育てに関して悩みを感じたことはありますか。
この中からあてはまる番号すべてに○印をつけてください。

１．子どものしつけ
２．子どもの健康
３．子どもの発育
４．勉強・進学・就職
５．いじめ・交友関係
６．非行・家庭内暴力
７．不登校・ひきこもり
８．子どもに行き過ぎた体罰を与えたことがある
９．育児放棄のようになったことがある
１０．出産や育児でうつ病になった時期がある
１１．わが子を虐待しているのではないかと、悩んだことがある
１２．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　）

【問29】　あなたは、次の子育てに関連する制度について、どのように思いますか。
あてはまるものを１つ選びそれぞれ○印をつけてください。

	利用したい（利用したかった）	利用している（利用した）	利用したいと思わない（利用したいと思わなかった）
１．事業所内保育所（企業が主として従業員用に運営する施設）	1	2	3
２．病児・病後児保育（病気や回復期にある子どもを預ける）	1	2	3
３．休日保育	1	2	3
４．一時預かり（入院等で一時的に子どもを預ける）	1	2	3
５．子育て世代包括支援センター（妊娠期から子育て期にわたる一貫した支援を実施）	1	2	3
６．ファミリー・サポート・センター（地域住民が子どもを預かる会員組織）	1	2	3
７．ベビーシッター等の保育サービス	1	2	3
８．児童館、子育て支援センター等（誰でも自由に利用できる憩・遊び・相談の場）	1	2	3
９．放課後児童クラブ（学童保育）	1	2	3

【問30】　小学校入学前（６歳まで）の育児について、あなたのご家庭の中で、夫が行っている（行っていた）項目は何ですか。また、その頻度はどれくらいですか。
男性はご自身の、女性は配偶者の状況に関して、それぞれの項目について最もあてはまる番号を１つ選び○印をつけてください。

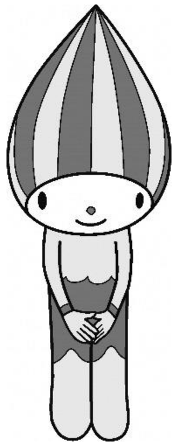
項　　目	頻度			
	週５日以上	週３～４日程度	週１～２日程度	ほとんどしない
１．食事の世話をする	1	2	3	4
２．おむつを取り替える	1	2	3	4
３．入浴させる	1	2	3	4
４．寝かしつける	1	2	3	4
５．家の中で、話や遊びをする	1	2	3	4
６．散歩など、屋外へ遊びに連れて行く	1	2	3	4
７．保育所・幼稚園等（日中預けている場所）の送り迎え	1	2	3	4
８．妻の悩みを聞く	1	2	3	4
９．妻の気持ちや考えを理解する	1	2	3	4
１０．その他（　　　　　　　　　　）	1	2	3	4

Ⅳ　独身の方にお聞きします（独身でない方は調査終了です）。

【問31】　自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどれですか。次の中から１つ選び○印をつけてください。

１．いずれ結婚するつもり（ある程度の年齢までには結婚するつもり）
２．いずれ結婚するつもり（理想の相手が見つかるまでは結婚しなくても構わない）
３．一生結婚するつもりはない

【問32】　現在、あなたが独身でいる理由を次の中から選ぶとすればどれですか。
ご自分に最もあてはまると思われる番号を３つ以内で選び○印をつけてください。

１．結婚するにはまだ若すぎるから
２．結婚する必要性を感じないから
３．今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから
４．今は、趣味や娯楽を楽しみたいから
５．独身の自由や気楽さを失いたくないから
６．適当な相手にまだめぐり会わないから
７．異性とうまく付き合えないから
８．経済的な余裕がないから
９．結婚生活のための住宅のめどが立たないから
１０．親や周囲が結婚に同意しない（だろう）から
１１．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
１２．すでに結婚が決まっている

以上で調査は終了です。
調査票を令和５年９月３０日までに同封の返信用封筒に入れ、ポストにご投函ください。
ご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。